

UFO・超能力・宇宙哲学

# UFO

SINCE 1961  
GAP-JAPAN NEWSLETTER



UFO・ESP・Cosmic Philosophy

コンタクティー

# contactee

AUTUMN  
1998

142

**金星人イエスの実像と出現の意義**

**ホワイトサンズUFO搭乗事件(4)**

**実用化された遠隔透視能力**

**異星人の壮大なスペース・プログラム**

**UFO目撃日記(4) 加藤純一**

**宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ(5)**





## CONTENTS &lt;Dedicated to Space Brothers and Cosmic Consciousness&gt;

|                              |                |
|------------------------------|----------------|
| 〈巻頭言〉 来世紀は宇宙時代               | 1              |
| <b>金星人イエスの実像と出現の意義</b>       | 久保田八郎 2        |
| 〈写真〉 聖墳墓教会の不思議な光跡            | // 6           |
| 〈写真〉 万国民教会でも奇妙な光跡            | // 7           |
| 高木伴幸のUFO世界                   | 高木 伴幸 8        |
| ホワイトサンズUFO搭乗事件(4)            | ダニエル・フライ 10    |
| 実用化された遠隔透視能力                 | 坂本 貢一 16       |
| 異星人の壮大なスペース・プログラム            | 平田 泰介 20       |
| GAP短信                        | 26             |
| 科学—SCIENCE—                  | 27             |
| 謎の男ウィリアムソン                   | ミツシエル・シルガー 30  |
| 埼玉支部第1回月例セミナー                | 会田 裕子 32       |
| 私が目標とする宇宙への道                 | 渡辺 康英 33       |
| UFO目撃日記(4)                   | 加藤 純一 34       |
| <b>宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ</b> | ジョージ・アダムスキー 38 |
| 盛況・奈良市の質疑応答会                 | 小原 明 44        |
| 日本GAP関西支部誕生!                 | 45             |
| 本誌バックナンバー主要記事目録              | 46             |
| 〈予告〉1998年度日本GAP総会            | 47             |
| 〈投稿欄〉ユーコン広場                  | 48             |
| 編集後記                         | 51             |
| 日本GAP全国月例セミナー案内              | 52             |

## GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について「知る」機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コスミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界（惑星）から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題に関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米・他の大国政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト（接触）しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

## 日本GAPへ入りませんか

●日本GAPはわが国最大のUFOと宇宙哲学の会員制団体です。会員は約1600名。世界でもトップクラスの研究集団として、国際的なUFO団体や個人研究家と交流を保っています。

●東京では毎月第1日曜日に港区東京タワー前の機械振興会館で月例セミナーを開催。わが国のUFOと宇宙哲学研究の大先駆者・久保田八郎会長の解説講演、超能力開発練習、UFOビデオ映写、その他を実施。宇宙的な波動のもとに真面目に研究し、品格のある楽しい雰囲気になっています。

●入会は中学生以上なら誰でもできます。下記へハガキで案内書をお申し込み下されば、お送りいたします。

〒133-0044 東京都江戸川区本一色1-12-1-511

日本GAP ☎03-3651-0958

## 〈表紙写真〉

1952年12月13日午前9時10分頃、米カリフォルニア州パロマー山のパロマーガーデンス台地で、ジョージ・アダムスキーが6インチ反射望遠鏡で撮影した金星の2〜3人乗りの円盤型スカウトシップ。直径約10メートル。巨大な田船に搭載されて飛来し、惑星に接近してから発射される。

©日本GAP



想像を絶する進化をとげており、完全に調和した天国のような理想世界を築いているというのである。詳細については新アダムスキー全集全一一巻を読まれたい。特に重要な情報を伝えているのは第一巻「第二惑星からの地球訪問者」と第五巻の「金星・土星探訪記」(中央アート出版社)である。これらはアダムスキーが直接異星人の世界に接触して見聞した体験記であって、これ以上の「良い意味における奇書」は世界にない。それは現代の知識レベルをはるかに超越した内容を有し、少

〈巻頭言〉

## 来世紀は 宇宙時代



近來UFO問題は一般に低迷しており、ブームとはほど遠い状態にある。しかしUFOは依然として出現しつつあり、これを目撃する人は後を絶たない。日本GAP内部の私の身近にいる人々もUFOをよく目撃するし、UFO目撃体験記の投稿が続いている。ジョージ・アダムスキーによれば、我らの太陽系には全部で一二個の惑星があり、そのいずれにも高度に進化した人類が存在して地球世界をはるかに凌駕する大文明が存在するという。この人々は精神的、肉体的にも我々の

なくとも一世紀先を行く超先駆的な書物である。ところがこれを嘲笑する人たちの言い分は「現在の科学レベルで考えられない荒唐無稽な物語」に尽きようだ。

いったい現段階の地球世界の科学が宇宙の森羅万象を解明し尽くすほどの水準に達しているのだろうか。これは科学者でない素人でも大体の見当はつかうというものである。しかも早くから金星を探索したNASA(米航空宇宙局)の発表によると金星の表面温度は摂氏四八〇度の灼熱地獄で生物は存在し得ないとされた。それを鵜呑みにして学校の教科書にまでそのことが記載されているので、学校を聖域視し、教科書や教師の教えを絶対視している生徒たちは文句なしに金星はただの物体であると思いつ込んでいた。これは教師や生徒側に過失があるのではない。NASAによる真相の隠蔽策に重大な責任があるのだ。なぜ隠すのか。

およそ政府レベルの科学的重大発見事が即時世界に流されると思っているわけではない。政治がからむと利権闘争や他国に対する思惑等で当分の間隠蔽策を講ずるのが常である。換言すれば米政府はとつきの昔に金星に大文明が存在することを知っていたが、表面ではそれを否定するような態度を示しているのだ。かつて民主党は大体に発表の姿勢を示していたけれども、タカ派の共和党は強硬な反対を示して暗闘に明

け暮れた形跡がある。昔アメリカを取材旅行中に聞いた話では、あるUFO研究家の所に官憲数名がやってきて、米政府は金星その他に進化した人類が存在することを知っているけれども、現段階ではそんな事は絶対に言えないのだと告白したという。

こうした政治レベルでの醜悪な権力闘争の世界は大衆の概念を超えているのであって、その実態を把握することなしに別な惑星の科学的な探索結果を無条件で発表するほどに政府というのは甘くないことを認識する必要がある。だいいち、今米政府が「我々の太陽系の別な惑星群には凄まじい大文明が存在する」などと発表しようものなら、世界はハチの巣をつついたような大騒ぎになり大戦争が発生しかねない。それは地球人類が平和希求の信念とはほど遠い恐怖心のトリコとなり、むしろ米政府に対する疑心暗鬼のかたまりになるからだ。したがって現状ではまだ米政府が真相を隠蔽するのが妥当であると思われるのである。

だが「隠されている事で洩れられないものはない」という譬えのとおり、いつかは米政府を主体にして太陽系の真相すなわちアダムスキーが伝えた真相を政府の名において公開するときは来るだろう。アダムスキーを心底から支持して別な惑星の真相を認識し、電磁気を主体にした重力場推進方式の宇宙船を開発しようとしたケネディー大

統領は事を急いだために暗殺の悲運に見舞われた。しかし緩慢ながらも社会は進歩するので、来世紀になれば地球人も大気圏外に目を向けて宇宙的な思想のもとに別な惑星群の真相を知るようになるだろう。

一説によれば西暦二〇二〇年頃には地球社会もUFOが別な惑星から来る宇宙船であることを常識として知るようになり、さらに来世紀半ばには地球人が他の惑星群を訪れて交歓するようになるという。そのときには時代遅れの噴射推進式ロケットではなくて電磁気を応用した画期的な大宇宙船が開発されるはずである。したがって希望はあるのであって、絶望は存在しない。

一つ問題がある。現段階において有名な物理学者たちがUFO問題や超能力等を否定する一方、全く無名の研究者や素人がこれらの問題に非常な関心を示す相違はどこにあるのかということだ。これはアダムスキーによれば、遠い過去世においてこれらの事を熟知していた人はその記憶を保っているからこそ今生においてすぐに理解するのであるという。この「過去世」という問題もまだ科学的に解決のつかない未知数の事柄のために、これを一蹴する向きが多いけれども、これもいずれは超高度な研究で解明される時が来るだろう。我々はまだ井蛙の管見のさなかにいるけれども失望は禁物である。勇気と希望をもって前進したい。(久)





## イエスは金星から転生してきた

有史以来最大の人物の一人とみなされるイエス・キリストに関しては新約聖書の記述が絶対視されて幻想に近いほどに神格化されているけれども、現実の生きた人間としてどのような姿態を示したのか。これにはきわめて興味深いものがある。

大体に彼はキリスト教という宗教団体を確立するために出現したのではなかった。ジョージ・アダムスキーによると、二千年前、彼は荒れ果てた地球世界を救うために超絶した進歩を遂げている惑星の金星から転生をとげて地球で生誕したのであるといい、この件

は新アダムスキー全集第一巻「第二惑星からの地球訪問者」の第二部「宇宙船の内部」に異星人の言葉としてきわめて重要な話が出ています。

一九五三年二月一八日に異星人からのテレパシーを感じたアダムスキーは、カリフォルニア州南部のパロマー山腹の住居からロサンジェルスへ引き寄せられるようにして行った。

(注)彼はオーシャンサイドからグレイハウンドバスで行ったと、むかし故アリス・ウエルズ女史がアダムスキーの家で筆者に語ってくれた。筆者もアリスを取材訪問後にこのバスでオーシャンサイドからロサンジェルスへ出たが、快適なドライブであった)。

その夜、火星人と土星人の男がアダムスキーのホテルへ来た。

(注)このホテルはロサンジェルス市中心部のヒルストリートにあったクラークホテルで、アダムスキーの常宿であった。現在は解体されている)

そして車で砂漠地帯へ連れ出し、そこで小型のスカウトシップ(注)数人乗りの小型円盤型宇宙船)に乗せて、

さらに超高空に滞空していた金星の大型母船に乗り移り、船内で金星人のマスター(指導者)に会って講話を聞いた後、金星人女性のカルナがイエスに関する重要な事柄を次のように伝えたのである。(同書二〇六頁。カルナというのはアダムスキーが付けた仮の名前)

「彼女がグラスをくばってから私は(アダムスキーは)言った。

「他の惑星から来て私たち地球人のなかで生活しておられる人たちのことですが——このようなことは長く行なわれてきたのですか?」

答えたのはカルナである。「たいそう大昔からです! そうですね、すくなくとも」と彼女は訂正した。

「過去二千年間はつづいています。地球人を助けるためにあなたの世界で生まれ変わるように送られてきたイエスのほりつけ以後、地球で生まれ変わるよりも関係者にもっと危険の少ない方法で使命を遂行するようにきめたのです。これは私たちの宇宙船の大発達に

よって可能になりました。肉体を持ったままで志願者をつれて来ることもできました。この人たちは使命を果たすために注意深く訓練されていて、個人の安全に関する教育を受けています。本人はけつして正体を洩らしません。ただし一定の目的をもってごく少数の人に洩らすことはありますが、あなたは(アダムスキーは)その一人です」

以上の記述によれば、イエスのもと金星人であって、転生(生まれ変わ)り)によつて地球のパレスティナの土地で一人を母体として誕生したということになる。事前に大天使ガブリエルのお告げによつて処女のマリヤが生んだことになっているが、これには謎が多く、極めて非現実的な童話的物語に近い。実際には現実の生臭い人間達の生活の渦巻きの真つただ中に生を享けた人間そのものであつて、父親を持つ出生の状態は現代のわれわれと同じだったはずである。

その彼が異様なまでに神格化されて人間界から隔絶した世界に置かれるよ

★久保田八郎 (日本GAP会長)

# 金星人イエスの実像と出現の意義





うになったのは、中世以来の聖書絶対主義のためである。

ところがここにイエスの実像を示す極めて興味深い資料が出てきたので、それを紹介がてら彼の実体を究めてみたいと思う。この資料はイギリスのアクスミンスター・ライト・センター主宰者で筆者の古くからの研究文通仲間であるパトリシア・フィンチ女史が今年三月末に送って下さったものである。

## ローマ皇帝ティベリウス

イエスの時代に絶大な権力国家であったローマ帝国がパレスティナの統治について重要な役割を演じているので、まずこれについて概観しよう。

この大帝国の歴史については有名なギボンの『ローマ帝国衰亡史』と題する膨大な著書があるが、それはさておいて、要約すればローマに王を頂く都市国家が成立したのは前六〇〇年頃である。一時期はエトルリア人に占領されたけれども、前五一〇年にローマの貴族はエトルリア人の王を追ひ払って共和制ローマを成立させた。この古代に共和制をしいたローマ人は政治的にすぐく進歩的であったといえよう。

その後、複雑きわまりない紆余曲折を経て、クレオパトラとのロマンスで名高い勇猛な武將で悲劇的な最期をとげたカエサル（シーザー）の愛顧を受けた騎士のオクタウィアヌスが前二九

年にローマに凱旋して元老院からアウグストウスの称号を受け、これが元首制の成立となり、やがてローマ帝政の創始とみなされた。

このアウグストウスの子がユリウス・クラディウス朝で君臨したけれども、次に帝位についたティベリウスの頃になると元老院との対立により調和を欠いた。このティベリウス帝の治世の頃にイエスが出現したのである。

なお、その後のローマ皇帝は習慣的にカエサルの称号を帯びることになった。

## ポンテオ・ピラトの素晴らしき報告書

イスラエルはダビデ王の子ソロモン王の繁栄を謳歌して以来、栄光は長続きしなかった。王国は二分されて北はイスラエル、首都はサマリアとなり、ダビデ王家は南のユダ王国に拠ったが、後に両国とも離散し、複雑な経緯をたどった後、ハスモン朝がローマのポンペイウスによって前六三年に廃絶されることになった。そして最後にはイエスに死刑を宣告した名高いピラトがローマから派遣されてユダヤ総督としてエルサレムに赴任してきた。

ポンティウス・ピラトウスというのはローマ帝国の国語であるラテン語名で、普通はポンテオ・ピラトと呼ばれる。彼はイエスの裁判を行なった重要

人物なのだが、彼自身に関しては詳細が伝えられていない。ユダヤ人に対しては高圧的な態度をとったが、イエスにはむしろ同情して無罪を考えていたらしい。しかし公開裁判において群衆が「殺せ」と叫び続けるので、やむを得ず死刑に処したということになっている。というのは、もし彼が無罪放免しようものならローマ皇帝によって彼自身が処罰されるかもしれない、それを恐れたからだと思われるのである。

ところが、彼がイエスに関してローマ皇帝に送った報告書がなんと現存しており、そのコピーが米議会図書館に保存されていたのである。以下、英訳文書の内容を紹介しよう。

## イエスの身体的特徴と性格の描写

「ティベリウス・カエサル皇帝陛下へ。自分自身をこの世へ遣わした神の名のもとに謙虚な情熱をもって新しい法則を説く一人の若い男がガリラヤに現われました。当初私は、彼の計画は人民をローマに対抗させようと煽動しているものと懸念しておりましたが、私の杞憂は消えました。ナザレのイエスはユダヤ人の友というよりもむしろローマ人の友人として話しております。

ある日私は、大勢の群衆の真ん中で樹木に寄りかかって静かに話している若い男を目撃しましたが、それはイエスであるということでした。これを私

はあやうく疑うところでした。というのは彼と群衆とのあいだに大差があったからであります。

その黄金色の髪と顎髭<sup>あごひげ</sup>によって彼は神々しい姿を呈しております。年齢は三〇歳ぐらいに見えました。これ以上に柔和で穏やかな容貌を見たことはありません。黒い顎髭を生やして黄褐色の皮膚をした群衆と彼とのあいだに、なんという大きな相違があることでしょう！

私の存在によってイエスの邪魔をすることを好まなかった私は、そのまま歩き続けましたが、秘書には群衆の中へ入って話を聴くようにと指示しました。

その後秘書が報告したところによりますと、あらゆる哲人たちの思想のなかで、イエスの教えに匹敵するものは全くないということでした。しかもイエスには煽動的反乱的な態度は全くないに従者が言いますから、私たちは彼に保護の手を差し伸べました。彼には人々に対して自由に行動したり、話しかけたり、集めたりさせておきました。この自由な立場がユダヤ人たちを怒らせたのです。貧乏人、金持ち、権力者らがみな怒ったのです。

## イエスの前で震えたピラト

その後、私は総督官邸で彼に会いたという書簡を送りましたが、彼は来



ました。そのナザレ人が姿を現わしたとき、私は朝の散歩をやっていました。彼と対面しましたときに、私の両足は大理石の歩道に鉄の鎖でつながれたように感じて、罪人のように全身が震えました。一方、相手は冷静なのです。

私はこの並外れた男に感服しながらしばらく立っていました。彼の態度には反抗的なものは何もなく、彼の性質もそうでしたが、それにもかかわらず私は彼の存在に畏怖の念をおぼえたのです。

『あなたの個性には人々を引き付けるような純粹さがあり、そのために今の時代の哲人たちが指導者たちよりも、あなたがはるかに重視されるのだ』

と私は彼に語りました。概して彼は私やあらゆる人に深い印象を与えましたが、これは彼の親切さ、純粹さ、謙虚さ、愛などのためです。

皇帝陛下。以上がナザレのイエスに関する事実であります。それで私はこの件に関して時間をかけて詳細に書くことに致しました。水をワインに変えたり、死人を生き返らせたり、病人を健康にしたり、嵐の海を静めたりすることができるといふ男は、いかなる犯罪者でもありません。そして人々が言うておりますように、真実この人は『神の子』であるということ、私たちが認める必要があります。

陛下の忠良なるしもべ

## イエスに関するもう一つの叙述

ポンティウス・ピラトゥス

まだある。次に紹介するのはプブリウス・レントルスという人によって書かれたもので、ティベリウスの治世下にユダの住人であった。これは一世紀にカンタベリーの聖アンセルムの文書の中で初めて発見されたものである。

「今このユダの時代に救世主イエスと呼ばれる非凡な美德をそなえた男がユダに住んでおります。異教徒たちは彼を預言者とみなしていますが、彼の信奉者たちは彼を不滅の神の子として愛し崇拜しています。

彼は墓場から死人を呼び戻したり、一言声をかけるか触るだけであらゆる種類の病人を癒したりします。

彼は背の高い人で、均整のとれた体格をしており、親切で崇高な顔をしています。彼の髪は似つかわしくないような色をしており、優雅なカールを見せて垂れ下がりが、波を打ちながら両肩に非常にこころよく届いています。それは頭の上で二つに分けられて、ナザレ人の流行にならって前面に水の流れるように落下しています。

彼の額は高く広くて堂々としており、両頬にしわなどはなく、優しい赤みを帯びた美しい顔です。彼の鼻と口は絶妙に均整がとれており、髪に似た色の

鬚髭は顎の下に垂れて、フォークのように真ん中で分かれています。

その眼は明るいブルーで、澄み切った目付きです。無邪気で品位を保っているように見え、男らしくて成熟した人です。

体の均整はほぼ完璧で魅力的です。彼の両腕と両手は見えて楽しいほどです。彼は威厳をもって叱責し、柔和に忠告します。彼の話しぶりは、言葉にせよ行為にせよ、雄弁で莊重です。

誰も彼が笑うのを見たことはありません。しかし彼の態度は極端に楽しそうです。しかし彼は人々の前でときどき泣いていました。かれは控え目で、慎み深く、賢明な人です。彼のように極端な美しさと完全さを求める人は、あらゆる意味で人の子たちを超えています。」

## 真実と虚偽のはざま

以上によってイエスの実態がかなり明確になったと思う。彼は宗教童話の主人公ではなく、れっきとした実在した人物であり、心身ともに比類なく均整のとれた超偉大な人物であったことは間違いない。ただ、彼の出生にまつわる謎はまだ解けない。いずれは宇宙情報によって真相が伝えられるかもしれない。

また、イエスに死刑を宣告したピラトはとかく悪人視されやすいけれども、

実際はイエスの言動に打たれた心の美しい人であった、というのが真実であろう。彼はパレスティナにおける失政の責任を問われてローマに帰還後、処刑されたとも自殺したとも伝えられているが、詳細は不明である。

イエスに関する物語で真実と虚偽の区別は困難である。新約のすべてが絶対に正確だとは言えない。かなりフィクショナルな面もあるだろう。しかしイエスの実在と彼の言動が二千年間も世界に巨大な影響を与えた事実を否定はできない。そこにはやはり人間の真実なる「何か」を揺り動かすパワーが潜んでいたと思われるのである。

ついでながら、新アダムスキー全集第一巻「第二惑星からの地球訪問者」第一部に、一九五二年一月二〇日、アダムスキーはカリフォルニア州南部の砂漠地帯デザートセンターに着陸した金星のスカウトシップ（円盤型小型宇宙船）から降り立った金星人の男性と劇的な会見をした様子が詳述してあり、アダムスキーはこの人を仮にオーソンと名づけているが、この人こそ二千年前にゴルゴタの丘で磔刑に処せられたイエスが元の金星人に転生した姿であり、アダムスキーは最後までイエスを救出しようとしたヨハネであったことを側近に洩らしたと筆者は聞いている。アダムスキーはこの件を書物には書かなかった。彼は膨大な知識と体験を秘したまま世を去ったらしい。



## ●イエスの肖像 ジョージ・アダムスキー画

1977年（昭和52年）8月、メキシコ市を訪れた筆者（久保田八郎）は、アダムスキーの高弟であったマリア・クリスティーナ・デ・ルエダ夫人宅を訪問した。夫君はメキシコの不動産業を営む大財閥で城のような大邸宅である。ここの2階の特別室に案内された筆者は、アダムスキーが描いてマリア夫人に贈与したというイエスの等身大に近い油絵の壁面を飾る大画面に圧倒された。画才のあったアダムスキーが渾身の力をこめて描いた力作である。大超能力者でもあったアダムスキーが、ある日過去世を透視していたとき、突然四角な窓枠に似た囲いの中にイエスが出現してアダムスキーを見つめたという。その記憶を元にして描いたのだとマリア夫人が説明してくれた。ふだんはこの絵は秘蔵されており、少数の特殊な人だけに見せていたと言いつ、日本人でこの絵を見たのは筆者だけだと語っていた。その後夫人は逝去したが、遺言によって絵のキャンパスははずして巻かれ、遺体とともに棺に入れて焼かれたという。

撮影／久保田八郎©



# Mysterious Lights At The Church Of The Holy Sepulchur In Jerusalem.

(November 23, 1997. Photo by Hachiro Kubota)



## ●聖墳墓教会の不思議な光跡

撮影／久保田八郎◎

1997年11月22日、日本GAP海外研修旅行団は「イスラエル聖地遺跡の旅」に成田を出発。23日には午前中オリーブ山に登り、天下の絶景として名高いエルサレム市街を眺望後、ユダヤ人の聖地「嘆きの壁」を見学し、ウィアドロローサ（悲しみの道）と呼ばれる狭い道路を通った。これはイエスが十字架を担がされて歩いた道といわれる約500メートルの通路。この果てにイエスを磔刑に処したゴルゴタの丘があり、その低い岩山を覆うようにして巨大な教会が建立されている。これこそ聖墳墓教会と呼ばれる建物で、全世界のキリスト教徒のメッカである。入口から入って階段を上がった2階にイエスの十字架が立てられていた場所が主祭壇となっており、その下に星型のマークが大理石床に描いてあって、その中心部の穴の下に十字架の柱の穴の跡が残る岩がある。手を突っ込むと、その岩に触ることができる。筆者（久保田八郎）がここへ来たのはこれで4度目だが、以前とは少し様変わりした光景を写真に2枚収めて後日現像に出したところ、1枚の写真に不思議な光跡が写っていた。秋山眞人氏によると、上方に横に流れる光跡は異星人の母船から発射された超小型のスキャニングディスクであり、数種類の奇妙な光跡はその影響で瞬間的に生じたものであるという。撮影時には全く見えなかったし、他の1枚は正常な写真であった。使用カメラはニコンFE 2、レンズはニッコール28〜70mmズーム。プロビア使用。ストロボはニコンスピードライト SB-23。



## Strange Lights At The Basilica Of The Agony In Jerusalem.

(November 23, 1997. Photo by Hachiro Kubota)



### ●万国民教会にも奇妙な光跡

撮影／久保田八郎◎

聖墳墓教会を出て一同はケデロンの谷をバスで渡り、オリーブ山麓のゲッセマネ庭園へ行った。ここはオリーブの巨木が何本か生えており、中にはイエス時代の木もあるのではないかといわれている。イエスは最後の晚餐を終えたあと、石段を降りて（この石段も現存する）ケデロンの谷を渡り、ゲッセマネの庭園で夜通し岩にすがって祈り続けた。このとき同行したペテロ達に目を覚ましておれと言ったにもかかわらず、彼らはだらしなく眠りこけていた。そして翌朝、大祭司カヤパの部下達がイエスを捕らえに来てイエスは激しい論争をしたあと、捕縛されてふたたびケデロンの谷を渡り、元の石段を登ってカヤパの官邸に連れ込まれた。現在はイエスが夜通しすがりついて祈ったという岩の上部を主祭壇にして教会が建てられている。これは世界中のキリスト教徒からの寄付によって建立されたので「万国民教会」と呼ばれている。筆者達が午後にごこへ入ったときにはミサが行なわれていた。以前よりも岩の頭が低くなっているように思われたが、造作をやり直したらしい（写真の中央祭壇前の四角な部分）。このとき筆者はまたも写真を2枚撮ったが、帰国後現像に出したら、その内の1枚に奇妙な光跡が写っていた。秋山氏によると、これもスキャニングディスクのなせるわざであるという。撮影データはすべて右の写真と同じ。ストロボの発光時間は約千分の一秒であるから、その間に出現した光跡は全く不可視なものであった。



# 高木伴幸のUFO世界

日本 GAP 会員の高木氏（和歌山県・28歳・医師）は関西地区黎明会の有力メンバーで一種の「UFO 男」。頻繁に UFO を撮影する人。ここに掲載したのはその一部。特殊なカルマを持つ人物なのか。秋山眞人氏によれば、これらの写真はすべて本物だという。今後を大いに期待したい。

〈写真右〉 撮影者が小学生の頃（1981年頃）家族4人で旅行に出かけた。カメラを趣味とするお父さんが「トモユキも写真撮ってめーへんか？」とオリンパス OM-1 を貸してくれたので、おもしろ半分にいろいろな風景を撮影していた。そのうちに日が暮れかかってきたので、150mmのズームをきかせて車の中から風景を撮った。後日現像に出したら、UFO らしい物が写っているのを見て驚いた。小さい頃から天文学に興味があって本屋の天文学のコーナーでアダムスキー型円盤の写真を見たことがあり、それ以来 UFO を見たいという気持ちが潜んでいたのだろうし、それが実現したのかもしれないという。この写真では手前の二番目の山の左中腹に、もう一つの黒い UFO が写っているのが見える。この2機とも本物の UFO だと秋山氏は言っている。こうして高木氏のアルバムには UFO 写真がふえていった。



これは大阪支部月例会のあと一同で UFO 観測を行なって呼びかけをしているときに撮ったもの。左上の物体には現像後に気づいた。

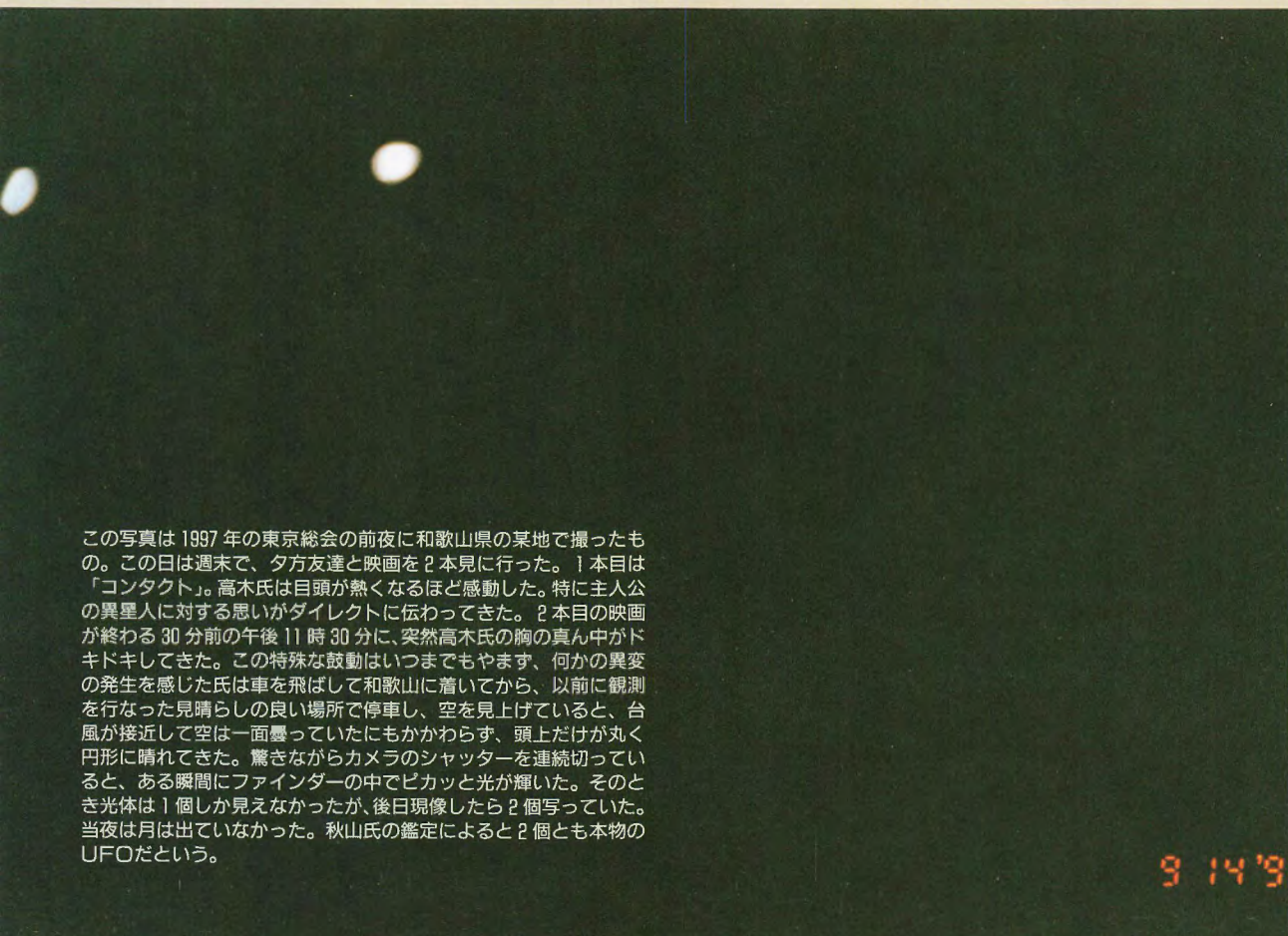
7.21'96





これも大阪支部月例会後に撮ったもの。撮影時には気づかなかった。

10 20 '96



この写真は1997年の東京総会の前夜に和歌山県の某地で撮ったもの。この日は週末で、夕方友達と映画を2本見に行った。1本目は「コンタクト」。高木氏は目頭が熱くなるほど感動した。特に主人公の異星人に対する思いがダイレクトに伝わってきた。2本目の映画が終わる30分前の午後11時30分に、突然高木氏の胸の真ん中がドキドキしてきた。この特殊な鼓動はいつまでもやまず、何かの異変の発生を感じた氏は車を飛ばして和歌山に着いてから、以前に観測を行なった見晴らしの良い場所で停車し、空を見上げていると、台風が接近して空は一面曇っていたにもかかわらず、頭上だけが丸く円形に晴れてきた。驚きながらカメラのシャッターを連続切っていると、ある瞬間にファインダーの中でピカッと光が輝いた。そのとき光体は1個しか見えなかったが、後日現像したら2個写っていた。当夜は月は出ていなかった。秋山氏の鑑定によると2個とも本物のUFOだという。

9 14 '9



UFO Pick-Up At White Sands  
by Daniel Fry/Translated by Hachiro Kubota

# ホワイトサンズUFO搭乗事件(4)

ダニエル・フライ／久保田八郎訳

〈前回までのあらまし〉

一九五〇年七月四日の夜、米ニューメキシコ州ホワイトサンズのロケット実験場で技師として活動していたダニエル・フライは、暑さに耐えかねて砂漠地帯へ散歩に出かけたとき、突然空中から不思議な円形の物体が眼前に降下して着陸した。驚いている彼の耳にどこからともなく人間の声が響いて、地球の科学の誤りその他について英語で説明し始めた。フライは茫然として聞くのみ。この物体は別な太陽系の惑星から来た宇宙船らしい。やがて彼はそれに乗ることをすすめられて、信じられないような超高速でニューヨークを目指して無音で飛行したのである。この物語は実際に発生した驚異的事件として世界のUFO研究界にショックを与えた。この記事は生前に彼から著作権を与えられた訳者による連載の第四回目である。

## 樹木とへびのマーク

「そうです」と私は答えて「いくぶんか読書したことのある人間なら、この



イラスト 池田雅行



樹木とヘビのマークに気づくでしょう。こいつは地球のあらゆる民族の昔の碑銘や伝説などに見られるものです。私にはいつも地球の特殊なシンボルのように思われていたんだが、宇宙の彼方から出現したのを見て驚きましたよ」

「それはこの次のコンタクトまでおあずけにしようと思っていた事です」とアランがいう。「話したいことが沢山あるんだが時間がない。我々の先祖は元この地球から来たんです。先祖はあなたがたの伝説でいつているミューまたはレムリアという大陸で大帝國と偉大な科学を築き上げた。同時に、アトランティス大陸にも大帝國があつた。

彼らは科学的に対立していたのです。最初は友好的だったが、時代とともに仲が悪くなつて、両國は相手に対していろいろな業績を誇示し合うようになった。数世紀たつてから彼らの科学は今地球に存在する科学水準を凌駕してしまつた。わずかばかりの原子エネルギーを解放するだけではあきたらず——これは今地球の科学者がやっていることなんですがね——彼らはエネルギー軸を中心に全質量を回転させることを知つた。こうした状況下では二つの大陸が結局互いに破壊し合うことは当然です。今日の地球の二大國がやろうとしているようにね。

しかしこの話は我々が帰つて来るまでおあずけにしましょう。もう時間が過ぎてしまつた。母船を現位置に静止

させるにはかなりのエネルギーを必要とします。しかも貨物船（フライの乗っている円盤）を見捨てるわけにはゆかない。それは地上にいる。だからドアを開くことにします。じゃ、さよなら、ダン。我々が帰つて来るまでお大事に」

\* \*

夢遊病者のように私は円盤の床から降りた。そして砂の中を十数歩よろめきながら歩いて、うしろを振り返つた。ドアはすでに閉じられて、振り向いたとき、船体の中央部あたりに水平な一すじのオレンジ色の光が現われ、それがカタパルトから発射されたように上方へ飛び上がった。上方へ吹き出された空気を入れ替えるために吸い込まれてくる空気では一歩前へ押されて、危うく体のバランスを失うところだつた。光のすじがスペクトルのオレンジから紫まで変化するあいだ私はかろうじて円盤の方に目を向け続けた。このときまでには円盤は空中数千メートル高く上昇しており、光が紫色でなくなつたとき視界から完全に消えてしまつた。

ひどくがつくりとした感じが全身にわき起こつてきた。自分の仕事や人生の意義がすべて失われたような気がする。数時間前まで私は世界最大のロケット用計装を装備する自己満足的技術屋であつた。その計画の中の私の仕事は、一小部分にすぎないことがわかつ

ていたにもかかわらず、まるで自分が少なくとも進歩の先端を切つているように思つていた。しかし今やロケットのモーターが衰へた時代遅れであることを知つたのである。私は間の抜けた幼稚な科学のなかのちっぽけな無意味

## 第二部 異星人アランのメッセージ

「地球の人々へのメッセージ」は一九五〇年七月四日、ニューメキシコ州のラスクルーセスの近くのホワイトサンズ・ロケット実験場に始まつた異常な訪問の話である。

一般の読者には信じてもらへるとは期待できないが、その出来事の歴史的な記録である。かりにこれがフィクションと考えられたとしても、この本は幻想的な読み物であり、主題を理解するのには十分役に立つので、読者が信じようと努力する必要はない。

これは新しい本ではなく、最初の報告は一九五四年に「ホワイトサンズ事件」として出版されている。それ以来、英文では一八版になつており、九カ国語に訳されている。これらはすべてほとんど同時になされたがそれを広めるのに著者も発行者も何らの努力もしなかつた。決してベストセラーではないが毎年この本に対する要望が続いて版を重ねている。ベストセラーにはならないが読者が決してなくなるらないで数

な歯車の歯にすぎない。その科学はそれ自体の破壊の方向に進んでいるだけである。長いあいだ私は砂の中に立つて乱れたヤブのはびこつた地面から星々を見つめていた。

十年のあいだ続く永遠の本の一つになつたようだ。この本に現われた科学的概念のいくつかが今日のものになつているとしたら、読者はこの本が二〇年以上前に書かれたことを思い出してほしい。

### 地球は大昔から宇宙船によつて観察されていた

測りしれなく遠い惑星間の空間から一台の遠距離宇宙船が地球に接近しつゝあつた。やわらかく照明された休憩室に、宇宙旅行者と思われる二人の若い男女が小さな会議机をはさんでお互いに向かい合つて座つていた。二人の間の壁には沈黙したビデオスクリーンがあり、それを作動させる電子パルスを保つていた。若い女性が話をしていった。

「私たちの出発前にあなたに説明する時間がなかつたことは申し訳ないと思つています。でも、このことは本質的なこととは考えられません。というの



は、今回の使命と多くの入り組んだ問題についての完全な説明をする時間は充分あるからです。このような勉強のために必要な映像および音声データを積んでいます。この資料は単純でしかも順序だつて提供するために注意深く編集されています」

そのとき女性がすぐ飛び出て、完全に渦巻の銀河系を写しだしているビデオスクリーンの底部にある操作装置に触れると、渦巻の翼の一つが視野一杯になるまで銀河系はスクリーン上で急速に接近した。その間に、女性の声が続いた。

「あなたも知っているように、私たちが接近しつつある太陽系は私たちの銀河系の、この渦巻の翼の内側に位置しています。地球自体は百世代以上の間、それを通過する銀河連邦政府の宇宙船によつて、ときおり観察されており、以前に作られた記録がいくつかあります。その惑星は、そこで発達している私たちに似た人間状の生命をもつ民族がいるので私たちの人類学者の何人かにとつては特に興味のあるものでした。過去の幾世代かの間に、私たちの宇宙船はそのコースがその惑星の観測範囲内にあるときにはいつも追加の記録を作成し、より多くのデータを集めてきました。私たちの現在の観測技術によれば、もちろん、彼らの太陽系内のどこでもが観測範囲にあります。」

若い女性が語り続けている間に、ビ

デオスクリーンは彼女が説明するとおりにその惑星の各面を描写していた。「私たちは全データのほんの一部しかもつてきていませんが、連邦政府の本部図書館には地球の大気、水、土のサンプルはもちろん一千観察時間以上の映像および音声記録があることを私は知っています。多くの大胆な探検家の何人かによる短時間の着陸によつて得た美術品さえいくつかあります。」

この地球の表面の約七一パーセントは、かなりの深さまで水によつておおわれています。この事（水におおわれている事）は、陸地を制限している一方、連続的な蒸発と凝縮によつて、ほとんどの動物と植物が必要とする十分な水を供給しています。この状況は水中と陸上の両方における生命体の進化のために理想的なものです。あなたが見ようと思えば、そこには無数の生きものが発見されるでしょう。

この地球を最初に大規模な観測をして、あたかも自然のごとく見え、気まぐれなムードにあるようだと報告書で述べている社会研究パトリックグループはこの惑星を、そこで有機体分子、原型質細胞を想像できるパターンと、結果として起こってくると思われる組み合わせにそれらを結合させるために実験所として選びました。現在の生物研究家グループの間では、この多種多様な形を作り出したのは自然でも偶然でもなかったという疑問が生じてきて

います。

連邦に知られていない、いくつかの進んだ人類がこの地球を実証地として使用したかもしれない、また地球上で現在発見される生命体（複数）は、いくつかの長期研究プログラムの一部として開発され、植えつけられたというのが彼らの理論です。進化によるか移住によるかは別として、適当な環境をもつ惑星（複数）のほとんどにおいて、種々の進化段階で、人間状のものが起こるべくして現われてきました。

この特別な惑星の特筆すべき事実の一つはその初期の発達段階におけるすべての段階の人間状種族が同時にそこで発見できることです。弓矢も持たず、道具や武器は依然として石でできている種族（複数）があり、同じ時期に原子核からのエネルギーの解放を制御して使用することも含めた相当の技術レベルに達した別の種族もあります。あなたも知っているとおりの、人類の進化においてこの二つの点は数百世代も離れているのが一般的ですが、地球上ではその両方が同時に、しかも隣りあつて存在しているのです。

ほとんどの原始的種族は事実上、進んだ種族の知識は何ももっていないが、進んだ種族は原始的種族の存在と状態をよく知っています。進んだ種族は今や、惑星のどこにでも飛んで行ける航空機を持っており、彼らがそうしようと思えば原始的な種族の発展に容易に

援助することができそうです。しかしながら、進んだ種族が自分で創り出した多くの危険な問題を調べると、おそらく彼らはそれをしなないと思われでしょう。彼らはむしろ強力な技術的な直感を持ち、自分の技術的な偉業に對してかなりの誇りをもっているにもかかわらず、科学的知識と根本的な英知との区別ができていないように思われます。どの種族においても明らかに後者（英知）はほんの少ししか存在していません。

## 主義を押しつける指導者たち

彼らの思想家たちが論理の長所を自己宣伝している一方、人々と政府は本能と衝動によつて動機づけられています。人々のほとんどは、自分たちのほとんどだれもが実際に実行しないようなある種の高い理想や原理やらに口先だけの奉仕をしています。彼らは自分たちの信仰のシンボルとして美しい構造物や美術品を創り出していますが、彼らの信仰を日常生活の導きのために応用することを学んだ人は非常に少ないのです。彼らの精神的向上心（複数）は彼らの進歩を物質的に顕現するというよりむしろ霊的な顕現を残しています。たとえば、彼らがどんな科学の基礎として要求される、最も初歩的な規則や法則を決定したり証明したりするために定義をしたり、計画した



## ●カナダ、オンタリオ州の UFO



1973年6月のある日、ある村の田舎家の裏庭に立っていた写真家が（匿名）無音で低く接近する不思議な物体を発見。すぐにカメラを取り出して連続7枚の写真を撮影した。これはそのうちの1枚。やがて物体は飛び去った。

©日本 GAP

試みをしていなかったとしても、彼らが「社会科学」という言葉で述べているものを進歩させる試みにかなり多くの時間と努力を費やしています。彼らの指導者たちのほとんどは、自分たちが続いてくる人々に対して人々のとるべき態度と行動に関する自分たちの主義を公式化しがちです。これらの主義の各々は、それが公開されたときには、続いてくる人々をひきつけるでしょう。いくつの場合には信奉者は少ないかもしれませんが、他の場合には国家群または種族群全体が熱烈でしかも敬けんな信奉者となるかもしれません。各々の指導者に続く人々は、そのメリットを調べたり証明したりするよりも、その教義の審美的だったり感動的だったりする訴えのために最初はそうのように信奉していきます。

どの時代でも、そのようにして常に変化し、多かれ少なかれ、でたらめに連続した社会的経験は、彼らの社会的地位や政治力が周囲の人々、国家、種族の思想と行動とに影響を与えることができるような指導者たちによって指揮されてきています。これらの社会的経験のいくつかは、部分的に成功しましたが、大半は完全に失敗しました。そのいくつかは全種族の人々に恐ろしい悲劇と破壊をもたらしました。さらに、これらの社会的経験は成功したものも失敗したものも人間関係の科学に有意義な貢献をしたものは一つもあり

ません。その理由は、相互に受け入れられた真実(複数)、あるいは平等な信頼を基礎として計画されたり、その上に築きあげられたものがなかったからです。相互に受け入れられ、証明された根本原理の基礎が確立されるまでは、彼らの社会技術は決して社会科学にはなりません。これは、あなたが必要な生物学的調節に成功し、地球の住人になったならば、あなたにまかされる仕事の一つですが、おわかりのとおり、そのためにはいくぶん長い準備が必要です。数多くの乗り越えなければならぬ障害と直面する多くの危険があります。私たちは最初の仕事を完了した後で、この事について詳細に相談をしましょう。

地球の進化した種族のほとんどがお互いの間に、かなりの段階の条理にあわぬ現象を示しています。全く同じ程度の知識と能力をもつ人々の間にも社会的地位や生活水準にかなり広い違いが存在しています。彼らの社会と経済のシステムは恐ろしいほどに競争的であり、この競争でリードしている人たちは一般に私たちの最も近代的な宇宙船にさえほとんど見ることができないほどのぜいたく品を持っています。時勢の流れに遅れないように必死のものがきでやっと自分たちを保持しているような人々は、もっと控え目で一般的な満足基準をもっています。一方では、競争で押しのけられた人々は、自分の

真価や可能性にもかまわずに自分がよいと思う生活をなんとか続けていくためにいつもとり残されています。

技術が今や彼らの存続を危うくするようないくつもの非常に重大な問題を生み出しているとしても、技術のすべての局面での進歩はほとんど熱狂主義によって打ちひしがれています。

彼らの製造と廃棄のプロセスは、結局彼らの食物の内容のほとんどを頼っている大気、地表、巨大な大洋さえも含めて、すべてを急激に汚染しつつある結果として生態学上の正常なサイクルを無視し、または故意に中断しています。絶えまなく増加する人口は比較的少ない陸地面によって養われることができないほどに大きくなっているのです。鳥たちでさえも、地球人が今自分の住み家を汚しているほどにひどく自分たちの巣を汚しはしません。この傾向が逆転されないならば、地球人は自分の惑星という巣を、準備もできないうちに、永久に去らなければならぬことになるでしょう。

殺すという本能がこの惑星のすべての種族に依然として非常に強く残っており、彼らの兼ね備えている創造力と技術的資源のほとんど半分は、一つあるいは他の方法でお互いを威かくしたり殺したりするために、より早くてより効率的な道具を開発したり製造したりすることに捧げられています。各々の世代で、少なくとも一度は、各々の

国家が一つあるいはそれ以上の他の国家との武力闘争に入るための理由を見つけています。お互いの国家が他を征服したり破壊したりしようと固く決心し、彼らの心がその観念をいだき、彼らの技術が創り出すことができる道具やシステムが、この愚かな目的を助長するのにいるような方法で使われるのです。これらの周期的な悲劇的で愚かな行為は、百世代以上も昔に私たちの先祖の観測が始まって以来、部族、種族、国家のどの段階でも、ほとんど慣例的に行なわれてきています。

指導者たちはこれらの共通した大量殺りく行為をいろいろな方法で正当化しようと試みています。彼らは自分自身を納得させる努力をし、自分を犠牲にして、感情と野生と強欲からきた彼らの恐ろしい破壊行為が、実は最も高い理想と原理によって動機づけられたものであるとする本当におかしな道徳的、思想的訓練という偉業をなしとげました。

## 地球は救われるべきか否か

五つの主要国家が原子核からのエネルギーの無制御の解放という仕事を始めました。そのうち二つの国家はこれに成功し、他の国も間もなく成功するでしょう。成功した最初の国家は、すぐに大量破壊の武器として、この新しい能力を使用しました。もしも次の大



戦がおこり、これらの武器が使用されるならば、その結果は達成された全技術の破壊であり、社会秩序の喪失であり、地球全体の大多数の人々の死であるということが私たちの社会研究グループには明白でした。

社会奉仕委員会のメンバーの中で、この文明は救われるべきか否か、また救われるだけの価値が本当にあるか否かについて長い論争がありました。何人かは、私たちは単にその状況を無視し、自然にその方向をまかせるべきだと提案しました。とにかく、国家と人々が自分たち自身を破壊しようときめたのだから、自分たちの目的をはたすまで、彼らに思うとおりさせるのがおそらく適当だろうとも指摘されました。

他のメンバーが、この人種はすでに宇宙に出て行く用意をしており、自分自身を破壊する前に、独力で無制限の宇宙旅行を達成したとするならば、恐ろしいほどのエゴとゆがんだ思想をもって宇宙旅行をするわずかの生き残りが、おそらく、他の人種と連邦のメンバーにとって本当の恐怖となるだろうということを思い出させました。地球自身が完全に浄化されるまで私たちがこの惑星を検疫、隔離してもよいとさえ示唆されました。

私たちはこれらの批評になるほどとうなずきましたが、私たちのすべてが間違った方向で地球を知っていました

のでその知識は少しばかり私たちを驚かししました。私たちが観測し、議論してきた地球人類のエゴ思想はそれを観測することによって、かんたんに私たちが感染してしまうほどに伝染性がありうるのでしょうか。私たちは心の中で、過去において、私たちや私たちの先祖が真の文明化への途上で援助してきた一二種族よりも、この人類は悪くはないということを知っています」

注意深く考えていた姿勢から、若い男性が頭を上げ、初めて語り出した。「地球の人々の通信の方法と大体の知識が、記録が示しているものからはるかに進歩しているとするならば、確かに彼らの多くは自分がやろうとしていることの避けがたい結果を理解しているに違いありません。」

若い女性はかすかに口をゆがめて笑って答えた。

「もちろん彼らは理解していますし、大変関心をもっています。各人は、あまりお金がかからず、しかもだれにも迷惑をかけないような救済策を見つけていることを隣人や国家に対して期待しています。一方では、一人一人は、自分の運命は他のものの怠惰の結果であると不平を言いながらも、共通の墓に向かつてひとまとめになって動いています。」

惑星たちがそうであるように、この地球は非常に美しい惑星の一つです。それは、かつて私たちがどんな惑星上

でも発見したような進化した生命体の発達に最も理想的な条件をもっています。この太陽系は、この銀河系で創られた最後の方の一つであり、もちろん地球もまだ非常に若いのです。自分たちの誕生惑星に、依然として住んでいる人類の生活様式を学ぶときには常にいくらかの郷愁の念が存在します。厳密に原始的な方法においては、犠牲を求める闘争がすべての生活の基本的な実体であるために、私たちの生活以上にそれで満ちているようです。私たちの生活では、闘争などは非常に少なく、犠牲はもろんのことです。私たちの宇宙船では、食物の製造と分配は自動的でしかもまかせっぱなしになっています。温度と湿度は常に適正レベルに保持され、重力でさえも必要な慣性力に調整できるのです。

地球に住む人は、いろいろな点で広く変わった経験を持ち、宇宙や宇宙船内ではできない自然の美しさを楽しむことも可能です。海岸に打ちくだける大洋の波の光景や地球上の夕日の色などは、私たちにとっては、長期間計器の一つを使って観測するとき以外は未知のものです。

## 人工惑星の必要性

しかしながら、地球の居住者は彼らの少しばかりの利益のために、高価な代償を払わなければなりません。特に

若くて比較的不安定なこの地球上では、自然は非常に気まぐれな状態にあります。表面はほとんど警告もなく噴火し、溶岩と燃える灰と毒性のガスを吐き出します。町全体がうずめられ、数千人の人々がこれらの破壊的な自然の現象によって生活を失っています。地球では、これを彼らの昔の火の神の一人であるバルカンにちなんで火山と呼んでいます。

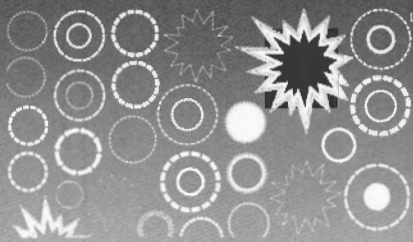
異常な大雨が降るときには、陸上に非常に大量の水がたまり、海に向かって突進し、河川の堤防を越え、通路や低い土地を一掃します。このような氾濫は多くの家や建物を流し、しばしば広い地域を壊滅させてしまいます。

地震は断層と呼ばれる表面の岩石層にある恐ろしい亀裂に沿って建てられたりその上に建設された町にとつてはいつも存在している危険状態なのです。この亀裂の両側にある岩石層はこの亀裂に沿って反対方向に動く傾向があります。圧力は岩石がその力をもはや支えることができなくなるまで蓄積され、突然にすべりが起こります。このすべりが建物を粉砕し、壊滅を開始する多くの火事を引き起こし、あの烈しい振動運動を引き起こすのです。地球の町の住人たちが、不要な火を制するためには普通に使っている圧力水システムはしばしばこの振動によって引き裂かれ、気づかずに燃えだす火によって町の大半が消滅してしまいます。(以下次号)

# 実用化された遠隔透視能力

Remote Viewing Is In Practical Use  
by Koichi Sakamoto

★坂本貢一



アメリカでは超能力がすでに実用段階にはいつている！

## リモート・ビューイングとは？

米カリフォルニア州ビバリーヒルズに、「サイテック (PSI TECH)」という名の会社（一九九八年創業）がある。同社の業務は、「リモート・ビューイング (Remote Viewing)」を通じて入手した情報を提供すること、および、リ

モート・ビューイングのテクニックを教えること」だという。

ところで、その「リモート・ビューイング」とは何なのだろうか。近年米国で大きな注目を集めている言葉だが、日本語に訳すと「遠隔透視」である。「遠隔透視」を意味する言葉としては、古来「クレアボヤンス (clairvoyance)」が用いられてきたが、彼らはなぜわざわざ「リモート・ビューイング」という言葉を用いているのだろうか。

実はこの言葉は、そもそも、米国第二のシンクタンクとして知られるスタンフォード研究所 (SRI) のレーザー物理学者、ハル・プトホフ博士が造り出したものなのだ。

プトホフ博士は、一九七二年、二名の超能力者とともに超常現象の研究を開始したが、間もなく彼らの能力が本物であることを突き止めた。中でも、彼らの遠隔透視能力は絶妙だった。そこで博士は、その極めて現実的な能力をもっと妥当な名前で呼びたいと思うようになった。「クレアボヤンス」という言葉は霊媒や占い師などを連想させ、どうしてもインチキ臭さがつきまとう。そこで彼が考えた末にたどり着いた名前が、より科学的な香りを漂わせる「リモート・ビューイング」だったというわけである。略称をRVという。これは別なRV（多目的レジャー車）と混同しやすいので要注意だ。

## サイテック社の驚くべき業績

遠隔透視を事業にして成り立っている会社がある。日本では考えられないことだが、それが現実なのだ。もはや、超能力が存在するしないの議論をしている時代などではないのである。米国には、他にも同じような業務を行なっている会社が、私が見ただけでも数社はある。

ただ、サイテック社はその中でも特別な存在である。とにかくその業績が驚くべき内容なのだ。

サイテック社は、常時数名のリモート・ビューアー（透視超能力者）を抱えている。そして、客の要請に応じて、離れた場所にあるターゲット（調査対象物）過去、現在、未来の出来事、状況、社会情勢、建物、場所、人の心、その他、あらゆるものが対象となる）を透視し、その情報を販売しているわけだが、まず驚かされるのは彼らの顧客リストである。その中には、民間の個人や企業に混じって、公的研究機関、医療機関、さらには、複数の国の政府機関や国連までが含まれているのである！

彼らが一躍メディアの注目を集めたのは、一九九一年に発生した湾岸戦争中に、国連の依頼でイラクの生物兵器の隠し場所を突き止めたときだった。その事実、一九九一年十一月十九日

付のワシントンポスト紙に「国連、超能力会社の援助で、イラクの秘密兵器庫を発見」という見出しで大きく報じられた。同じ時期にNSC（国家安全保障会議）が彼らに、サダム・フセインに関する極秘情報の収集を依頼したことも知られている。

さらに、ごく最近の例では、今年（一九九八年）の三月上旬、ホワイトハウスの依頼で、イラクの秘密生物兵器工場の場所を突きとめてもいるという。ホワイトハウスが認めるか否かは不明だが、それに関するホワイトハウス宛の報告書がインターネット上で公開されている。その報告書には、「イラクはモスルの北西部、ズマー近郊の、チグルス川沿いの窒素肥料工場内に大規模な生物兵器工場を隠している」と明記され、その場所の詳細な地図が添付されている。

その他、サイテック社がこれまでに請け負ってきた主な仕事は、以下のようなものである。

●TWA機爆発事故（一九九六年七月、大西洋上空で発生）の原因究明。

●国家運輸全委員会の依頼で、同年一〇月七日に最終報告書を提出。テロリスト犯行説が流れていたが、サイテック社は、エンジン部分の故障が原因で燃料タンクに引火したと報告。間もなく、調査に当たっていたFBIが全く同じ内容の調査結果を発表。●イルカ大量座礁（一九九八年一月、



大西洋上タートルアイランド付近で発生」の原因究明。

ベネズエラ環境庁の依頼。ある種の寄生中が原因と判明。

●サダム・フセインの今後の動向予測。中東の石油価格の動向に強い関心を持つある大企業からの依頼。

●水素エンジン自動車の研究開発状況を調査。

米国のある大手自動車会社の依頼。北米、日本、フランス、中国、ドイツ、ロシアにおける水素エンジン車の開発状況を透視。エンジンの設計から部品の特徴に至るまでの詳細な情報を提供。

●月資源利用に関わる未来テクノロジーの透視。

大手機械工業会社の依頼。月面で将来行なわれるであろう資源の探掘と利用のプロセスを、スケッチを交えて報告。

以上のような情報提供サービスに加えて、サイテック社では、リモート・ビューイング(RV)の開発法を希望者に伝授している。同社の創立者であり、今も社長を務めるエド・デームズによれば、そのテクニクを学ぶことで、いわゆる超能力者ではない「普通の人間」でも、RVを見事に行なえるようになるという。同社では、そのテクニクを教えるビデオテープ・プログラムを販売するとともに、希望者に直接そのテクニクを教える九日間プ

ログラムも提供している。デームズによれば、特にその九日間プログラムを体験することで、誰もが100パーセント遠隔透視を行なえるようになるという。

## エド・デームズとは何者か

さて、そんな会社を創ったエド・デームズとは、いったいどんな人間なのだろう。今年(一九九八年)七月発行のライフ誌の記事の中では、「この国で最も有名なリモート・ビューイング指導者」として紹介されている。ちなみに、デームズ自身もリモート・ビューアーであり、いま話題の『ゴズミック・ヴォエージ』の著者コートニー・ブラウンは、彼から直接RVのテクニクを学んで宇宙を透視したという。

デームズは、一九五〇年、カリフォルニアに生まれた。子供の頃から、UFOや超常現象、精神世界に大きな興味を抱いていたようだ。ただ、生まれつきの超能力者ではなかったという。高校を卒業してからサイテック社を創立するまでのほとんどの期間を、彼は軍人として過ごしている。一七歳で陸軍に入り、落下傘部隊に配属されたが、一年後に陸軍安全保障局(ASAS)に転属になり、極東に送られた。そこで彼の任務は、国家安全保障局の活動を支援することだった。

一九七四年、デームズは一時除隊し、

大学に入った。成績は極めて優秀だったようで、すぐに奨学生(四年間)となり、カリフォルニア大バークレー校で生物電子学と中国語の学位を取得した後、同校の予備士官訓練所に入り、一九七八年、陸軍士官として軍に戻った。

すぐにデームズは、陸軍情報部の少尉としてドイツに赴任した。そこで彼は、電子戦略武官としての訓練を受け、ソ連とチェコ間の秘密通信を傍受する任務を遂行した。

さらに、ドイツに赴任中、彼は陸軍科学技術情報部から引き抜かれ、最終的には、東側諸国の戦略的拠点に関する情報収集活動を指揮することになった。当時の彼は、スパイ映画さながらに、身分を隠して世界中を駆けめぐったという。

一九八一年、デームズの人生は大きな転換期を迎えた。ソ連が極秘のうちに高性能の生物兵器を開発しつつあった。そして、デームズと彼の配下のエリート情報部員たちのもとに、その破壊的兵器に関する調査命令が下ったのである。しかし、ソ連の壁は厚かった。重要な情報は一つ収集できず、絶望感の中、彼はふと考えたという。「こんなときに超能力者でも雇えばなあ」

このときから彼は遠隔透視能力に強いあこがれを抱くようになったようだ。

## みずから遠隔透視者を志願

それは決定的外れな考えではなかった。米陸軍はすでに、訓練されたリモート・ビューアーたちを密かに利用し始めていたのである。

まもなくデームズは、ワシントン市の北西二五マイルに位置するフォートミッド基地に転属になった。その広大な敷地内には、国家安全保障局(NSA)や陸軍の情報安全保障司令部(INSCOM)などの建物が点在していた。

デームズが配属されたのは、INSCOM内のシステム利用分隊(SEED)というセクションで、ソ連のハイテク兵器プロジェクトの研究と分析が、その任務だった。

新しい任務についてしばらくした頃、デームズは、フォートミッド基地内に、INSCOM直属のリモート・ビューイング(RV)部隊があることを聞いたのである。彼はもう、いてもたってもいられなくなった。ソ連の厚い壁を前にして絶望を味わったとき以来、情報収集活動に遠隔透視を利用できたという思いを強く抱き続けていたからである。

そして実は、フォートミッド基地のリモート・ビューイング部隊は、プトホフ博士がSRI(スタンフォード研究所)で押し進めていた研究と密接に

つながっていた。というよりも、すでにその両者は一つの機関として機能していたのである。

ブトホフ博士らの研究が進行して、その頃までにはすでに、ある程度敏感な人間であれば誰もが習得可能なRVの技術がほぼ確立されており、フォートミードのリモート・ビュアーたちは、全員がSRIに出向いて訓練を受けていた。

ちなみに、SRIにおけるRV研究は、米国中央情報局(CIA)の資金援助でスタートし、後にその他の様々な情報機関がスポンサーとして加わっている。

さて、デームズは、まもなくフォートミード基地内のRV部隊の建物を探り出し、そこに足繁く通うようになった。そしてあるとき、SRIでの訓練を終えたばかりの二名の軍人と顔を合わせた。彼らはデームズと同じ陸軍将校で、いわば普通の人間たちだった。つまり、生まれつきの超能力者ではなかったのである。

「普通の人間でもテクニクを学ぶことができる。ということは自分もリモート・ビュアーになれるんだ」

彼を止めることは、もう誰にもできなかった。彼は、自分の上官とRVユニットの責任者を説き伏せ、そのユニットのメンバーに加えてもらった。一九八三年のことだった。これより彼の人生の劇的な転換が始まったのだ。

## 伝説的超能力が指導

彼はすぐにスタンフォード研究所(SRI)に送られ、訓練を開始した。彼にRVのテクニクを教えたのは、伝説的超能力者、インゴ・スワンである。スワンはSRIでのRV研究に超能力者として最初から関わり、RVテクニクの確立に絶大な貢献をしていた。そしてデームズはスワンがSRIで教えた最後の弟子の一人だった。スワンが伝授したテクニクは、以後、弟子たちによって軍内部のリモート・ビュアー候補者たちに伝えられることになっていった。

RVテクニクをマスターしたデームズは、フォートミードに戻り、まもなく、数名のリモート・ビュアーを統率する地位につくことになる。そして彼のチームはRVを利用して、国際テロリスト集団や彼らの人質たちの居場所を突きとめたり、ソ連の生物兵器開発に関する重要な情報を入手したりといったようなことを、次々と行ない続けたという(他にも、同じようなチームがいくつかあったようだ。)

そのような情報収集活動は、軍内部でも極秘のうちに行なわれていたのだが(センター・レーン、サン・ストリーク、スター・ゲートといった暗号名で呼ばれていた)、徐々にその噂が広がり、RV情報の収集依頼が、より広

範囲の政府関係機関から寄せられるようになってきた。当然のごとく、リモート・ビュアーの数が不足し、補充されることになった。

## リモート・ビュアーの精度が低下

そこで問題は、新たに補充されたりモート・ビュアーたちの多くが、生まれつきの超能力者たちだったことである。彼らは自我が強く、彼らが行なう透視には、彼ら自身のイマジネーションや先入観がどうしても混入してしまう傾向にあった。SRIが開発したRVテクニクは、そのような妨害要素を極力排除すべく設計されていたが、彼らはそれを無視し、独自のやり方で透視を行ない続けた。そのため、RVユニットから依頼主たちに届く情報の精度が徐々に落ち始めた。依頼主たちは、RV情報の正確さに疑問を持ち始めたのである。

さらに悪いことに、まもなくRV部隊の噂が国会議員たちの耳に届くに至った。議員たちは政治や選挙関連の、いわば私的なターゲットをリモート・ビュアーたちのもとに送り届けてきた。

そして極めつけは、一九八〇年代の末になって超常現象に疑念を抱き続けていた軍高官たちが、RV部隊を指揮監督する地位に就いたことだった。先ほどの理由でRV情報の精度にばらつ

きが生じつつあったことが、懐疑的な高官たちの疑念を増幅させてもいた。すぐにその部隊が解散させられることはなかったものの、先はもう見えていた。米ソの冷戦が終わりを迎えようとしていたことも大きく影響したようである。

そこでデームズは、もはやこれまでと決意し、一九八八年、数名のリモート・ビュアーを引き連れて陸軍を離れ、翌年にサイテク社を設立したというわけである。

## CIA、超能力スパイ作戦に二千万ドルを投じる！

要するにエド・デームズは米国の「超能力スパイ」だったのである。

そして、その種のスパイを養成したのが、あのスタンフォード研究所(SRI)だったのだ。ちなみに、SRIで指導に当たっていた熟練リモート・ビュアーたちも、当然のごとく情報収集の任務を与えられていた。

その超能力スパイ作戦は一九九五年でうち切られたとされている。それ以降、CIAはSRIのRV研究に全く資金を出していない。そして彼らは「九七二年の研究スタート時から通算して、総額二千万ドルをそのために支出したが、結局その研究はうまくいかなかった」というコメントを発している。

しかし、CIAともあろうものが、



そんなあやふな研究に、それほど大金を費やしたりするだろうか。彼らはしかも、それを二〇年以上にも渡って行ない続けてきたのである。

事実、エド・デームズはもとより、フォートミードのRV部隊創設に尽力した元陸軍情報参謀副総長のエド・トンプソン少将、同部隊の創設を提案し、その後その指揮官となったスキップ・アトウォーター氏、さらには、SRIのRV研究を指揮し続けたプトホフ博士を含む当時の関係者たちの多くが、「CIAをはじめとする米国情報機関、および軍上層部の要請で、リモート・ビュアーたちが数々のスパイ活動に参加してきた」ことを、おりにふれ、明確に証言しているのだ。

エド・トンプソン少将は、つい最近、科学記者、ジム・シュナベルにこう語っている。

「疑い深いやつらと議論することなど、もうこりごりだ。リモート・ビュアーの実用性を信じていない人間には、もっと勉強しろと言つてやりたいよ」

すでにSRIを去り、現在はある研究所でゼロポイント・エネルギーの研究を押し進めているハル・プトホフ博士の証言は、もっと直接的である。

「政府が我々の情報に基づいてボタンを押したり爆弾を落としたがっていた時代が明らかに存在した」

関係者たちの証言によれば、フォートミードのRV部隊とSRIの連携で

遂行された超能力スパイ作戦は、一九七〇年代末から八〇年代初期にかけてが、そのピークだったという。ザイールの深いジャングルに墜落して行方不明になったソ連の爆撃機TU22の存在位置や、ソ連のある造船所内で、驚くほどに巨大な潜水艦が造られていた事実などを含む、スパイ衛星を駆使しても収集不可能だった情報が、リモート・ビュアーたちにより次々にもたらされていたらしい。

しかしその作戦も、徐々に先細りとなり、一九九五年時点では完全に終了していたと言われている。その理由としては、米ソ間の雪解け、ソ連の崩壊、ベルリンの壁の崩壊といった一連の歴史的な出来事が、スパイ活動そのものの必要性を低下させたこと、リモート・ビュアーたちの質が低下したこと、懐疑的な高官たちの勢いが強まったことなどが挙げられている。

と同時に、「米政府はSRIとフォートミード以外の新しい場所で、超能力スパイ作戦をいまもつて続けている」という噂も根強く残っている。

真相は知るべくもないが、少なくともCIAがSRIでの超能力研究に二〇年以上に渡って総額二千万ドルもの資金を提供し続けたことだけは、誰にも否定しようがない。彼らにとって、超能力というものは、それだけのお金と時間をかけてでも研究する価値のあるものだったのだ。

そうなのだ。米政府、少なくともCIAは、超能力というものの存在とその価値を、明らかに認識しているのである。

そして、すでにアメリカではリモート・ビュアーが新しい産業になりつつある。くり返すが、もはや超能力が存在するか否かを議論しているような時代ではないのである。日本の某大学の某タレント教授などには、先ほど紹介したエド・トンプソン少将の言葉を、ぜひ聞かせてやりたいものだ。

## リモート・ビュアーで地球社会は大変化する

そして私は、様々な超能力の中でも、このリモート・ビュアー、つまり遠隔透視に注目が集まっているという事実を素晴らしいことだと考えている。ご存じのように、遠隔透視はESP（超感覚的知覚作用）を通じて情報を受け取る作業である。そして、その知覚作用（ESP）は、いわゆる超能力者と言われる人たちのみが持っているものではなく、私たちの誰にも潜在しているものであることは、もはや明々白々である。プトホフ博士はその事実の上に立って、普通の人間たちが習得可能なRVテクニックの開発に努めて成功したのである。

私には、アメリカにおける近年のリモート・ビュアー熱が、「自分が生まれながらにして持っているESPに、

目を向けようではないか。私たちの誰もが、それを研ぎ澄ますことで効果的に利用できるのだ」というメッセージのように思えてならない。

そうなのだ。私たちはそれを研ぎ澄まし、効果的に利用することが可能なのだ。そして私は、それによって私たちが手にできる最大の恩恵は、人の気持ちがいよりの良くなるようになること、究極的には人が考えていることのすべてを知れるようになることではないかと考えている。

超能力者でコンタクトの秋山眞人氏によれば、地球人は想念を出す力は異常に強いが、それを受け取る力にはなほ大きく不足しているという。その受け取る力を磨くことが、地球人のこれからの進化に素晴らしい良い影響を及ぼすであろうことは想像に難くない。

私は、アメリカでいまリモート・ビュアーが大きな注目を浴びつつあるという状況を、私たち地球人をより好ましい進化の方向に向かわせようとして必然的に発生した、静かな波の一つとしてとらえたいと思っている。その波が今後どれだけ大きいものとなるか、楽しみである。

（編注）遠隔透視法やテレパシー開発の具体的な方法については、ジョージ・アダムスキーの「新アダムスキー全集」第二巻「超能力開発法」（中央アート出版社）に詳述してある）

# 異星人の

---

# 壮大なスペース・プログラム

★ 平田 泰 介

本号より平田氏の科学的なスペース・プログラムに関する啓蒙記事を連載する。筆者は七二歳。旧制海軍機関学校卒。熱意ある日本GAP会員としてアダムスキー中心の宇宙問題を徹底的に研究。科学的実証主義に重点を置き、異星人の存在とその活動を究明に調査してその実態を把握した人。

## 「権威」が真実を覆い隠す

「覆われているもので覆いをはさずされないものはない、知られないで終わる秘密はない」(マタイ一〇・二六)

世の中に「権威」というもののほど人間の知覚力を鈍化させ、「常識」という煙幕で真実を覆い隠すことを容易にし得る影響力を持つものはない。政府の権威、学問の権威、あるいはまた宗教的権威など、これらが人々に及ぼす影響力は計り知れない。そして結果として人間社会に一つの強固な規範を作りあげ、誰一人としてその枠からはみ出すことは許されないように見える。

しかしまた、その枠内に留まることは他人から批判的となることもなく、常識にしたがった正常な人間として人々が認めてくれる最も堅実で最も安全な筋道なので、いかなる疑問もさし挟むことなく受け入れられている。したがって、たとえその権威の陰に覆い隠された一粒の貴重な光を放つ真珠の





▲ジョン・F・ケネディー大統領

ような真理が存在していても、権威筋がそれを否定するならば、ほとんどの人々はその真理を認めようとはしない。権威を有する者にとっては、民衆を騙して思い通りに支配することは至極簡単なことなのである。

しかし権威をかさに着た支配層が真実を覆い隠し、自分たちにとって都合の悪いものはけつして明らかにしようとはしないにもかかわらず、最初に掲げたイエスの言葉通り、それはいつか必ず覆いを外されて光を当てられるとが来るのだ。

**真実は少しずつ洩れ始めて**

その最も顕著で重要な例の一つとして、ジョージ・アダムスキーのレポートによる情報はケネディー大統領の時代には政府機関によって重要視され、

彼は大統領の最も信任を得た友人の一人となっていて、世界中の米空軍基地へ自由に出入りできるフリーパスを与えられたほどであった。(編注Ⅱこの件はアダムスキーの最後の高弟であったアリス・ポマロイ女史が編者に語ったことがあり、彼女はそのパス券を見せてもらったことがあると証言していた)

しかしかつては全米をひっくり返すような旋風を巻き起こし、ベストセラーとなった宇宙の真理も、今では権威による隠蔽工作が功を奏して、人々の記憶の遠い彼方に消し去られようとしている。(編注Ⅱアダムスキーの第一著「Flying Saucers Have Landed (空飛ぶ円盤は着陸した」は当初全米のベストセラーとなった。この邦訳は新アダムスキー全集第一巻「第二惑星からの地球訪問者」中の第一部に出て

いる。中央アート出版社刊)。

しかし世界で最も権威あるNASA (米航空宇宙局) が行なった月探検の一連のアポロ計画や宇宙探査などを注意深く検討すればするほど、どんなに覆い隠そうとしてもアダムスキーの情報(編注Ⅱこの太陽系には惑星が二個あり、そのいずれにも人類が居住し、しかも素晴らしい文明を築いているけれども地球人だけはその事実を知らないし、発達程度も最劣等であるという情報)の正当性を裏づけるものとして、今はわずかな隙間から洩れ落ちる水滴のように、隠された真実が少しずつあらはらと見え始めている。もともとアポロ月飛行はケネディー大統領が計画したもので、彼が惜しくも暗殺されて後に実施されたこの計画は、いったい何のためだったのかと疑いたくなるような、ただ月の石を後生大事に持ち帰って地球の岩石とほとんど変わらないことが分かっただけのことであった。たしかに月に人類が足跡をしたという事実は画期的なこと、科学の進歩を実証するものであった。また人類が宇宙を目指すことは長年の夢を実現させた点で特筆すべきことと言えたのである。しかし莫大な費用を投じてただ月の石を持ち帰っただけというのは、あまりにも意味がなさすぎるのではないだろうか。その大きな疑惑に対する答えがその後徐々に明らかにされてきたのである。

## 大母船から月面の実態を知って驚く

アポロ計画の前になぜ一九五二年一月二〇日午後一二時三〇分頃、一機の(金星の大母船に積載されて来た)円盤がアメリカのカリフォルニア州デザートセンターの砂漠地帯に着陸し、その円盤から降り立って歩いてきた異星人と初めて互いに向かい合ってコンタクト(会見)し、身振り手振りで会話を交わした後、その前にアダムスキーが六インチ反射望遠鏡で撮影していた手札判ネガを一枚、ホルダーごと預かり、再び会うことを約束して彼は飛び立って行った。

そのときその金星人が立っていた砂地にしるされた靴の跡の謎めいた紋様が、宇宙船の構造をあらわすものであることなど、非常にこまかく描写しており、これが彼の著書「空飛ぶ円盤は着陸した」の内容であるが、あまりにも記憶が良すぎると思われて、その内容が架空のものではないかと誤解されやすい傾向にあるけれども、これはアダムスキーの正確な記憶をよみがえらせるために異星人が特殊な方法で援助したことが後に分かった。

そればかりでなく、その有様を遠くから六人の目撃者がいて、じつと見つめていたのである。その目撃証人たちの宣誓書も保存され、靴跡の石膏の型も保存されている。

その約三カ月後にもアダムスキーは地球に来ていた土星人と火星人に車で案内されて、砂漠地帯で小型の円盤に乗せられ、地上約一万二千メートルの高空に待機していた金星の大母船につれて行かれたときの様子も詳しく述べられた状況が「Inside Space Ships」(『宇宙船の内部』)という著書にまとめられて出版されている(編注Ⅱこの邦訳は新アダムスキー全集第一巻『第二惑星からの地球訪問者』中の第二部に出ている)。

この金星の大母船の中でアダムスキーは異星人の高度に発達した科学技術による望遠装置で月面を詳細に観測して、月は異星人の宇宙船の発着基地となっていて、巨大な宇宙船を格納する建築物が無数にあることを知る。

また地球との気圧差のために、月面に降り立った人間は二四時間の体内の減圧装置を用いて減圧すれば快適な居住環境であることが分かったと述べている。彼は大母船の中の特殊な望遠装置で月面を小さな四つ足の動物が走って通り過ぎるのが見えたと言っている。

## UFOが出現するようになった理由

それまでも異星人とのコンタクト事件は頻繁にあったし、第二次大戦中にはフーファイターと呼ばれる円盤型の不思議な物体が米軍機のパイロットによって頻繁に目撃されていた。

戦後は世界的にUFO出現事件が多発し、わが国でもこれが「空飛ぶ円盤」と呼ばれて社会問題化した。

(編注Ⅱその後UFO(未確認飛行物体の略称)という言葉に変わるまでは一般に「円盤」と言われていた)。

一九四七年以来アメリカでは、あるときには数えきれないほどの多くの円盤がカリフォルニア州サンディエゴ郊外の上空をデモンストレーションしたり、ワシントン市上空に無数の円盤の編隊が何度も現われては消えて、アメリカ市民の度肝を抜いていたことは誰一人として知らぬ者はないはずの有名な事件である。

何のために異星人はこのように地球に頻繁に来るようになったのであろうか？

それは一九四六年にアメリカが月に電波を発射して、その跳ね返ってくる時間を計ろうとしたけれども、その電波で月の縁に当たったものがそれ太陽系の他の惑星に届き、それを受信したそれらの惑星の住民が、地球が重大な危機に遭遇して救助を要請している信号ではないかと思つて地球に何が起ったのかを調べるために、それ以後頻繁に飛来するようになったのだという。

その後一二年間にますます円盤目撃報告が増え続け、アメリカ、イギリス、ソ連、ブラジル、ニュージーランド、オーストラリアその他の多くの国で、

あの捕らえ難い物体がレーダーのスクリーンにキャッチされたり、ときには各国の首都、研究機関、テスト基地などの上空に、まるで綿密に調査をするかのようにミサイルを追いかけたり、ときには飛行機や船に接近して飛んだりするのが目撃されるので、一般大衆には知られなくても官憲の公式記録は実際に各国のファイルに保管されているのである。

## 各国のUFO目撃事件

一般の目撃としては、大勢の人々が同時に目撃したもの、または個人だけの単独の目撃、あるときは数百名の目撃者の前で発生した事件などを述べた書物が多数書かれてきたけれども、その中で特に一九五四年、スペインのビルバオで起こったものは、円盤の編隊がゆっくりと飛来し、群衆の頭上を超低空でかすめるようにして移動したので、その円盤の編隊は群衆にはつきりと肉眼で見られたのである。新聞記事によると、このとき群衆の一部の人たちは恐れおののいて地面にひざまづいたという。聖書に記録されているように、おそらくこれは神のなせる業に違いないと思つたのだらう。

イタリアのローマでも頭上を通過する宇宙船の編隊が飛来したことがあり、市民の多くに観察された。このとき、この宇宙船群はソ連の偵察飛行中隊と

誤認されたが、後に円盤に関する知識のある人たちによって真相が発表されたのである。

一九五二年にはメキシコで夜中に旅客列車が一時以上にとわたり一機の円盤につきまといわたることがあった。ときどきこの円盤は列車の上空に來たり、先に行つて長く待っていたりしたが、この円盤から放たれる光は極めて強烈であつたので、まるで白昼のように文字さえもはつきりと読むことができた。そして列車に乗っていた全乗客、乗務員、技術者たちからこの事件の証言が取られ、文書化され、認証されてその記録がメキシコの所管官庁に保管されているのである。

またイギリス軍の大演習さなかに出現した一〇機の宇宙船をレーダー基地が捕らえたが、そのスピードは時速三万キロメートル以上だったという。

オーストラリアからは一九五八年から一九五九年前半にわたつてギル神父の目撃報告が世界中に流れた。パプア地域には頻繁にUFOが出現して多数の人が目撃していたのだが、イギリス人神父のウィリアム・ブース・ギル神父の素晴らしい目撃報告が出たのである。

一九五八年六月二七日の夕方、この神父はパプアニューギニアの小さな町で多くの教区民と同僚の神父と一緒に、一機の小型円盤型宇宙船がボイアナイ近くの低空に停止しているのを目撃し



たのである。そのとき宇宙船上に数名の人間が現われて、地上から手を振る人たちにこたえて彼らも手を振った。これはかなり長時間続いた。

ギル神父はこの事件について講演をしながらオーストラリア中を旅行したし、またその体験をできるだけ多くの人に伝えるためにラジオやテレビでも放送している(編注Ⅱこの事件については本誌一四一号に「パプアニューギニアのUFO出現事件」と題する詳細な記事が写真やスケッチと共に掲載されている)。

一九五九年の夏にカナダで航空ショーが開かれて数千人の人が見物していた。するとその最中にソ連の大型ジェット機がやってきて着陸したとき、そのすぐ後方に巨大な葉巻型宇宙船が停止していたのである。

その大宇宙船の両側には一列に開かれた丸窓が並んでいて、船内から人間の顔が地上の群衆を見下ろしていたという。その顔は地球人とほとんど変わらず、皮膚の色もさまざまであった。

丸窓のところで外を眺めた人たちが他の人に場所を譲るらしく、顔に変化が起こった。小さな子供たちの顔も見えたが、彼らが外を見るときには体を持ち上げてもらっていたようだった。

そのときになぜ写真を撮っておかなかったかという疑問があるだろう。もちろんカメラを持っていた数百人が写真を撮ったのだが、宇宙船が飛び去っ

た後、カナダ陸軍がやってきて、すべてのカメラからフィルムを没収してしまったという。当時この事件の報告は新聞社に打電されたが、破棄せよという指令があつて掲載禁止処分になったということである。

## 月の真相をあの手この手で隠蔽

このようにUFO目撃事件が数多く発生したことは各国政府には当然周知の事実となつて、これらのことからケネディー大統領はアダムスキーが異星人から得た情報を元に、月にロケットを飛ばして人間を着陸させ、月がアダムスキーの言うとおり異星人の基地になつてゐることを実地に証明し、宇宙の真実とUFO問題の真相を全世界に公表し、世界の恒久平和を目指したのであつたが、暗殺されて逆にアダムスキーが述べた月の状況や宇宙の真相は闇に葬られてしまったのであつた。月面上に存在する異星人の基地や巨大なドーム、そして無数の円盤などは宇宙飛行士によつても的確に目撃されたのだが、実は地上の管制センターにはもう一つ別な秘密の検閲用のモニターが設置されていて、検閲の時間をかせぐために、その生の映像は八秒遅れで届けられたのであつた。

こうして月面の生命の存在可能な環境とUFOの存在の証拠となる映像や宇宙飛行士の声はカットされ、月があ

たかも死の世界であるかのように装われてテレビで放映されたことが判明したのである。その秘密の管制センターが野ざらしにされて放置されているのを実際に見つけた人がいる。

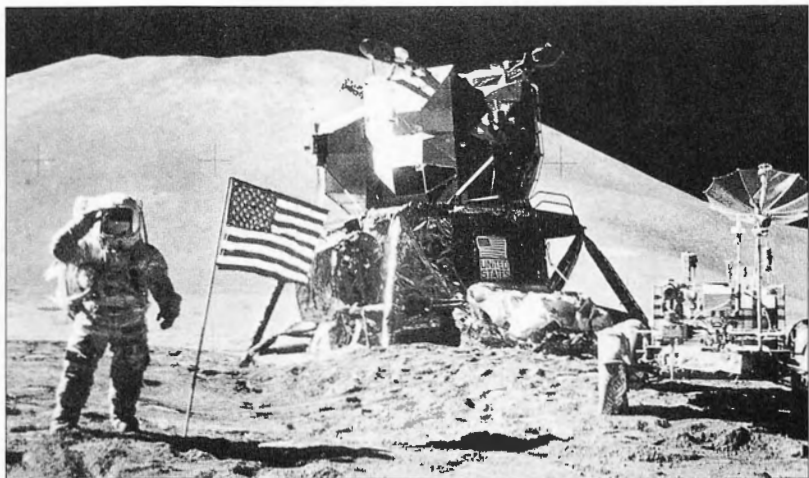
また何年か後に日本の報道陣のインタビューに答えたアポロ一五号のジェームズ・アールウィン中佐は、暗号として使用された「サンタクロースは実在した」という言葉の意味を「UFO、月面の異星人基地とドームなどの建築物」を意味する」と言つたことによつても証明されている(編注Ⅱ一九七一年七月二六日から八月七日まで、月との往復飛行に成功したアールウィン中佐は、後年来日してテレビで講演したが、そのときに彼は「月面でUFOを見た」とはつきり英語で話したので編者は直接聞いたことがある。そのときだけはなぜか日本語訳の字幕が出なかった)。

## 天文学者たちも月の真相を知っていた

アポロ計画の前にすでにアメリカ政府は、月には生命環境が存在するといふことを知っていた可能性がある。

一九五四年七月二二日、フアーソフという月観測天文学者は、月面の雨の海に接してひときわ高くそびえるアペニン山脈の夕暮れを望遠鏡で観測していたとき、月面の日没が間違ひなく赤に染まるのを発見した。地球でも空気

▶アポロ15号で月面のアペニン山脈の近くに降り立って米国旗に敬礼するジェームズ・アールウィン中佐の勇姿。



の層を太陽光線が横切るとき、すなわち朝焼け夕焼けの減少が起こる。月でもこのときフアーソフは日に照らされた半球と暗い半球との境界線に約一〇度の範囲で薄暮があり、赤く染まっているのを観測したのである。これは月に空氣が存在する証拠となる。彼はまたジェサップ(月研究家)と共にクレ

ーター群の中に霧や雲も観測している。また月理学者のパーカー、ピカリング、ウィルキンズもプラトン・クレーター内で植物群の証拠を見つけたことで天文学者としての名声を確立したのであった。

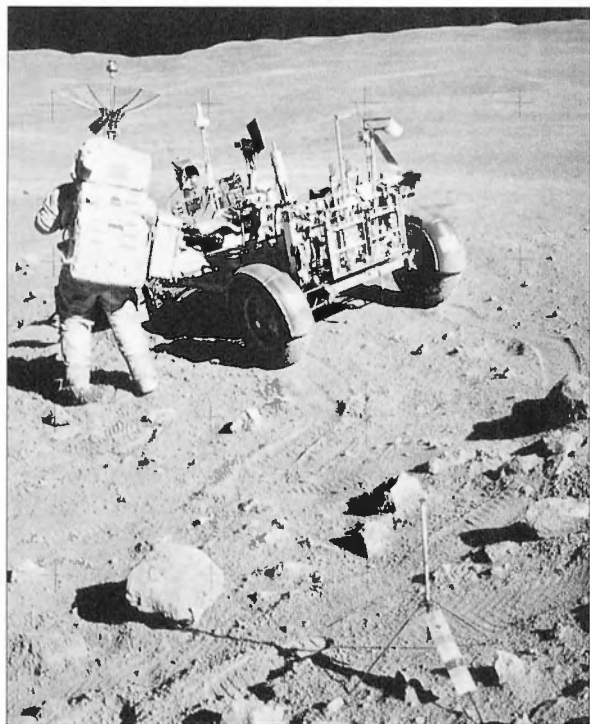
## 月面の空気存在を示すビデオ

アポロ月着陸を実施する前に五機の無人探査機ルナ・オービターが、月の上空四〇キロメートルから高解像度写真によってほぼ全表面の撮影に成功し、それだけでも月面の詳しい地形や生命環境を知ることができたはずであり、UFOやその基地設備の存在を一般大衆に知らせないためには、何物も映像として写らない砂漠の真ん中に着陸する必要があったとしか考えられないのである。

そのためには生命活動を示すクレターや谷間から少なくとも一六〇キロメートル以上離れた荒涼とした地域、月の海（アポロ11、12号）、不毛の平原（アポロ14号）、古代の溶岩台地（アポロ15号）、デカルト高原（アポロ16号）、険しい山岳地帯（アポロ17号）をわざわざ選んで着陸したのであった。

## 月には空気も水もあった

しかし彼らはここでもちよつとした



▲アポロ16号の月面車とチャールズ・デューク宇宙飛行士。靴や車輪の跡がはっきりと残っているのは地面が水分を含む証拠。

ミスをおかした。アポロ11号から最初に月面に降り立った宇宙飛行士がアメリカ国旗を立てたとき、旗が風ではたいていたのがはつきりと観察されたのである。しかも月面の砂地には彼らの足跡がくつきりと刻まれていた。我々が海岸の乾いた砂地を踏んでも逆円錐状に凹むだけで、このような足跡はつかず、水際の濡れた砂地を踏んで初めて靴底のはっきりした跡が印される。これらのことから月には空気も水も間違いなく存在するということが証明されるのである。

さらにアポロ14号でも旗が揺れていたとき、宇宙飛行士たちはそばにいなかったけれども、すぐに走り寄って旗を覆い隠したのが見られ、宇宙船のテ

レビカメラを手で覆う光景さえ映し出されている。

これ以後のアポロ月飛行では、いつも同じ形を保つように金属の網を編み込んだ旗を用意し、いつも揺れている形に固定されて、真空中の中でも星条旗が揺れて見えるような巧妙なデザインが必要であったと、これ以降の中継放送でNASAはわざわざ強調して声明を行なったのである。

またアポロ15号では月に空気がないことを証明するための別なトリック実験まで行なわれた。先日教育テレビを見ていたら、講師が鉛玉と羽毛を真空中の中と空中とで同じ高さから落とした場合、どのような落ち方をするかということを実験してみせて、これはアポ

ロ計画で月面上で行なった実験と同じものであると言っていた。月には空気があるのに、どうやって実験したのだろうかと訝（いぶか）しが、月ではその羽毛状のものには何かの金属の小塊が付けられていたに違いないと思った。そうであればアポロ12号が着陸の際に逆噴射ロケットによって舞い上がったホコリが落下するまでにかかりの時間がかったのはなぜなのかという疑問が生じる。

また空気がないことを証明するには月で見る空は真っ黒でなければならぬが、アポロ16号が撮った写真の一枚では朝の空が明るく輝いているのがある。相当量の大气がなければあり得ないことなのだが、NASAが公開した写真のほとんどは暗黒の空なのに、月面の風景は色彩豊かな自然の色が映し出されているので不思議に思っていたところ、ラッテン12フィルムターをカメラにかけて撮影すると青い空は光のスペクトルの青や紫を完全に隠して暗黒の状態に見えるという事実が判明した。月が空気のない死の世界であるという印象を従来の科学者や一般大衆に与えるための工作として、空をラッテン12フィルムターをかけて撮影したことは間違いないと思われる。

（編注）ラッテンフィルムターは米コダック社が出している戦前からの有名なカメラ用フィルムター。12号は濃黄色）



## ケネディー大統領の暗殺の謎

なぜそのようなにしてまで月が死の世界であることを彼らはことさらに強調しなければならなかったのでしょうか？ それにはケネディーがなぜ暗殺されねばならなかったのかということと関係がある。

およそ一国の大統領を暗殺するなどということとは、よほど重大なのつぎきならない理由があつたに違いない。表面上はオズワルドというCIA諜報員（真実はどうかは極めて不確実）による衝動的な犯行とされ、しかも逮捕されて拘引される途中に激怒した市民の一人に銃で撃ち殺され、その犯人もまた獄中で何者かに殺されるという（表面上はガンで獄死したことになつてゐる）証拠隠滅のための謀略とも思われるような経緯で事件の真相がうやむやにされてしまつてゐる。

捜査は暗礁に乗り上げたけれども、その真相はアメリカ政府内で周知の事実であり、なぜかその真相を二〇三九年九月まで発表してはならないというジョンソン大統領に対する指令がどこからともなく発せられていたという。その頃にはおそらくすべての関係者は死に絶えて、責任の所在が誰にもなくなることを見越しての指令なのであるのか？

漏れ聞くところによれば確かな情報

として、アメリカには反体制国の首相であるキューバのカストロ首相を暗殺しようとしているチームが組まれ、殺し屋として訓練を受けているが、彼らが世界の経済を支配している闇の支配者層のグループの命令によつてケネディー暗殺計画を実行したとの噂がある。しかしこのことは必ずしも理由のないただの噂話ではないようである。なぜならば、ケネディーは本気でUFOの実在や月の異星人基地などの真相、またなぜUFOは頻繁に地球の空に飛来するのかという理由などを全世界に公表するつもりでいたのである。

（編注）ケネディーはアダムスキーと親交があり、UFO問題の詳細を知り尽くしていたといわれる）

### 光の子と闇の子の戦い

アダムスキーが異星人から聞いたところによれば、地球では原子爆弾を製造し、その実験を頻繁に続けており、そのために大気圏内外には放射能が濃密になつてゐる（このために円盤の乗員が死んだ）ことを知つて、またその影響で宇宙空間の磁気の乱れなどのために彼らの宇宙航行にも差し支えることから、放射能を彼らの高度な技術で取り除いて、地球自体の安全のためにも頻繁に地球を訪れるようになったというのである。

そしてすでに放射能を除き、磁気の

川の流れも修復したという。したがつてそれを発表すれば、ただ単に従来の天文学者たちや教育関係者たちの定説が崩れるというだけの動機によるものではなかったのである。

ではもしもケネディーの政策を許したならばどのような結果になるのだろうか？ 世界の政治と経済体制は膨大な資金と資産を有するスイス銀行に登録されたほんの一握りの巨大資本家たちおよび、彼らに隠然たる支配力を与えている最高法院の聖者の一団によつて牛耳られてゐるのだということが非公式の歴史研究家たちによつて暴露されてゐるのである（ウィリアム・クーパーの証言）。

ケネディーのやろうとしていたことは、彼らに対する公然たる挑戦であり、その支配を取り除いて他の惑星の住人たちと連携し、地球を聖書の教えにしたがつて戦争のない平和な理想社会を築くことを目標としたものであつた。

そのためには核兵器を廃絶し、地球を汚染する石油エネルギーの無公害エネルギーへの転換、産業廃棄物の完全リサイクル、ひいては全世界の平和的な統一、そして国境の廃止などが考えられるので、相当の摩擦も予想しなければならぬが、結果的には地球も他の惑星の援助を受けて宇宙船を建造し、遅ればせながら宇宙へ進出して限りない発展を続けることは大いに期待できることであり、世界中のすべての人々

が神のみ恵みを等しく享受する幸せを目指したものであつた。

しかしながらケネディーはあまりにも性急に事を急ぎ過ぎたのではなからうか？ 陰の世界勢力の最高法院もその聖者の一団の意図するところは、聖書予言が成就して最終目標たる、地球上に神の支配する楽園を築くことにある。それは聖書に述べられた手順を経て経過しなければならなかった。すなわち彼らの言うところの主または神のご意志によつて起こされる大難難の日に、ハルマゲドンにおいて世を支配している邪悪なサタンを絶ち滅ぼした後、神の支配する忠実な羊のように従順な民だけの王国を打ち立てるのでなければならなかったのであるが、ケネディーは陰の支配者の意図に反して、彼らにとつて敵である異星人（悪霊からのもの、または心靈現象だと彼らは称している）と同盟しようとしていたのであつた。

これは世界人類に対する彼らの宗教的影響力を完全に打ち砕くものであり、異星人の存在や月の真相が民衆に知られることは、彼らにとつて最も恐るべき障害であつたのだ。こうしてケネディーは抹殺されてしまつた。

その最も大きなきっかけとなる出来事がケネディー暗殺の前年に起こつた。

（以下次号）

## ★盛況、奈良市の質疑応答会、

かねての予告どおり関西地区日本GAP黎明会主催の質疑応答会は、去る六月四日、奈良市の奈良県中小企業会館で開催され、五〇名を超える参加者で盛況を呈した。久保田会長は活発に提出される質疑に対して終始明快に回答して宇宙的な雰囲気をついに盛り上げた。前日は有志一同で明日香村の古代の遺跡巡りを実施して関心を高めた。詳細は本号に掲載。

## ★本年度日本GAP海外研修旅行「メキシコ・マヤ遺跡の旅」

この旅行は本誌44号に予告が出たが、いまだ盛り上がりならず、まだ参加希望者が僅少だが、もう少し状況を見ようと会長と旅行会社が募集中。

## ★日本GAP主催UFO写真展

日本GAPは数年来関東地区で頻繁にUFO写真展を開催して絶賛をあげている。春季の開催は左記のとおりで、いずれも大盛況であった。UFOの写真展を開催するのは日本GAPだけなので、その斬新な企画が大いに認識されている。

## ●四月九日～一五日

埼玉県春日部市「県民ミニギャラリー 春日部」

## ●四月二六日～五月二三日

都内中野区「夢通り」無人ギャラリ「市民ギャラリー」

六月二二日～二八日埼玉県浦和市

予定。

## ★本年度日本GAP総会

本号47頁に予告したとおり、今年の総会はアメリカのアダムスキー問題研究家で久保田会長の親友であるダニエル・ロス氏を招待して都内港区の東京タワー前の機械振興会館地下二階の大ホールで開催される。ロス氏は長時間に渡り講演を行ない、アメリカの宇宙開発で隠蔽されている貴重な事実が展開する予定。大盛況が予想される。通訳は坂本貢一氏。夜は同会館の六階で立食形式のディナーパーティーを開催して親睦を深める。翌日は晴天ならば都内江戸川区の葛西臨海公園広場でUFO観測会を実施の予定。ロス氏も同行する。雨天の場合は上野公園の国立博物館またはその他の場所を見学。詳細予告は本号47頁に掲載。

## ★東京本部月例セミナー

日本GAP東京本部の月例セミナーは毎月第一日曜日に開催。毎回会員による講演、久保田会長による「生命の科学」解説講義、超能力開発練習、UFOビデオまたはスライド映写、質疑応答等が行なわれている。毎回五～六〇名が参加。会場は都内港区東京タワー前の機械振興会館地下三階第二研修室を原則とするが、たまに部屋を臨時変更することがある。その際は入口に告示される。

## ★会長、東京造形大学でUFO講演

日本GAP久保田会長は七月一日、

またも東京造形大学で三五〇名の男女学生を対象にUFO講演とスライド映写を行ない絶賛を博した。

## ★大阪支部発展的解消

多年続いた大阪支部は代表の辞任により後継代表の人選難のために休会中であつたが、このたび本年七月末をもつて発展的解消をとげた。支部発展に貢献された平塚旧代表に深謝したい。

## ★関西支部設立

今年一〇月より関西一円を包括する関西支部が設立される。これは大阪支部の発展的解消に伴い、新たに東京本部にたいする有力な協力体制をしようとするもので、支部代表は小原明氏、副代表に高木伴幸氏その他の有力メンバーが援助する。詳細は本号45頁の予告と巻末のセミナー案内を参考にされたい。

## ★埼玉支部始動

新設の埼玉支部は去る五月一七日に浦和市高砂の埼玉会館で第一回の月例セミナーを開催。約二〇名の参加者を得て会長の東京月例セミナーにおける講演ビデオ鑑賞を他のプログラムをこなし好評裏に幕を閉じた。当日は伊豆支部代表の高梨十光氏が特別講演を行なつて感銘を与えた。終了後は浦和駅付近のレストランで夕食会を開催して親睦を深めた。支部代表は会田裕子氏、副代表は西川太氏。今後の発展が期待される。多数の会員の参加が望まれる。

## ★日本GAP維持会員制度

日本GAPは普通会員とは別個に維持会員制度を設けている。これは一種の寄付制度であり、GAPの運営と発展に寄与するための援助活動で、絶大な役割を果たしている。これに加入すれば久保田会長が毎月月上旬に個人で発行している「意識の声」と題する小冊子のエッセイが維持会員に直送される。これは本誌に掲載されない秘話、会長が実践している宇宙的な能力開発法、会長の珍しい体験、GAPの行事速報、その他の有益な記事が満載されている。特徴はいつも大いなる信念と勇気と希望を起こさせる内容にある。そこでこれを綴じて保存し、読み返す人が多いという。

このエッセイ「意識の声」はA4判紙面にぎつしりと印刷された記事が4頁分あり、折りたためば八頁。美麗オフセット印刷。維持会員加入希望の方はハガキに「維持会の案内書送れ」と書いて日本GAP本部宛に出せば直送される。この「意識の声」をコピーにとつて地方支部の月例セミナーで出席者に配布することは厳禁されているので注意されたい。

## ★本誌原稿を募集

会員より本誌掲載用の原稿を募集している。内容はUFO目撃体験と写真、能力開発実践体験、科学記事、ユーモア広場宛その他。原稿は任意の用紙に手書きで可。掲載分には薄謝を進呈。



## 〈宇宙〉

## ■土星の衛星に水

欧州宇宙機関発表「生命の条件満たす」

欧州宇宙機関(ESA)は四月七日、一九九五年一月に打ち上げられた赤外線望遠鏡衛星(IOSO)の観測で、宇宙空間の至るところに大量の水が存在していることが分かったと発表した。特に土星を周回する最大の衛星で地球の環境に似ているタイタンの大気中にも水蒸気が見つかり、ESAの専門家は「生命誕生の条件がほぼ整っている」とみている。

発表によると、水が見つかったのは死滅寸前の星や新星、宇宙空間、銀河、火星の大気層など「宇宙のそこら中」(ESA)という。

タイタンは水星より大きく、これまで発見された太陽系衛星で唯一、大気を持つている。主成分は窒素だが、一酸化炭素や二酸化炭素が含まれていることがこれまでに知られていた。

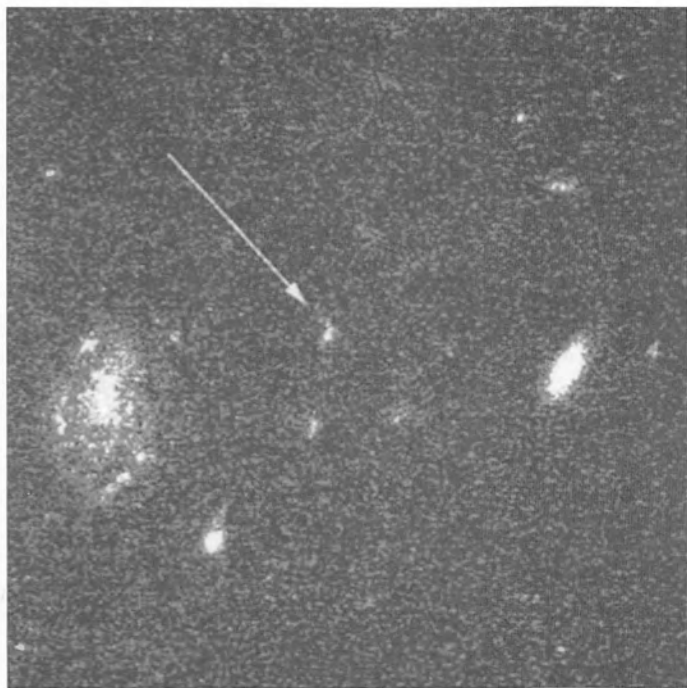
ISOの観測で大気中に水蒸気が見つかったことで、ESAのポネット科学部長は「四五億年前に地球に生命が誕生したと同様の条件が、タイタンも存在する可能性がある」と指摘している。(4・8読タ)

## ■二〇億光年がなした大爆発

「ガンマ線バースト」 NASA発表。

観測史上地上最大。

米航空宇宙局(NASA)は五月六日、宇宙のはるかかなたで観測史上最大の大爆発が起きたと発表した。放射線線一種であるガンマ線が大量に発生する「ガンマ線バースト」と呼ばれる現象で、放出されたエネルギー量は宇宙創成の際の大爆発「ビッグバン」に次ぐ規模だという。



▲ハッブル宇宙望遠鏡がとらえた、観測史上最大のエネルギーを持つガンマ線バースト(矢印)。

この現象は昨年二月(四日)、地球から約二〇億光年離れたオグマ座の方向で発生。NASAの衛星などが観測に成功した。

宇宙の果てで起きたため、肉眼では見えなかったが、大量のガンマ線が放出された瞬間には、宇宙全体の銀河や星を合わせたほどの光を発したとみられる。

ガンマ線バーストは一九六〇年代に初めて観測された。中性子星と呼ばれる超高密度の星同士が衝突して起きるという説が有力だが、今回の規模は理論で予想される百倍以上に及ぶ。(5・7読タ)

## ■木星の衛星「エウロパ」に塩

米の無人探査機が観測

木星の衛星エウロパに、水を含んだ塩類(含水塩)が存在することが米国の無人探査機ガリレオの観測で分かり、米航空宇宙局(NASA)ジェット推進研究所などの研究チームが二日発売の米科学誌サイエンスに発表した。

エウロパでは氷の存在がすでに確認されているが、含水塩の発見で氷の下に液体の海水が存在する可能性が高まった。研究チームは論文の中で「生命をはぐくんだと考えられる原始地球の海水に似ている」と述べている。

塩はエウロパの氷の上にあり、ガリレオに搭載した近赤外線分光計の観測データを分析して分かった。

同チームによると、データは純粋な氷以外の物質であることを示しており、スベクトルの詳細な比較で炭酸カルシウムや硫酸マグネシウムなどの塩類が水を含んだ形で存在することを突き止めた。

同様の含水塩は地球では、海水が蒸発してできる。エウロパの場合は氷の割れ目からしみ出した海水が、真空と氷点下一五〇度以下の環境に触れてできたと、同チームは推定。

太陽から遠く離れた冷たい環境で液体の海が存在できる理由としては、木星の巨大な重力でエウロパがきしんで摩擦熱が出ていることなどが考えられるという。同チームは「地球と同じように、エウロパの海底では火山や熱水活動で、生命に必要な塩類が放出されているかもしれない」と指摘している。



▲米国の無人探査機ガリレオが撮影した木星の衛星エウロパ。

## ■震える太陽

地球大地震の数万倍規模

米航空宇宙局（NASA）は五月二七日、太陽で起きた巨大な「地震」の衝撃波を観測することに初めて成功したと発表した。

太陽観測衛星SOHO（ソーホー）が撮影したもので、池に石を投げ込むとできる波紋のように、衝撃波が同心円状に広がっていく様子が鮮明にとらえられている。

NASAによると、この巨大地震の引き金になったのは、太陽表面で起きた大爆発（フレア）。画像上では白く見えるこの爆発エネルギーが太陽表面のガスを揺さぶり、地球の大地震の数万倍にも及ぶ巨大な衝撃波を発生させた。地震波に当たる衝撃波は、最大で秒速一〇〇キロ前後の猛スピードで広がっているという。衝撃波は太陽内部も駆け抜け、反対側の表面までも達しているとみられる。波の伝わり方を調べることで、太陽の内部構造の解明も期待できるという。（5・28

## 読タ

## ■ニュートリノに質量

素粒子観測装置で確認。宇宙解明に手がかり。

宇宙から来る素粒子「ニュートリノ」を観測していた日米共同研究グループは六月五日午前、岐阜県高山市で開催中の国際シンポジウムで、「ニュートリノに質量がある確証を得た」と発表した。ニュートリノに質量がないという前提で形成されてきた素粒子論の見直しを迫るとともに、宇宙の謎の解明につながる歴史的発見につながりそうだ。

この成果は、東大宇宙線研究所の梶田隆章・助教授が報告した。

物質を構成する素粒子の一種であるニュートリノは電荷がなく、地球を通り抜けるほど透過力が大い。電子型、ミュー型、タウ型の三種類がある。日米三研究機関が参加した岐阜県神岡町にある宇宙線研究所の大型素粒子観測装置を使い、宇宙線が地球の大気とぶつかって生じるミュー型と電子型のニュートリノを

## 観測した。

理論上はミュー型と電子型は二対一の比でできると予測されていたが、実際に観測されたのはほぼ同数の約二二〇〇個ずつだった。

またエネルギーの高いミュー型に注目すると、上空から来る数はほぼ理論通りだったが、地球の裏側から一万キロ以上を経て観測されたミュー型は理論値の半分しかなかった。

このため、研究グループはミュー型が長距離を移動するうちに、この装置で観測できないタウ型に変わったと判断した。ニュートリノに質量があることは一九八〇年代から示唆されていた。ニュートリノが別の種類に変わる現象は「ニュートリノ現象」と呼ばれる。ニュートリノに質量がなければ振動が生じないことから、「ニュートリノに質量があることの確証になる」としている。

戸塚洋二・同研究所長は「ニュートリノの観測数が理論値と異なるのは振動以外に考えられないと判断した。今後は装

置の性能を向上させ、ニュートリノの質量を把握したい」と話している。

ニュートリノに質量があることが確定すれば、素粒子間にとどのような力が働き、物質が構成されているかを説明する「標準理論」の見直しが必要になる。このほか、宇宙を構成する物質の一つとされながら観測されない不明物質「ダークマター（暗黒物質）」の有力な候補となり、宇宙の大きさや成り立ちを考える上で大きな意味を持つことになる。（6・5毎日）

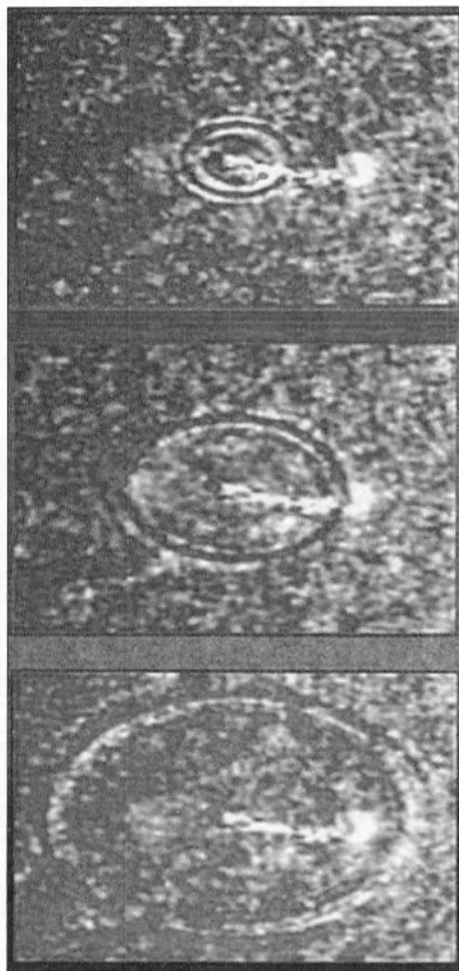
## 〈医学〉

■重度のヤケドの初期治療にビタミンCが有効

重度のヤケドに対し、治療初期に大量にビタミンCの点滴をすることで全身の浮腫（むくみ）が取れ、症状が改善することを杏林大高度救命救急センターの田中秀治講師、島崎修治センター長（同大教授）のグループが確認、米シカゴで開かれた米国熱傷学会で発表した。重度のヤケドの治療は今まで様々な試みがなされてきたが、初期に深刻な問題となる浮腫を取ることに成功したのは初めてという。

ヤケドを負うと血管の内皮細胞が傷害され、細胞間に隙間ができ、アルブミンなどのたんぱく質や水分が血管の外に漏れ出し、浮腫がでる。このため重度のヤケドの場合、脱水症状や、肺に水がたまる、手足の循環が悪化するなど、時として命にかかわることが少なくない。

田中講師たちは、ヤケドを負った部分の血管では肥満細胞からヒスタミンが放出され、これに伴う一連の反応で熱傷組織中に、細胞膜などを傷める活性酸素が



▲画面中央で発生した大爆発（フレア）の衝撃が、同じ同心円状に拡大して、波が伝わって行く様子がわかる。（NASA提供）



大量に作られることを、動物実験で突き止めた。そこで、活性酸素を除去する作用のあるビタミンCに着目し、点滴したところ、浮腫が取れ、熱傷性ショックを軽減する効果があることを証明した。

実際に、全身の三〇パーセント以上の面積にヤケドを負った重症患者三七人に、ビタミンCの大量点滴を実施したところ、点滴しない患者に比べ、最初の二四時間以内に点滴する輸液量が六〇パーセントに減少した。(p. 26 読マ)

■海藻の「アカモク」抗エイズ薬に有望  
日本海沿岸で食べられている海藻のアカモクが抗エイズ薬として有望なことが富山医科薬科大の林利光助手(薬用資源学)らの研究で分かり、四月二日まで京都市内で開催中の日本薬学会で発表された。ウイルスに効く藻類を長年探してきた林助手はまず、アカモクの抽出エキ스가エイズウイルスの増殖を強く抑えることを試験管内で確認。この成分を分離したところ、多糖類の一種と分かった。抗ウイルス薬のアジドチミン(AZT)と併用すると、相乗的にエイズウイルスの増殖を抑えることも判明した。

アカモクはホンダワラ科の褐藻(褐色の海藻)。石川県能登地方では、湯通し後に「花まつも」の名で売られ、酢の物として好まれている。(4・2 朝)

#### ■ダイオキシンの分解

ゴミ焼却場から排出される猛毒の発ガン性物質ダイオキシンが、自然のキノコで分解できることを、九州大学農学部木材化学講座の近藤隆一郎助教授(森林生物学)らのグループが確認した。キノコでダイオキシンを分解できることは同グループなどが実施したモデル実験で分か

っていたが、実際に応用できたのは世界でも初めて。

キノコは、倒木の上で成長する「白色腐朽菌」と呼ばれるタイプで、シイタケもその仲間。樹木に含まれる難分解性物質の高分子化合物リグニンを分解できるのは白色腐朽菌の出ず酵素だけ。この特徴から石油化合物や農薬など難分解性物質の解毒化に応用する研究が約一〇年前に進んでいる。

近藤助教授らのグループは「菌の酵素で難分解性のダイオキシンも無毒化できないか」と着目。約五年前から鹿児島屋久島や沖縄県石垣島などの密林で採取した菌一四〇種で実験した。

今回実験に使ったのは九大宮崎演習林(宮崎県椎葉村)で採取した菌の一つで、専門器材を持つ排水処理会社に測定を依頼。菌を生育させた木くずと米ぬか計四〇グラムに、ゴミ処理場の集じん機から採取した焼却灰一〇グラムと水二〇リットルを混合。五〇日後に測定したところ、ダイオキシンが二四・八パーセント減少していた。近藤助教授らは「今まではモデル実験だけだったので、菌が無機物の焼却灰の中で実際に育つか不明だったが、予想以上の効果が出た。焼却灰の処理に実用化できるのではないかと期待している。(4・2 朝)

#### ■乳ガンの遺伝子治療

乳ガン患者に対するわが国初の遺伝子治療の実施に向け、癌研究会(東京・池袋)付属病院は月内にも治療計画を国に申請することを決めた。正常な細胞に抗ガン剤の作用をなくす遺伝子を組み込んで保護し、大量の抗ガン剤を使ってガン細胞だけを狙い撃ちする手法。米国でも

臨床試験が始まっているという。ただ、遺伝子治療を試みたものの病気でも、期待通りの効果が得られていないのが現状だけに、今回の試みが突破口になるが注目される。

対象は、乳ガンを摘出した後、肺や肝臓などへの転移が見つかった患者一〇人。抗ガン剤治療が主体となるが、乳ガンは抗ガン剤の効果が期待できる反面、抗ガン剤による造血機能の低下といった副作用が課題となる。

その対象となるのが遺伝子治療で、「ヒト多剤耐性遺伝子(MDR)」と呼ばれる遺伝子を使う。抗ガン剤が効きにくい特異なガン細胞から見つかった遺伝子で、これが作るたんぱく質は、乳ガン治療に使う抗ガン剤「ドセタキセル」をポンプのように細胞の外に吐き出す。

将来は、「卵巣ガンや脳腫瘍、小児ガンといった、抗ガン剤がよく効く他のガンにも応用が開ける」との期待もある。(4・2 読マ)

#### ■新たなたんぱく質、ガンを消滅

米の病院、マウス実験で根こそぎ

血管が新しく生まれるのを阻止する作用を持つたんぱく質が、マウスのあらゆる種類のガン組織を根こそぎ消滅させることをボストン小児病院の研究者らが発見した。米国立ガン研究所は五月四日、このたんぱく質を薬として臨床応用する研究に「高い優先順位」を与えると異例の声明を発表した。動物実験では副作用もほとんど見つからなかった。ガン特効薬への期待から、このたんぱく質を製造している米バイオベンチャー企業の株価が一時、七倍には上がった。この血管新生阻止因子はエンドスタチ

ンと呼ばれ、ボストン小児病院のジュダ・フォークマン博士とハーバード大医学部の共同チームがマウスの尿中から発見した。

この二種類のたんぱく質を大きな腫瘍をもつマウスに注射したところ、数週間でガン組織が縮小し、きれいに消えた。体重を考えると人間だと一キロ近い大きさに相当するガンも消滅でき、顕微鏡で調べてもガン組織は全く見つからないという。一種類のタンパク質の投与でも縮小効果は見られたが、ガン組織は残った。フォークマン博士によると、ガン組織が増殖するには栄養供給路となる血管が新しく生まれて成長することが必要だが、エンドスタチンとアンジオスタチンはこの血管の新生を阻止する。従来の抗ガン剤のように、ガン組織を直接攻撃するのではなく、ガン組織を周囲から兵糧攻めにするのが特徴という。

同博士は、ガン患者が最初のガン組織を切ったあとに新しい転移ガンが生まれやすい現象に着目し、最初のガン組織に転移をブロックする血管新生阻止物質が含まれるのではないかと考え、新たなたんぱく質の発見に成功した。

人に対する臨床実験は始まっているが、ニューヨーク・タイムズ紙が五月三日、米国立ガン研究所長の「最も興奮する出来事」というコメントを添えて記事化して以来、CNNテレビなどが大々的に報道を展開した。「マウスに効いても人間で効かなかった薬はたくさんある」という、ガン研究者の慎重論も紹介している。米国立ガン研究所は「臨床試験の始まりは早くても一九九九年になる」と発表した。(5・6 毎マ)

## 謎の宇宙人

●ミッシェル・ジルガー

筆者はフランス人のアダムスキー研究者で都内在住の日本GAP会員。一九五二年一月二〇日、アダムスキーが六名の同行者と共にカリフォルニア州南部の砂漠地帯デザートセンターに着陸した金星のスカウトシップ(小型宇宙線)から降り立った金星人と劇的な会見をしたあと、金星人が地面にわざとつけた靴の跡の奇妙な図形をその場で石膏にとった人類学者ウィリアムソンは、その足跡の図形を解釈した書物「宇宙語—宇宙人」を出したが、解釈が心霊的だとアダムスキー派から批判されてグループを去った後、南米の古代遺跡の研究に打ち込んだ。その後、彼は南米の遺跡に関する書物を出したが、多くの謎を残したまま世を去った。この記事はジルガー氏が入手した珍しい資料と共にその研究成果を披露したものの。ついでながら編者(久保田)は昔ウィリアムソンと文通仲間であり、デザートセンターのコンタクトに関する驚異的な事実を伝えるからアメリカへ来たらせひ寄ってくれと秘密の電話番号まで知らせてくれたが、志を果たさないうちに彼は他界した。この記事はジルガー氏が英文で書いたものを編者が翻訳した。

ウィリアムソンが書いた二冊の書物が先般日本語版で出された。一九五三年に書かれて一九五六年に出版された「宇宙語—宇宙人」(編注Ⅱ日本語版では「神々のルーツ」と題してごま書房から出ている。ただし前半のアダムスキーのデザートセンターにおけるコンタクト事件は除外してある)と、それに一九六一年版の最後の書である(編注Ⅱ日本語版では坂本貢一氏訳で「アングスの封印」と題してごま書房から出た)。

そこで私はウィリアムソンに関する未知の私的な資料等を公開すれば本誌の読者が興味をもつのではないかと思いい、この記事を書くことにした。これらの全く特異な資料はここで初めて公開されるものである。それは誰も知らない世界の物語と言えるだろう。

私がここで公開する写真資料は、ウィリアムソンが一九五七年から五八年にかけて彼がペルーを探検した当時に携行していたもので、この手帳に彼は日常の出来事や自分の考え、自分の発見事などを記入したものである。しかしまず最初にウィリアムソンが五〇年代後半にペルーへ探検に行った理由を明確にしたい。

ウィリアムソンは人類学者であった。彼は大学で人類学を専攻し、それに関する多くの学位を学んだ。ジョージ・アダムスキーに出会う一年前の一九五一年に彼はチツペア・インディアンと多くの付き合いをして、この北米インディアンたちとの生活に関する本を書いたが未刊に終わった。これは「チツペア日記」と題するもので、私は約一〇〇頁に及ぶこの貴重な原稿を所有していることを誇りに思っている(写真1)。

次に彼が一九五二年一月二〇日のデザートセンターにおける衝撃的な事件は若干二六歳のウィリアムソンであったからこそなす遂げられたにちがいないと考える必要がある(彼は一九二六年生まれ。ついでながら編者よりも二歳若かった)。

一九五二年一月二〇日に彼は巨大な母船が砂漠地帯上空に接近するのを見たことを思い出して頂きたい。彼は大母船の横腹に奇妙なタマゴ型の図形があるのを双眼鏡で見た。また彼は他の出来事もすべて目撃した。たとえば彼はジョージ・アダムスキーが遠くで一人の異星人に話しかけている光景も見だし、さらに彼は金星人が謎の足跡を残した地点に真っ先に到着した人でもある(編注Ⅱこのコンタクト事件の詳細は新アダムスキー全集第一巻「第二惑星からの地球訪問者」の第一部に掲載してある)。そこでこの特異な体

験で大きな印象を受けた彼は宇宙の生命に関する考え方を大きく変えたに違いないのだ。

その結果、彼は「宇宙語—宇宙人」を書き始めた。これはアダムスキーのデザートセンターにおけるコンタクトの意義をよく理解しようとした試みによるものであった。同時に彼はアダムスキーの最初のコンタクトにおいて金星人が残した足跡の象徴的なメッセージを解説しようとしたのである。古代の秘教や聖書に関する象徴学の専門家として、ウィリアムソンは金星人の残したメッセージを研究するのについてつきの人物であった。実際私は、あの記念すべき五二年一月二〇日にウィリアムソンがアダムスキーと共にいたのを偶然だったとは思えない。ウィリアムソンはそこにいるべき人物だったのだ!

こうした古代のシンボルその他の研究——たとえば有名な探検家パーシー・フォセット大佐の足跡を追い、南米の古代の失われた都市群を発見しようという生涯の野望は——結果的に彼を五〇年代後半に南米へ追い立てることになって数々の探検を行ない、ついには住みついたのである。ある本によれば、ウィリアムソンはスピルバーグの「インディーズ・ジョーンズ」のモデルになったのかもしれないと述べてある。ステイヴン・スピルバーグがウィリアムソンの本を読んだことはあ

りうることなのだ。特に「天空への道」を！ここで私が所有するウィリアムソンの貴重な手帳の一つから選んだ数頁の文章を紹介しよう。

●一九五七年七月八日マチゲングは真実の人々の意味である。P・ミゲルによれば、一九五四年に仕事でここに来ていた一人の男はペルー北部で赤と黄色の色光を放つ「円盤」(複数)を見たという。その男はスペインから来た衛生技師で、ホアン・マトウテスであった。彼はヨーロッパとチリで多くの仕事をやった(円盤は緑色の尾を引いていた)。また一九四八年から四九年にかけてマルドナドで一人の男が円盤(複数)を見た。

●P・ミゲルによれば、マチゲング族の言語はある非常に進化した人々の言葉を引いているというが、彼らはもう退化してしまった！

●P・ミゲルによれば、ケチュア語にはマチゲング語に似た多くの言葉があるという。また、日本語にもケチュア語とそっくりの言葉(複数)があるという！

●インカの第一、第二王朝は日本から来た可能性があるのか？それとも内陸部の古代の偉大なアマゾン帝国から来たのか？第一王朝はアマゾン起源か？第二王朝は日本起源か？

●マチゲング族は農耕民族で、斧その他を持った農民であった。彼らはカゴや陶器を作っていた。ピロ族は商人で

ある。

●アマラキレ族は戦士であり遊牧民である。どこへ行っても食物が集められている。マシユカ族は肉食民でマチゲングとは異なる。

●マチゲング族では、アチョテが赤の染料に用いられ、ウェトは黒の染料に用いられる。

●「マプエ」という言葉はマチゲング語で石や岩を意味する。

●「マシユカ族に神と自由の栄光あれ」(これはサン・ミゲルのモットー)

●ほとんどの住民が絶滅した地域に、神の聖母の全原住民が大変動の伝説を持っている！そこには古代のアマゾン帝国があったにちがいない！

●仕事にきたインディアン(ウアチピリス族のミゲール)は言う。「岩」という言葉は非常に古くからある。たぶんインカ以前の言葉だろう。

●「岩」と呼ばれる場所は「プチャロキ」という。(これはマチゲング語で甘い果物という意味)

●一九三〇年から四〇年の間にパウカルタンボとピルコポトの間に道路が完成した。そのウアチピリス族はホウエリドス族に吸収され、今彼らはマシユコ族の家族の一部族として消滅してしまった。少数の子供と老人たちが、もつと北方のアモリキレ族と合流した。

(以下次号)

Whippewa Diary-Sept.7, 1951

—Last evening(Sept.6th.) we all felt down in the dumps. My brother, Wallace Shingobe (16) was to leave for Flandreau Indian School Sept.7th.(today) and it was his last year as he is a Senior. He is very interested in electrical work and is a very fine young man. However, this morning, since I've cashed my \$35.00 check I received for selling my '35 Ford Coupe, we all feel fine. We bought \$10.00 worth of groceries at Red Owl in Mahanomen, Minn., and then saw Wallace off on the free bus ride from Mahanomen to Flandreau. He left about 9:30 A.M. Dad (Tom Shingobe) and I then set about to try and find a boat to rent to go riding. We saw Tommy Rodwell (breed) who runs Whippewa Ranch for old people in Bill's Cafe and Bob Turner (Indian) was there too. Tommy said he had a boat Dad could have for \$20.00. It is down at Mitchell Dam. So Dad, myself, Mom (Mary Shingobe), my sister Gladys Shingobe and her girl friend "Red" Sargent (Indian) all loaded up in our Ford and followed Tommy to Mitchell Dam. —I was deep in thought as we drove from the reservation country of ~~poplar~~ pine out onto the plains. Clouds were like snow-balls that were just waiting to descend onto the land. Ancient white-robed winter is not far away for the sunac is turning red even now. Sunac always turns first. The land is drying out after almost three weeks of steady rain. We cross the Buffalo River and suddenly I believe the piles and stacks of wet grain in the fields and slopes look like old Bison that once grazed the plains in an almost forgotten yesterday. As we came out of the woodlands and onto the plains and prairies south of Mahanomen. The same pattern repeats itself from ancient times—only the mode is different today. As we travel along I see happy farmers, trying on this beautiful warm day to get in a lot of work in the fields. I had heard about the grain and that if the moisture content was over 14% they should not store it away as it would be dangerous to do so. I wondered if all the farmers I saw as we went knew this. The teams of horses seemed to step in a lively fashion and the whole country-side was basking in the sun and drying. The sky had wept for many days—the earth wept too, for the grain had been sprouting and rotting where it lay in pools of mud and water. The animal had been nervous—and was afraid of a hard winter ahead. But today—there was happiness about. It is Friday—bright and sunny and life is good! The dark low, oppressive clouds are gone. The mahonome (wild rice) is ripening the same as it has been doing for generations in this land. Before the Horseman, before the settlers. This is truly a land of sky-blue water. Our stern brothers, the Sioux, named it well. It is a land of straight, slim jack pine.

▲ウィリアムソンのチップペ日記。タイプ打ちした原稿。



▲南米を探検中、原住民の墓から発掘されたミイラと共に写っているウィリアムソン。インディオの民族衣装を着ている。(ごま書房刊「アンデスの封印より」。



このたび日本GAPの地方支部として新しく埼玉支部が五月より誕生致しました。これについては久保田先生や多くの方々のご尽力を頂きまして心から感謝致しております。

記念すべき第一回目の月例セミナーが五月一七日(日)、埼玉件浦和市JR浦和駅より徒歩五分の埼玉会館六階D号室で開催されました。この会館は音楽ホールや絵画等の展示スペースを併せ持つ貸し会議場で、近代的な設備を備えた大変素晴らしい建物です。

初めてのセミナーにもかかわらず、二〇名の方が参加して下さい、会場は満席状態。幸先のよいスタートとなりました。また当日は東京本部役員の篠芳史氏、北海道支部、福山支部の皆様から祝電と激励のお言葉を有難く頂戴致しました。

午後一時三〇分よりセミナーを開始し、まずは支部代表の会田裕子の挨拶に続いて副代表の西川太と今回埼玉支部の幹事となった奥村徹の紹介後、セミナープログラムの第一番目として久保田先生による解説講義のビデオ映写を開始しました。

ビデオプロジェクトによってスクリーンに大写しされた解説講義の様子は迫力あるもので、ふだんは録音テープで聴いている聴覚だけの解説講義とは大差があり、東京本部月例セミナー会場にいるかのような臨場感を味わえます。今回は四年度の本部セミナーの

講義「生命の科学」第一章を映写しました。埼玉支部は今後も東京本部と同様に視聴覚プログラムに力を入れて、久保田先生による講義のみならず貴重なUFOビデオ等の上映も企画しております。

約一時間半の解説講義の後、第一回目を記念する特別プログラムとして、伊豆支部代表の高梨十光氏の講演が行なわれました。ずいぶん古くからの会員であり支部代表もつとめておられる高梨氏のお話は大変興味深いものでした。UFOに興味を持ったきっかけや、日本GAPに入会した経緯、私生活での変化や支部のエピソード等を、氏独特の語り口で約一時間話していただき、非常に有意義なひとときを過ごすことができました。

続いてテレビパシー開発練習となり、今回は特別に本部役員幹事の加藤純一氏の指導による東京本部月例セミナーと同じ要領による開発練習が実施されました。最後に第一回目を記念しての全員記念撮影を行なって無事に終了しました。

その後は希望者で浦和駅ターミナルビル二階に位置するレストランにて夕食会を開催。奥座敷での乾杯後は歓談に花が咲き、新旧会員同士の交流も深まり、時を忘れての楽しい酒席となりました。特に地元会員の皆さんから「埼玉県によくぞ支部を作ってくれた」「身近に支部が出来てうれしい」とい

▼第1回埼玉支部月例セミナー。前列左より高梨十光伊豆支部代表、会田裕子埼玉支部代表、西川太副代表、奥村徹幹事。



う声が多数上がり、今後の埼玉支部に対する心強い言葉が聞かれました。

埼玉支部では早くも支部活動の第一弾として地元埼玉県の浦和市役所内市民ギャラリーで六月二日から二八日までUFO写真展を開催。会員の方々も自発的に運営に協力し、まさに活動

する支部として早くも始動しています。今後の埼玉県内のUFO写真展開催の予定は以下のとおりです。

●九月二日(土)～二六日(土)

●会場 春日部郵便局ふれあいの広場  
●お問合せは支部代表・会田の電話へ。

0492(81)4267

## 私が目標とする

### 宇宙への道(2)

● 渡辺康英

スライドを映写する光でそこに集まってきた方々の顔はある程度まではわかるのですが、全く記憶していません。その内容を説明している途中で、記憶していないのに頭の中に内容が送られてくるような気がし始めまして、何かおかしいなあと思いつつながらスライド映写を進めておりました。

その内、ある方向からその想念が送られて来ることに気がつきまして。説明しながらその人の方を見ましたところ、二〇代の女性が座っておられて、目と目が合ったのですが、目のまわりは雲がかかったような状態で、目付きは全く見ることはできませんでした。

ただし口もととは非常ににこやかな微笑を浮かべておられまして、私が気づいたときに、「ああ、気づかれちゃった」というような少女のような純粋な想念を送ってくれた、というようなことを今でも記憶しております。

私は気が動転して、これは特別な方（異星人）がいらいしやつたのではないかと気がつきましたが、それでもスライド映写会を中止することはできませんので、気が動転しながら説明を終

えました。

それを終えたと同時に私はその方の方へ行ったかったのですが、後輩五〜六人に囲まれて、すぐにその場を離れることができなくて、結局、その方が教室から出て行く後ろ姿だけを見ることができました。中肉中背の方で、さつと外に出て行かれました。

そんな体験をさせて頂きましたが、私自身は文化祭でスライド上映会を行なうというのは、自己満足的なかなり浮ついた気持ちで開催したのですけれども、なにかとつもないようなご褒美みたいなものを頂きまして、これも本当に私にとってラッキーなことでした。

### 日本GAPから決して離れなかった

といいますのは、私が高校の頃から超能力のブームが起りまして、それはそれでよかったんですけれども、それをマスコミがずいぶん叩きました。それと月とか惑星に関するいろいろな情報も出てまいりましたけれども、必ずしもアダムスキー氏が言われているような情報ではなくて、むしろ否定的な情報が沢山流れていたわけです。

ですから、せっかくこのGAPに当時入会されていた方でも、その科学的な情報ということで、惑わされてしまった方もけっこう沢山いらつしたのではないかと思います。

私自身はそういう体験をさせて頂きましたので、どんな情報が出てきても操作されている情報が出てくるという感じで、アダムスキー氏の体験を全く疑うということではなくて、私が宇宙哲学を熱心に実践したというわけでは全くなかったのですが、この会の久保田先生の教えから離れることなくいることができたわけです。そういった面から大変貴重な体験をさせて頂きまして、本当にラッキーに恵まれているという状況でございます。

### 人生の艱難の体験

高校二年から宇宙哲学を研鑽し続けて今ここにありますと言えればいいのですが、実はそれ以後、関心が遊ぶことに移りまして、高校大学と遊びほうけてまして、たぶん想念は非常に低俗なレベルに落ちていったと思います。

ただし円盤とか宇宙哲学に関心はあったのですけれども、それ以上に何か浮ついた仲間と遊ぶことに関心が移ってしましまして、久保田先生から教えを受けるということもすぐおろそかになってしまった状況です。

そのために結局そのツケが二〇代後半から三〇代前半にかけて回ってきまして、私自身は職場では結構苦勞致しました。その苦勞といえますのは、とにかく労働時間が長いということで、それだけならまだいいんですけれども、

いわゆる商品がしつかりとこのわなぐらいに忙しかつたわけです。

会社は変わりましたが、自治体の受託調査を主として担当しておりまして、調査が非常に時間がないために、おろそかな状況で最終的に報告会を開くというようなかたがが多くて、肉体的にも精神的にもストレスが高まっていたわけです。

### 不思議な夢を見る

その当時非常に印象的な暗示的な夢を見ました。それは久保田先生や熱心なGAPの会員の方々が雲のような物に乗って、地上を離れて行くというような鮮明な夢を見たんです。たぶん高度な惑星に移って行くというような暗示的な夢だったと思うんですが、そのときに私自身は何か孤島に一人残されているような光景でして、私自身が宇宙哲学から落ちこぼれてしまったことを実感させられるような夢でした。

その夢を見た当時は宇宙哲学から落ちこぼれていた状態だったわけです。仕事も忙しくてストレスもたまつて、たぶんあまり良い想念を発していないかった時代が結構長く続いたと思います。が、結局、そうした追い詰められたときに、最終的に私が頼りにしたのは、やはり宇宙哲学でした。その当時は哲学の身勝手な活用をしていたのです。

（以下次号）

# UFO目撃日記④

加藤純一

日本GAP  
東京本部役員幹事



昨年二月のイスラエル旅行ではコンタク  
トを望む私に、次のステップへ進むべくスベ  
ーブラザーズ（異星人）との一つの約束がな  
された。二月からは特に自分にとって重要な  
目撃や意識と連動した現象が続いた。以下は  
その報告。

一九九八年二月

●五日（木）夕方、仕事で訪れた都内  
青山方面へ着くと宇宙的なフイーリン  
グを感じられた。いつものように空を  
見上げていると渋谷駅方面の上空に逆  
Uの字のサイン雲がたくさんあった。  
左手の西方面を見ると一つの巨大な黄  
金色の雲が浮かんでいた。不思議なこ  
とに中心部に横一直線の葉巻型母船の  
ような割り書きがあり、周りの雲は変  
化してゆくのにはそれは一〇分以上くず

れることはなかった。

「葉巻型大母船の夢と映像、乗船して  
いるスベースブラザーズの波動」

この時期は母船の写真を撮ることを目  
的としてつねにカメラを持ち歩いてい  
た時期で、スベースブラザーズには昨  
年の一月からお願ひしていた最優先  
事項であった。この写真の他に昨年の  
イスラエル旅行でも母船と思われる写  
真を撮っている。これは一月二十四日  
の夕方にバスで移動中、車中から撮影  
したもので、雲のない西の空にピンク  
色のフォースフィールドに包まれた母  
船が浮かんでいるという写真だ。本誌  
一四〇号の旅行記にもあるように、こ  
の夜に写真の母船と同じであると思わ  
れる巨大なUFOが出現、参加者の多  
くが長時間に渡って母船の光や母船に  
帰投するスカウトシップの光体を目撃  
した。

これらの写真は久保田先生を通じて  
コンタクティーの秋山眞人氏に鑑定を  
していただいた。そして両方とも紛れ  
もない母船だという透視結果が出た。  
しかし驚くべきは、雲やフォースフィ  
ールドでカムフラージュされていると  
はいえ、東京という大都市（しかも渋  
谷！）やエルサレム上空に母船が降下  
してくるという事実だ。もちろん母船  
クラスが頻繁に都市部にやってくる  
は考えにくいだが、要するに彼らは案外  
近くににいるのだが、我々地球人が気付  
かないだけなのだ。

私は宇宙的な波動を感知した時には  
必ず手帳に記録を取るように心掛けて  
おり、改めて読み返してみると、特に  
今年の二月から四月の月上旬にかけては  
母船の映像が見えてきたり、同乗され  
ているスベースブラザーズの方々の波  
動を強く受けていることがわかった。  
また、同時に夢日記を読み返すと夢の  
中にスカウトシップだけでなく、葉  
巻型の母船が何度か出てきていること  
がわかった。

さて、スキヤニングディスク、ス  
カウトシップ、サイン雲等の宇宙的な  
写真の撮影に成功し、あるステップの  
区切りとして「母船の写真を撮りた  
い！ もし許されるのなら撮影させて  
下さい！」と願っていただけに、この  
想いに応えて下さったスベースブラザ  
ーズの寛大な姿勢に溢れんばかりの愛  
情を今ひしひしと感じている。  
そう、また一つ願ひは叶えられたの  
だ！

●一七日（火）朝方、額に強烈な微弱  
振動を感じる。

●二二日（土）奈良での質疑応答会を  
控え、関西地区有志のメンバーと打ち  
合わせを行なうために本部役員の津田  
副幹事と会田さんの三人で奈良県へ行  
く。途中、額に微弱振動（アイドリン  
グ）を感じる。と、同時に葉巻型母船  
の金色に鈍く光る胴体部分の映像が見  
えてきた。また、スベースブラザーズ  
の存在を明確に感じ取ることができた。

「アイドリングとテレパシー、目撃」  
私はよくUFO目撃談についてお話  
をさせていただく時に、折にふれて出  
現前の合図として感覚や体調による変  
化が明確にやってくると述べてきた。  
特にスベースブラザーズが完全に意図  
的に行なっていることとして「アイド  
リング」という身体的変化が明確に感  
じ取れる現象が挙げられる。これは額  
の中心部、眉間の少し上部に微弱振動  
を感じるといふもので、超能力的に表  
現すると、いわゆる「第三の目」、「天  
目」、あるいは「アジナーチャクラ」  
とも言われる部位である。

この「アイドリング」を劇的に体験  
したのは一九九五年の第一回高松支部  
大会の翌日観光でのことだった。五月  
二十九日の月曜日、関高明代表先導のも  
と、久保田先生以下、会員有志の方々  
で屋島を訪れた。車を降りてから、一  
番後続として、緩やかな坂道をゆっく  
り登っていると正面の少し曇った空か  
ら白い光線がこちらをめがけてやって  
くる。「あっ！」と思った瞬間、避け  
る間もなく実際に額に何か当たったよ  
うな軽い衝撃を受けたのだ！ 実際には  
見た目は違って衝撃の痛みもなく、  
精神的な動揺の方が強かったのを覚え  
ている。

過去につけた手帳を調べてみると九  
三年にも一度部屋の中で同様の体験を  
している。この件に関して久保田先生  
は個人的な書簡の中で「スベースブラ



「ザースからの放射光である」ということをはつきりと指摘されているのだ！（また、もう一つの意味として、ある予言・予知をされているが、ここでは省略する。）また、その後、コンタクトティーである秋山眞人氏にこの「光線」について尋ねてみたところ、

①この種の光線はUFOから直接発せられるもので、受信先の人間にブラザー側からのメッセージ、テレパシーを受け入れやすくするために上空から送られてくる特殊な措置である。

②これを「アイドリング」といい、光線の種類（色）は二種類あるという回答を得られた。また、この時に「コンタクトに焦りは禁物だ。その時がくれば向こうからやってくるんだよ。」とアドバイスされた。

その後（九五年から）、頻繁にこの感覚がやってくるようになったが、アイドリングがあれば必ずUFOが出現するかと言えば必ずしもそうではない。よくあるのが大宇宙思念法の最中やGAPに関わる活動に際して、特に久保田先生や本部役員との打ち合わせの際など、極めて重要な決断や意見が必要な前後にやってきて、問題の回答がひらめいたりするのだ。また、同時に母船やスペースブラザーズの映像が見えてきたり、時にはあたかも側にいるような強烈な感覚を受け取る。

そういう観点から推察すると、彼らとの意識の間には境界線などは存在せず

にメンタルテレパシーによって、直接コンタクトに至らなくても、とりあえずもつと身近な存在としてブラザーの世界を感じできるのかもしれない。また、このアイドリングはある一定の周波数を持つているようで眉間を通してその奥にある頭蓋骨にまで心地良く響くことが多い。そしてこの感覚は明らかに外部からくるものであり、最近では視覚的に見えないことも多いが、（時には見えることもある。）定期的に体験している不思議な現象の一つだ。以前、ある支部大会に参加した際に一會員の方が私と同様の体験をしていることを知らせてくれたことがある。

●二二日（日）サイン雲出現について。奈良での打ち合わせを終えて午前中から家族で買い物に出かけた。帰り間際の一時五〇分頃にまたも宇宙的な波動を感じて空を見上げてみると、M駅上空に逆Uの字のサイン雲が出現したのだ！妻と私はその一部始終を観察したが、それはまるで空中に文字を描くように鮮やかな光景だった。

時には彼ら（UFOの本体）を見ることが出来なくても、その存在はサイン雲や強烈なテレパシー、アイドリングではつきりと認識できるようにになった。それはコンタクトを望む私にとって本当にうれしいことなのだ。また、久保田先生はかなり初期の頃からこれらの感覚に関してはなるべくメモを取

るようにアドバイスされ、その他の様々な体験や不思議な感覚についてもそれが「個人的な欲求」から来るものなのか、それとも「宇宙的な源泉」から来るものなのかを的確に区別して頂いた。当時、度重なる体験と、「回答のない」世界の中で精神的に参っていた私は随分と久保田先生の懇切丁寧な回答によって自らの体験に自信をつけられるようになり、そして何よりも迷わずにここまでGAP活動を続けてこられたのだ。そして今はいつもの上空とつながっているような、そんな宇宙的な感覚に満たされているのだ。

●二七日（金）またもアイドリングに伴い母船の映像が見えてくる。

三月

●三日（火）と一四日（土）は母船の夢を見た。いずれも乗ったりはせずに荘厳な雰囲気の中で映画のように動きのある臨場感ある映像が特徴だ。

また、三月は二回ほどUFOを目撃している。

●一七日（火）午後一二時頃。UFOを目撃。その直前に、特定の人物に対してある種の怒りの想念を持っていたが、久保田先生や津田氏から「GAP活動の際に怒りの想念を持つてはいけない。」と言われたのを思い出した。

思い煩ってばかりいても仕方ないので気分を変えようと空を見上げた瞬間、UFOは私の想念を観察していたかのよう

に「そこ」にいた。なんだか「その心の使い方でいいんだよ」と言われたようで（心を見透かされていたように）少し恥ずかしかったが元気が出た。ちなみに都内外堀の周り（市ヶ谷から秋葉原）の上空にはUFO、サイン雲がよく出現するようだ。

●一八日（水）夢の中に動く金星のスカウトシップとアダムスキー氏が出てくる。スカウトシップのフランジの部分には何か文字が書かれていた。

●二六日（木）午後一二時一〇分頃、東京世田谷区と神奈川の川崎市の間を流れる多摩川上空にUFOが出現。突然UFO出現のフィードバックを感じ、振り向くと一機の黒い物体が滞空していた。すると突然それが二機に分かれたかと思うのと、あつという間に四機になった。その原理などは一切わからないが、とにかく知的に操作されているのがよくわかった。それは二機、四機になった際にフォーメーションをとっており、最後は一機ずつスピードをあげて三方向に飛んでいったからだ。

最後に残った指令機と思われる一機はUFO特有の銀色の機体を見せながら垂直上昇していった。（この日は二三日から体調が悪く、大事をとって病院に行く途中での目撃となった。）

四月

●三日（金）母船の夢を見た。流線形の機体の中央に何かのマークがついて

いる。

●六日(月) 夢。六角形のUFOがフ  
ォースフィールドに包まれてゆく。

●一九日(日) UFO contactee 最新  
一四一号詰め込み作業日。朝、小型U  
FOの内部構造に関する臨場感あふれ  
る夢を見た。

●二〇日(月) 午後七時四十五分頃、自  
宅近くで妻とUFOを目撃。天空を横  
切る丸い円盤状の物体。人工衛星か  
な?と思っているとき急にコースを西  
の方向へ変えて弧を描くようにして飛  
んでいった。この日は仕事からの帰り  
がけの途中から「UFOがこれから出  
現するかもしれない!」という強烈な  
フーリングがあったために家族で近  
所を散歩していたのだ。

●二九日(水) 久保田先生の体調に関  
する夢を見た。また、はじめて見るコ  
ンタクティーを名乗る若い男性が夢に  
出てきて、夢の中で青緑色のUFOを  
呼び出した。そして彼は都内のX地区  
にいたと言った。

「久保田先生の体調とご入院にまつわ  
る不思議現象」

五月

●二日(土) 久保田先生と津田氏と打  
ち合わせ。この時、先生はすでに胃の  
調子が悪いようではとんど食事を口に  
されなかった。この日、あまりにも顔  
色が悪かったので先生をお見送りにし  
た後、津田氏と今後の本部役員につい

のあり方などを長時間打ち合わせた。  
●五日(火) UFO出現の夢を見る。  
突然空間に銀色の球形UFOが出現し  
て、楽しそう?に舞っている。

●六日(水) お昼頃、なんとなく先生  
のことが気になり、特に用事も無いの  
に電話をすると思えば的中してしま  
った。先生は今、入院中だという!

またまたタイミングよく奥様がご自宅  
に戻られて今また病院へ行くところだ  
という。長話は出来なかったが事情は  
理解できた。今にして思えばあの時の  
印象に従って連絡をしてよかったと思  
う。その後、即、本部役員副幹事の津  
田氏に連絡を取り、月例セミナーなど  
の対応を検討した。そしてこの日から  
フーリングを開始! アダムスキー氏  
が書いたイエスの透視画を切り抜いて  
部屋の壁に貼り、イエスの広げた手を  
通して久保田先生に毎晩パワーを送信  
した。理屈はいらない。ただ、元気に  
笑っている完治された先生の健康な姿  
を思い描いてフーリングを続けた。

●八日(金) 久保田先生との面会日。  
先生は意外に元氣だった。朝方、不思議な夢を見た。喫茶店のような場所で  
二人の女性と私が話している。右側の  
女性は明らかに日本風で、上品な感じ  
のする女性だ。下心を持ったわけでは  
ないが、あまりにきれいなので声をか  
けると、突然その女性が私の目を見て  
「金星には人間が住んでいます。雲の  
下には人間が住んでいます。水河や水

もあります。雲の下には・・・人間が住  
んでいます。」と、はつきりとした口  
調でやさしく言われたのだ!

●一〇日(日) 月例セミナー当日。久  
保田先生がご不在ながらも、常連の  
方々のご支援により無事に終了するこ  
とができた。こうして不慣れながらも

久保田先生の代わりを務めさせて頂い  
て改めて感じたことは、先生が三〇〇  
回以上も毎月この月例セミナーを続け  
てこられたこの偉業は必ずや後世に残  
るだろうということ、そして、特に宇  
宙の法則たるアダムスキー哲学(宇宙  
哲学)をこうまで一貫して指導してこ  
られた先生の功績は今後ももっともつと  
評価されるべきであると思った。久保  
田先生はこの日もベッドに横になりな  
がら大宇宙思念法を駆使し、「絶対に  
諦めない力」をもって治療に専念され  
ていたという。

●一日(月) 久保田先生と一体化す  
る夢。先生が夏になるとお召しになる  
白いスーツと白い靴をお揃いで着て歩  
いてゆく夢。しだいに一体感が高まり、  
「私は先生、先生は私・・・」という究極  
の一体感を得る。先生は必ず治る!と  
いう安心感を得られた。

●一四日(木) 地震予知について。  
午後、カレンダーを見ていると、突然  
千葉県と鹿児島を中心にして地震が起  
こるという印象がやってきて、続いて  
地面が揺れている映像が見えた。そこ  
でいつものようにメモ帳に書いておい

た。(注)一六日付の新聞によると一  
六日午前三時四十五分頃に千葉県南部を  
震源とする震度三の揺れが関東を中心  
に観測された、とある。鹿児島に関し  
て大きな地震はなかったようだ。)

●一五日(金) 午後、UFOの映像が  
明確なイメージとしてやってくる。妻  
と津田氏に近いうちにUFOが現われ  
るだろうと目撃予告をする。

●一七日(日) 埼玉支部第一回月例セ  
ミナー当日。素晴らしいセミナーの後、  
夕食会となる。途中、黎明会メンバ  
ーで内科医の沖山洋氏からPHSに連絡  
が入る。聞けば彼は夢で私が冷や汗を  
かいて困っている姿を見たという。そ  
れで心配して連絡をくれたのだ。実際  
今回の久保田先生のごことで自分の認識  
の甘さなどが露呈され、自己嫌悪に陥  
って内心は毎日が冷や汗状態だったの  
だ。沖山氏は私の良き理解者であるの  
で心の内面までをテレパシーで的確に  
捉えてくれたのだと思う。

●二〇日(水) 久保田先生との面会日。  
朝方にまたも不思議な夢を見た。それ  
は先生と一緒に暗闇の空を見ている  
というシーンで、しばらくじっと見て  
いると巨大なオレンジ色の太陽らしき  
物が何度か現われるという美しい夢で  
あった。最後に現われた時には太陽の  
下にUFOが数機横並びになっていた。  
とにかくこの夢を思い出した時にスベ  
ーブラザーズの教育的な意味と、久  
保田先生の体調に関することを意味し

◀一九九七年一月二日、白昼二時頃、神奈川県川崎市の上空にアダムスキー型UFOが出現。しばらく位置を変えずに滞空していた。写真を連続四枚撮り終えると、突然スピードをあげて光りながら飛んでいった。この写真は視界から消え去る直前の五枚目の写真。



ているのではないかと考えた。

実は四月一〇日の深夜にも（正確には一日）顕在意識下で同類の映像を見ている。

●二三日（土）自宅近くでUFOを目撃。午後二時半頃。東の低い空から民家の屋根を飛び越えて黒いUFOが二機、飛んできた。妻は青色に見えたという。この時は「UFOを見たい、スペースブラザーズとコミュニケーションをとりたい!」という気持ちをつねに心のどこかで持たなければブラザーズとはコンタクトできない、という印象がなぜか自然と湧き起こってきたのだ。そこで早速歩きながら「どうか、お時間があれば近くに来て、そのお姿を拝見させて下さい。」と呼びかけた途端の出現だった。さて、一機は南の方向へ飛んでいつてすぐに見えなくなったが、もう一機は進路を直角（北）に変えてゆっくりと飛んでいる。フォースフィールドによるものだろうか、形が時々歪んで、瓢箪（ひょうたん）のようにも見えたが、最後はスピードを上げる際に機体が銀色に変化していった。すぐに写真に撮ったがなぜか完全な球体で真っ黒く写っていた。

●三一日（日）退院された久保田先生宅へ所用で行く。駅に着き、タクシィに乗り込み先生宅へ向かう。途中、スペースブラザーズ・UFO出現に伴う特有の印象を強烈に感じる。先生宅前でタクシィを降りてふと左手の空を見

上げると真円の雲が浮かんでいた。それは昨年のイスラエル旅行中、我々を見守っていた円盤と同じようにフォースフィールドをまとった姿だった。（本誌140号四三頁の写真を参照）「彼らはスペースブラザーズだな」と思っていると、突然、空を駆け上がるかのようになってその真円の雲が垂直上昇し、「I」のような文字が瞬間的に出来上がった。妻と驚いて見ていると今度はその「I」の雲文字が最初にあった真円雲の十倍以上の大きさになったのだ!。

今までUFO目撃のために多くの時間を費やし、特に日中はテレパシーによりUFO、スペースブラザーズからの「サイン雲」を目撃する機会に恵まれているが、今回のような劇的な光景は初めてだった。

冷静に分析してみると、これら一連の現象は時間にして全体で五秒もかかっていない。もちろん自然現象で真円の雲が青空の中に一つだけ浮かんでいるのも不思議だが、それが「I」の字になり、しかも瞬間的に巨大な雲に変化するということはやはりスペース・ブラザーズの乗り物であるUFOのなせる技であろうと推測できる。大体、空全体は澄んだように青い。そんな状況でのタイミングの良さすぎる不思議な現象に「スペースブラザーズは久保田先生をいつも見守っていらつしやるのだ!」ということが理解できた。

（以下次号）



# 宇宙の法則のもとに生きるスペースブレイザーズ (5)

ジヨージ・アダムスキー／久保田八郎訳 〈アダムスキー講演集 連載22〉

(前号からの続き)

問 それらは誰からやって来るのですか？ (想念の発生源に関する質問)

ア それらは全宇宙からやって来ています。それらは、何十億、何百億マイルもの彼方からさえて来て来ることが可能です。このように言えば分かりやすいかもしれません。

テレビができる前、ラジオのアナウンサーが言葉を発すると、それは電波に乗って一秒間に地球を七回り以上も進行すると言われたものです。ということは、つまり、アナウンサーの言葉が、彼の口から出た瞬間に世界中の大気内に充満するということでもあります。そして皆さんは、しかるべき装置さえ持っていれば、それをどこにいてもキャッチできるわけです。

そしてそれは、電波によって運ばれるわけですが、「意識」はそれ以上のスピードを持っていて、常に大気中に満ちています。ですから、皆さんは、常に意識を引き込んでいるのです。それははるか彼方からやって来ている、とも言いますが、実際には決してそうではありません。皆さんは

常にそのすぐそばにいるのです。なぜならば、皆さんはその中に、意識の中にいるからです。ちょうど、海の中で生きている魚たちのようにしてです。皆さんはそれをあらゆる方面から受け取っているのです。

問 それらの想念を送り出しているのは創造主なのですか？

ア もちろんです。言い換えるなら、我々は放送局のようなものなのです。そして創造主もまた放送局です。創造主は、我々が想念あるいはアイデアと呼ぶ波動を送り出しています。彼も、そのようにして、皆さんが行なっていることと同じことをしているのです。分かりますか？

ただし、彼は一つの種類の波動だけを送り出しています。そして皆さんは、ときおり、それと相反した波動を送り出します。なぜならば、いったい何が起きているのか、それがどのように機能しているのか、彼が何をしているのかを理解していないからです。

実は、皆さんや私を含めたあらゆる人間が一緒になって、いわば共同回線 (訳注：単一の回線によって多くの電

話機を局と連結する電話回線) を所有しているのです。共同回線というものがどんなものかはご存じですね。

皆さんが話し始めます。そして他の誰かもその回線を使って話し始めます。皆さんの話し相手は、すぐに皆さんが何を話しているのかを聞き取れなくなってしまう。いろんな人の声が入り交じってしまうためにです。そこで

皆さんには個人回線を設置する自由が与えられています。それを設置することで皆さんはあちこちからの混乱した思考を受け取らずにすむことになりました。

## 物質とは何か

問 物質とは何なのでしょうか？ あなたは、人間は創造主のアイデアが表現されたものだとおっしゃいました。物質とは創造主に何らかの制限を加えるものなのですか？

ア いや、物質はいかなる制限も加えません。創造主は物質とともに活動し続けています。彼は人間がより素晴らしいバイオリン造りに励むのと同じよ

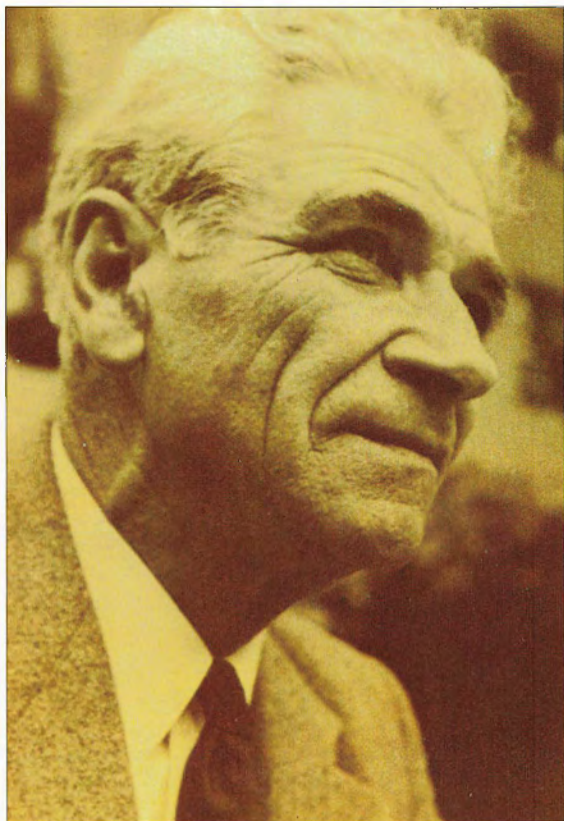
うにして、それとかかり続けているのです。もしある人間がバイオリンに自分の最高レベルのフィーリングを表現させたいと考えたとしたら、その人間はその目的を果たすために、バイオリンの改良に延々と努め続けることになるでしょう。

問 創造主が物質を造ったのですか？

ア もちろんです！ そもそもあなたは物質とは何だとお考えなのですか？ 物質の本質は我々が気体として理解しているものに他なりません！

問 気体とは何なのですか？ (別の質問者)

ア 我々がまだよく知らないものの一つです。我々はそれを気体と名付けていますが、それは生命の海のようなものです。我々が物質あるいは固体と呼ぶものや皆さんがいま持っているもの、たとえば、我々が知る他のあらゆるものと同様、本質は目に見えない決して破壊されることがないものです。科学者たちは、特定の形あるものを別の形あるものに変えることができます。しかし彼らは、そうやって特定の形を破壊したとしても、その形を作り上げて



▲ジョージ・アダムスキー ©日本GAP

いる本質を破壊することは絶対にできません。それは永遠なのです。

皆さんは、たとえどんな宗教も信じていなかったとしても、永遠性や永遠の生命の存在に関しては信じざるをえないはず。なぜならば、科学者たちは物質の本質を破壊できないことをよく知っているからです。彼らはそれを絶対に破壊できないのです。

物質を形あるものへと導いている知性は、その形あるものに先行しています。そしてそれは、同じように、決して破壊され得ないはず。なぜならば、それは形あるものが出現する以前からそこに存在していなくてはならないからです。

結局、科学者たちは、すでに我々が所持している生命が永遠であることを、地球上のどんな宗教よりも明確に証明しているのです。宗教はこのことをただ漠然と唱えるだけですが、科学者たちはそれを実験室の中で明確に証明しているのですからね。

問 アダムスキーさん。物質を別な名前と呼んでいただけませんか？

ア 「生命の本質」と呼んでもいいでしょうし、「出現の各種段階」とも呼ぶことができます。

問 それは単なる血や脳や骨などではないのではないのでしょうか？ 物質とはそれ以上のものではないのですか？

ア 血も肉も骨も生命の本質で造られています。

問 でも、それは物質のすべてではないのでしょうか？

ア いや、それがすべてです！

問 私はそうは思いません。物質はそれ以上のものだと思います。気体やエーテルを用いる以外に、それを説明するもっと良い方法がきっとあるはずだと思いませんか？

ア いや、そんな必要はありません。物質は気体なのです！ 炭素というものがあります。それはいくつもの原子が集合しているときには固体ですが、それぞれが分離することで気体になります。それは、そのようにして気体に姿を変えますが、その際にいかなる破壊も体験しません。生命の本質は決して破壊されることがないのです。これが、今の我々が知り得る「物質とは何か」のすべてです。

問 私たちはそれを、心によってコントロールすることが可能ですか？ 精神的パワーを用いた肉体のヒーリング（癒し）に関する話を良く聞きますが、ア その質問に答える前に、先ほどこちらの紳士が提起した問題に関して、もう少し話させて下さい。

いいですか、先ほど申しましたように、皆さんは、心のスクリーン上を通

過していく一種類の想念だけを手にし続けているわけではありません。なぜならば、この地球上には、三〇億もの人間がいるからです（訳注：現在約六〇億）。動物その他の生き物を含みません。人間だけでそんなにいるのです。そしてその三〇億の人間が、お腹がすいたとか何か食べるものがほしいなどと考えているのです。三〇億の人間のすべてが、水または何かを飲みたいとも考えています。三〇億の人間のすべてが、皆さんや私のように、眠ること、服を着ること、どこかに行くこと、さらには、生活に必要な共通した様々なものなどに、思いをめぐらしています。

つまり、皆さんは、創造主からの想念のみならず、人類のこのような様々な想念も、受け取り続けているわけです。

人類は皆、普段、ほとんど同じようなことを考えています。人類が共有する特定の行動形態に従っているのです。皆さんはそのプログラムに従ってほとんどの時間を過ごしています。しかしときおり自分の心に進入した宇宙的な想念に気づきます。皆さんはそれに気づくことができます。なぜならば、それはいかなる混乱も分離も持たないからです。それは常に心を高揚させてくれます。なぜならば、それは一つの一体化したシステムの一部であるからです。一方、人類の想念は混乱と分離を



表現しています。そしてそのために人類は、悲しみ、痛み、その他のあらゆる想念を受け続けています。しかし、宇宙的な想念は、決してそんなものとは関係ありません。

## 想念で病気を治す

そして人間は、想念の持ち方一つで、肉体的な痛みからさえ解放されることが可能です。痛みを感じるのは心であるからです。病院で手術を受けるとき、皆さんは自分の心を麻痺させます。そのとき皆さんは、決して「意識」を麻痺させたりはしません。皆さんが麻痺させるのは心です。心が麻痺しているとき、皆さんの肉体はどんなに切々刻まれようと、まったく痛みを感じません。肉体は、そもそも痛みなど持たないのです。肉体に痛みが発生するのは、心が肉体を異常な状態におとし入れたときのみです。

たとえばここに手があります。我々は特別に意識してこれを用いるとき以外は自分がこれを持っていることさえ忘れていきます。しかしもし我々がこれを強くつねったとしたら、これを異常な状態におとし入れたとしたら、ここにはすぐに痛みが発生することになります。

さて、ヒーリング（癒し）ですが、人々はほとんどの場合、誰かに治してもらったりするのではなく、自分で自

分を治しています。私はこれまで無数のヒーリングを行なってきました。その気になれば、それに関する自分の功績をいくらでも話すことができます。でも私は真実を知っています。ですから、これまでに自分が行なったヒーリングのどれ一つに関しても、自分の功績を主張する気はまったくありません。ほとんどの人々が自分で自分を癒しているのです。

たとえば私が皆さんに、皆さんが抱えているトラブルを私が一手に引き受けると信じさせることで、皆さんの心からトラブルを一掃したとしましょう。その結果、皆さんは心の自由を得て、あらゆる悩み事から解放されます。続いて皆さんは、自然に、皆さんの肉体内の悪い場所をすぐに癒す機会を与えることになります。そして皆さんの肉体が完全に癒されたとき、皆さんはそれを私のおかげだと言うかもしれません。しかし癒したのは私ではないのです。

## マーガレット・ウェアの奇跡的治癒

一つだけ、実例をお話ししましょう。マーガレット・ウェアという名の億万長者の女性がいました。当時五五歳でした。そして彼女の母親は七五歳でした。その二人が一九三六年にラグナビーチにいた私のところにやって来ました。

マーガレットは骨と皮だけの状態でした。彼女は毎週主治医から薬をもらい、それで命をつないでいました。彼女の主治医はアンダーソン博士といい、ハリウッドに住んでいました。彼女たちは私の話をどこかで聞いて私を訪ねてきたのです。

私は、まず彼女たちを前にして、たわいのない世間話をしました。それが終わると彼女は私に近寄ってきて話しました。彼女はある手術を受けていました。彼女の体からは女性器官のすべてが取り除かれていたのです。

その手術を行なった主治医から、そのとき飲み続けていた薬をやめると死ぬだろうと宣告されていました。それで彼女は私に「一度取り除かれた体内の器官は、二度と元には戻らないのか」と尋ねました。

私にとって、そんな質問をされたのは初めてのことでした。しかし、とつさに私はある考えを思い浮かべました。「蟹の足は、たとえもげてしまっても後からちゃんと生えて出てくるではないか。一度取り除かれた人間の器官もそれと同じようにして再生することは十分にありうることだ」という考え方です。それで私は彼女にそのことを話しました。

すると彼女はもうそれならそうなる可能性が高くなるのかと尋ねるのです。そこで私は「心を可能な限りニュート

ラルな（中立な）状態に保ち、内側で作動している自然の法則の数々を妨害しないことだ」と教えました。平穏な心を保つことで、それらの法則の作動を妨害しないことだと話したのです。

すると彼女は「でも、ハリウッドにいては、そんな心の状態を保つことは無理です。ここに住まわせていただかせないでしょうか？」と言うのです。

我々の住居には多くの部屋がありましたが、それまで他の誰かをそこに住まわせたりしたことは一度もありませんでした。しかし彼女の熱意に押されて、私は彼女を彼女の母親と共に預かることにしました。部屋代と、食費、それから、指導料をいただくという条件です。その家では私は当時ある講座を開いていたのです。

彼女たちはとてつもなく裕福だったのですが、私は彼女たちに決して多くの費用を求めませんでした。もっとも、彼女たちへはときどき町に出ていって、我々のためにご馳走をたんまりと買い込んできてくれたりしましたので、その分け前にあずかることがありました。ただし、そんなことは彼女たちにしてみれば何でもないことでした。なぜなら彼女たちは私にかりに一日当たり千ドル支払ったとしても破産することなど絶対にない人たちだったからです。

## 体内の器官が生えてきた！



さて、彼女たちが我々とともに暮らし始めてから三カ月ほどが経過したこのことです。その間、彼女たちは一度もハリウッドには戻りませんでした。マーガレットが私に歩み寄って、「プロフ」と話しかけてきました。プロフとはプロフェッサー（教授）の省略形で、私のニックネームでした。長年指導をしていたものですから、そんなニックネームをもらうことになったわけですから、それはともかくとして、そのとき彼女はこう言いました。

「ねえプロフ、なんだか私の体の中で何かが成長し続けているみたいなの」

私は、「なるほど。それはいいことだ」とだけ言って立ち去りました。彼女は、私が目を光らせて彼女にあれこれと質問をしてくと予想していたようでした。でも、私はしらぬふりを通しました。

それからさらに三カ月が過ぎました。マーガレットの母親はスー市にあったある会社のオーナーで、そこからなおも莫大な収入を得続けていました。それであるとき、その事業の様子が気になって、過去六カ月分の帳簿を点検するために、ハリウッドに出かけて行きたいと考えました。それはマーガレットも一緒に出かけたいことを意味していました。母親がそこに行くにはマーガレットが車を運転するしかなかったからです。

そこでマーガレットは、ハリウッド

に出かけていってもかまわないかと尋ねました。私は「もちろん、かまいませんよ」と答えました。続いて彼女は、彼女を手術したアンダーソン博士に会いにいつてもいいかと尋ねるので、私は「もちろん、いいですよ」と答えました。彼女の体は、すでにとても健康な女性のそれでした。体重も増えて血色も申し分ないという状態に回復していたのです。薬はもうまったく飲んでいませんでした。ですから私は文句なしに外出許可を出したわけです。

さらに彼女は蛍光透視写真とエックス線写真を撮りたいとも言っていました。私はそれもこころよく許可しました。というのも、私は彼女がまだ自分の体の回復に関して、ほんの少しだけ疑いを抱いているのを知っていたからです。

さて、まもなく彼女はアンダーソン博士に会いにきました。そして蛍光透視写真を撮ってほしいと申し出ました。彼女と久しぶりに面会したその医師は、いったいどこに雲隠れしていたのかと尋ねた後で、こんなことを言ったそうです。

「これまでのどのときよりも元気そうじゃないですか。いまのあなたはまるで健康の見本のようだ。しかもあなたはここに来ない限り、薬は手に入らないわけですからね」

そしてその医師は彼女にいろんな質

問を浴びせたそうです。彼女は過去六カ月間の体験を事細かに話しました。そしてその後で、こう言ったそうです。「いま私は、あなたが切除した器官が再び成長してきているような気がしています。エックス線写真と蛍光透視写真を撮って見ていただけないでしょうか」

その医師は即座に「そんなことはあり得ない」と言って彼女の要請を断りました。しかし彼女は、「金を払うのは私です。ぜひ撮って下さい」と言い張りました。それで結局、彼は彼女のその要請を受け入れました。

その結果、彼女の切り取られた器官がもとの状態に見事に復活していることが判明したのです！

その直後に彼女は、私の指導内容のあらゆる資料をその医師に送ってほしいと言っていましたので私はそうしました。

## 切り株を残せば成長する

そしてそれから二カ月後、私がロサンジェルスに出かけていったとき、私が宿泊していたホテルに彼女の医師が電話をかけてきました。私にぜひ会いたいと言うのです。私は「彼の診療所に向くことはできないが、ホテルまで来てくれるなら会いましょう」と答えたら彼はすぐにやって来ました。

彼は私に会うなり「一度切除した器

官が再びもとの姿に戻るなどということはどうして可能なのですか」と尋ねるので、そこで私は次のように言ったのです。

「いいですか。もしあなたが患者の体内のどんな器官でも、それを文字通り根こそぎ取り除いてしまったとしたら、それによってあなたはその患者を殺すことになります。その患者は二度と生きてベッドから起きあがることはできなくなるでしょう。そうではありませんか、先生？」

「ええ、まあその通りです」

「ということは、あなたは彼女の問題の器官の切り株だけは残したわけです。木を切り倒すときと同じようにです。木を切り倒しても、その後に切り株が残っていたならば、そこから新しい木が成長してきます。あなたは彼女の器官の切り株を残したのです。そこで正しい状態に調整された彼女の心が、そこから新しい器官が成長することを可能にした、というわけです」

彼は、そのとき他にもいろんな質問を浴びせてきました。そして、彼自身は次の年に亡くなりましたが、その間に、彼の患者の多くが彼の指示に従って、彼に切り取られた器官を再び成長させることに成功しています。

## 花に呼びかければ動く理由

問 それは自由意思によって可能にな

ることなのですか？

ア もちろんです。あらゆる生命体がそれを持っています。その程度はそれぞれ異なっていますがね。それぞれが異なった奉仕をするために存在しているからです。

たとえば、植物を考えてみて下さい。

我々と植物との違いは、植物は我々と違って自由に歩き回ることができないという点だけです。もし機会があったらぜひ試してみして下さい。植物に話しかけてみるのです。そうすると、植物はきつと皆さんに答えるはずです。すぐにはうまくできないかもしれませんが、何度も試みているうちに、きつと皆さんもできるようになるはずです。

もし皆さんが特定の花に「こちらに顔を向けて下さい」とお願いしたならば——命令するのではなく、お願いしたならば——我々はどうしても命令したくなってしまうですが、それではだめです。人間に対するのと同じようにお願いするのです。

そのようにしてお願いしたならば、何度か試みているうちに、それはきつと答えてくれるはずです。自分は人間に向かって話していると信じているのです。そしてさらに、その植物が皆さんの話を理解し、それ自身の意思で皆さんに答えるということを信じていることです。そうすれば、その植物はいつかきつと皆さんのほうに顔を向けてくるでしょう。

## 神とは何か

問 アダムスキーさん、あらゆる物質が同じ計画に従っていると理解しているのでしょうか？

ア そうですね、あらゆる生命がいわゆる電氣的であるということが言えるのではないのでしょうか。持続的な波動は電氣的です。医師たちが皆さんの脳や肉体に電極を当てるのはそのためです。彼らは皆さんの心臓が弱ったときには、皆さんの命を守るためにそこに小さなバッテリーを取り付けることさえ行ないます。

そこで、電気とは何なのでしょう？ 我々はそれをそう名付けています。そして利用し続けています。しかしそれが何であるのかはあまりよく知りません。それはパワーの一形態ですが、単にパワーであるのみならず知性でもあるのです。

問 単純すぎるようにも感じますが、聖書は「初めに神が、神のみが存在した」と語っています。ということは、あらゆる生命体を創造する際に、神はそれらを彼自身の一部から創造したということなのでしょう？

ア まず、「神」という言葉を「創造主」あるいは「父」という言葉で置きかえた方が、この問題を理解しやすい

のではないかと思います。なぜならば、皆さんは神という言葉に口にするとき、目に目の前に大きな男を登場させてしまう傾向にあるからです。でも、「父」という言葉を口にしたときには、皆さんは拡大または自由のフィリングを起こします。イエスは、創造主を神と言ったことは一度もありませんでした。一方、人々に話をしていたときには彼らを神々と呼びました。

聖書が語っています。パリサイ人たちが石でイエスを打ち殺そうとしたとき、イエスは言いました。「あなたがたは、なぜ私を石で打とうとするのですか？ 私があなた方に示してきた良い行ないのせいなのですか？」すると彼らは答えました。

「いや、違う。おまえが自分を神と呼んで神を冒瀆したからだ」

そこでイエスは、彼らの律法書を用いることで自分の身を守りました。彼らは自分たちの律法に忠誠を誓っていたからです。彼は言いました。

「あなた方は、自分たちが神々であるのを知らないのですか？ あなた方の律法は絶対的なものではありませんか？」

彼らがイエスを石で打ち殺すという考えを放棄したのは、彼がそう言ったからです。つまりイエスは、彼らもまた神々であると言ったのです。彼らは、心の中ではすでに殺人者たちであったにもかかわらずです。彼らはイエスを明らかに殺そうとしていました。

いずれにせよ、イエスはするようにして、人々を神々と呼びました。しかし彼は、創造主について語るときは常に「父」という言葉を用いています。十字架にかけられていたときでさえ、そうでした。

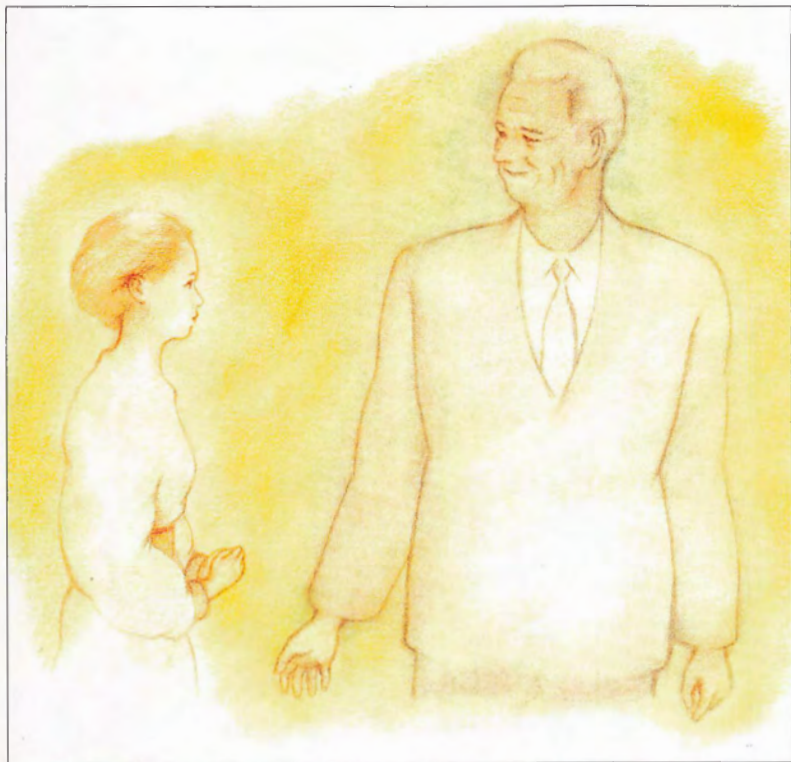
ただ、イエスもいくつかの過ちを犯しています。たとえば彼は「他人を裁いてはならない。そんなことをしたら、あなた方が裁かれることになる」と教えました。あるとき寺院の中にいた両替商たちを裁き、彼らをムチで打ってそこから追い払いました。そのようにして彼は「裁くな」と我々に教えているが、みずから裁いてしまったのです。その後で彼は寺院の外に出て行き、「父」に許しを求めています。

彼はまた、実を付けないイチジクの木を責めることで、自分自身を創造主の上に配置するという過ちも犯しています。イチジクの木には何の罪もありませんでした。だからイエスは、「（もしあなた方が、私が教えたとおりに生きたならば）あなた方は、私がしたことよりも偉大なことをするでしょう」と言ったのです。

問 異議があります。

ア ちょっと待ってください！

イエスはまた十字架上で神に不平を言ったと伝えられています。彼は「主よ、なぜあなたは私をお見捨てになったのですか」と言いました。そうやって彼は明らかに不平を言っています。



▲アダムスキーの夫人メリーは1954年にロサンゼルスで急死してすぐに金星に転生した。その後アダムスキーは金星の大母船で金星へ行き、少女として生まれかわっていた亡き妻メリーと劇的な再開をし、少女から宇宙的な思想を伝えられた。詳細は新アダムスキー全集第5巻「金星・土星探訪記」と本誌前号のA氏の講演を参照。イラスト／岩崎 保

しかし彼は実際には創造主に対して不平などまったく言っていないのです。なぜならば、そのときに彼は創造主に對して、「父よ、私の霊を、その源泉であるあなたの手に委ねます」とも語っているのです。これは不平などではありません。創造主に対する忠誠の意思の表明です。

では、彼が最初の発言の中で不平を言った相手は誰なのでしょう？ 人間

です！ 今日でも立法者たちを「主（Lord）」と呼ぶことがあります。当時の立法者たちはすべて「主」と呼ばれていました。法律は善人たちのために作られるものです。もともと、神は完璧な善人は一人もいないといっています。まあ、それはともかく彼らは善人たちのために法律を作りました。そしてイエスはまさしく善人でした。彼は法律を犯すようなことは何一つし

ていません。

しかし、カヤバ（訳注Ⅱイエスに死刑の判決を下した最高法院の議長で、ユダヤの大祭司）はイエスをどうにかして葬（はう）り去りたいと考えていました。なぜならば、イエスが彼（カヤバ）の寺院から両替商を追い払ったからです。カヤバはそんなことのできるのは自分以外には誰一人いないと自負していたのです。彼はイエスを自分の前から消し去ってしまいたいと考えました。

そこでイエスは確（はた）になることになりました。しかし善良な人々や善良な法律の作成者たちである「主」たちは彼を助けにきませんでした。彼を守ろうとさえしませんでした。そこでイエスは彼らに不平を言ったのです。

結局、イエスは人間を神と呼んだり、主と呼んだりしましたが、創造主を呼ぶときは必ず「父」という言葉を用いているのです。彼は創造主を神と呼んだことは一度もありません。

問 アダムスキーさん、十字架上のイエスに関するあなたの知識はあなたが直接知った事柄なのですか？ それともどこかの誰かからの情報なのですか？

ア これは私がじかに知ったことです。同じような例を私はいくらでもあげることができます。なぜならば、聖書はこう語っているからです。「いつの日にか、『記憶の書』がすべての人間に開かれることになる」

## 過去からの記憶

一部の人々にはその書物がすでに開かれています。開かれたその書物をもうすぐ見ることのできる人も、たくさんいます。そしていずれはすべての人間がそれを見ることのできる日が訪れるでしょう。

その書物を実際には見ていながら、そのことに気づかないでいる人々もたくさんいます。たとえば、もし皆さんがある場所を初めて訪れたというのに、その場所をとて懐かしく感じる、あるいは、前にも来たことがあるような気がする、という思いをもったとしたら、そのとき皆さんは、知らず知らずのうちに、「記憶の書」に目をやっていたのかもしれない。また、初めて会った人なのに昔から知っているような気がするというケースに関しても同じことが言えます。（以下次号）

（訳注Ⅱ文中の傍点は訳者による。）

右の『記憶の書』がすべての人間に開かれることになる、というのは、いつか人類は過去世の記憶を思い出す能力を持つようになるの意味）



去る六月一日に奈良市で開催致しました黎明会主催の第五回質疑応答会は、梅雨空にもかかわらず五〇数名の参加者があり、大盛況を呈しました。久保田先生が関西に来られるのは実に九三年の大阪支部大会以来でして、関西在住の会員にとって待ちに待ったイベントです。

質疑応答会で久保田先生はひとつひとつのご質問に対し、懇切丁寧なるも熱意のある態度で回答されていたのが印象的でした。出席された方々の真摯な、しかもこの質疑応答会から何かを学ぼうとされる意欲的な姿勢に関係者一同、感嘆致した次第です。

また、久保田先生ご自身による大宇宙思念法の実践指導もあり、きわめて有意義な三時間を過ごさせて頂きました。質疑応答会終了後、出席された方々の満足げなお顔と現地スタッフへの大成功を祝したお言葉に胸が熱くなる思いでした。

夕食会では伊豆支部の高梨代表の久保田先生と黎明会と現地スタッフに対する激励の挨拶、福山支部の東田代表の力強い乾杯音頭、東京本部役員の加藤幹事による豪華景品を用意したテレパシーゲーム、関西在住の会員によるギター演奏、黎明会の方々の合唱で大いに盛り上がりしました。最後には東京本部役員の加藤幹事の見事な一本締めで夕食会の幕を閉じて実に愉快なひとときを過ごさせて頂きました。

今回は質疑応答会の前日に飛鳥観光を計画致しましたが、当日の降水確立は九〇パーセントで、車六台に分乗した約三〇名の周遊時はずっと雨でしたが、途中から急に雨が上がったので、この機会とばかり謎の遺跡「石舞台」に再度集合して全員記念撮影を敢行。そこを離れたらまた雨という不思議な現象に恵まれました。

彩色壁画で有名な高松塚古墳、現存最古の天体図「星宿図」が発見されて一躍脚光を浴びたキトラ古墳、その他を見学し、最後は飛鳥の遺跡などを展示した飛鳥資料館を和気あいあいたる雰囲気の中に周遊して有意義な一日を過ごした次第です。

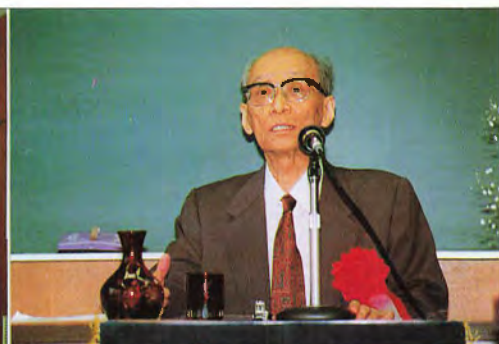
最後に、参加されました皆様方にあらためて心より御礼を申し上げます。

黎明会関西地区代表 小原 明

※ 今回の質疑応答会は徹底的に周到な準備がなされて開催されたもので、こうまで細心の注意が払われた例はかつてなかったと思う。理科系小原代表の緻密な性格が表面化していた。現地の関係者各位に深甚の謝意を表したい。

余談だが帰途立ち寄って見学した京都駅の天空港を思わせる巨大で超モダンな建築に驚嘆した次第。特にUFOを模した円形の大物体二個が空間に浮かんでいる光景に感嘆。これで東京駅は時代遅れの田舎駅に転落？

日本GAP会長 久保田八郎



▲左上は全員記念写真。左下は明日香村の謎の石舞台遺跡。右上、久保田会長、右下は夕食会。撮影／久保田八郎、加藤純一、西川太。



# 日本GAP関西支部誕生!

## 久保田先生来阪記念講演 第1回月例セミナー開催



▲関西支部月例セミナー会場の「南大阪地域地場産業振興センター」

このたび日本GAP会長・久保田八郎先生のご承認により関西の会員有志一同が結束して関西支部を設立致しました。私たちは久保田先生を中心とする本部直結型の支部として関西地方を包括するGAP活動を展開し、これを発展させます。関西地方の方はご遠慮なくお越し下さい。愉快で楽しい仲間があなたをお迎え致します。第1回のセミナーは下記の要領で開催しますが、これを記念して本部より久保田先生がご来阪の上、特別講演を行なわれます。多数の方々のご来場をお待ち致しております。

代表 小原 明

## 日本GAP関西支部

◎支部代表 小原 明／副代表 高木 伴幸

幹 事 梁瀬和孝・福井貴子

◎第1回セミナー 1998年9月27日(日) 午後1:30～5:00

◎会 場 大阪府堺市長曾根町183-5

「南大阪地域地場産業振興センター」

本館4F1号セミナー室

(10月からは本館5F、3号会議室。)

☎ 0722-55-0111 (略称=じばしん南大阪)

◎交 通 ①地下鉄御堂筋線「なかもず駅」2番出口より徒歩5分。

②南海高野線「中百舌鳥駅」北口より徒歩5分。

③南海バス(堺駅南口～初芝行き)なかもず停留所下車スグ。

◎プログラム 特別プログラムは右上を参照。

◎参 加 費 第1回のみ¥3,000。

◎連 絡 先 梁瀬和孝

◎開 催 日 毎月第4日曜日。



## プログラム

- 1:30 代表挨拶・久保田先生講演「宇宙哲学で幸せな人生を築く方法」(通常はこの時間に東京セミナーのビデオ映写)
- 3:00 休 憩
- 3:15 テレバシー開発練習
- 3:45 久保田先生との質疑応答(通常はUFO関連ビデオまたは東京月例セミナーの質疑応答のビデオ映写)
- 4:30 関西支部の設立報告(通常は東京本部の近況報告その他のビデオ)
- 4:45 閉 会
- 5:00 夕食会



▲通常の月例セミナー会場(第1回の会場は45人部屋に変更。当日表示)

# UFO contacteeバックナンバー主要記事

★バックナンバーは101(中間欠)105(中間欠)107以降各号の在庫あります。バックナンバーのみ1冊¥700、送料不要、代金後払い可。ハガキに号数、住所(7ケタ郵便番号共)氏名、電話番号を明記して日本GAP宛ご注文下さい。101号から130号までの主要記事目録入用の方はハガキでお申込み下さればお送り致します。

## No.141 1998年(平成10年)4月25日発行 ¥700

バプアニューギニアのUFO出現騒動——久保田八郎  
ホワイトサウンズUFO搭乗事件③——ダニエル・フライ  
地球人を救う異星人たち——パトリシア・フィンチ  
太陽は熱い天体ではない!——平田泰介  
宇宙論の疑惑とニセ宇宙探査報告類②——小山洋一  
「生命の科学」1万回読破で超能力が発現——池上正則  
宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ—G・アダムスキー

## No.140 1997年(平成10年)1月25日発行 ¥700

火星には大都市があるか!——秋山眞人  
NASAによる火星探査報告の欺瞞性——杉山敏樹  
ホワイトサウンズUFO搭乗事件②——ダニエル・フライ  
宇宙論の疑惑とニセ宇宙探査報告類①——小山洋一  
UFO目撃日記②——加藤純一  
宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ③—G・アダムスキー

## No.139 1997年(平成9年)10月25日発行 ¥700

重大極まりないUFO問題——久保田八郎  
ホワイトサウンズUFO搭乗事件①——ダニエル・フライ  
UFO目撃日記①——加藤純一  
宗教とUFO問題のはざま——平田泰介  
偉大なるアダムスキー哲学——高梨十光  
UFO目撃のメッカ、ニューメキシコ州——久保田八郎  
宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ②—G・アダムスキー

## No.138 1997年(平成9年)7月25日発行 ¥700

火星人に会った男——久保田八郎  
コニストン円盤事件の現地を訪ねて——高橋 徹  
異星人女性との不思議な出会い——ミッシェル・ジルジェ  
UFOの磁気モーターの謎を解明——遠藤昭則  
宇宙の使者——加藤純一  
宇宙哲学で生き運命をつくる方法——久保田八郎  
宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ①—ジョージ・アダムスキー

## No.137 1997年(平成9年)4月25日発行 ¥700

UFO頻出のデザートセンター——久保田八郎  
私は至近距離でアダムスキー型円盤を見た——中里信彦  
空中に不思議なサインが出現——加藤純一  
宇宙の真実を語るアダムスキー——肥後哲也  
ケネディー大統領はドイツに転生?——久保田八郎  
大宇宙の無限の力による長寿健康法——塩谷信男  
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法(完)——G・アダムスキー

## No.136 1997年(平成9年)1月25日発行 ¥700

愛と救いの異星人交信<2>——久保田八郎  
大宇宙の無限の力による長寿健康法——塩谷信男  
反復思念とイメージ法で奇跡を起こす!——会田晋一郎  
誤った宇宙論とアダムスキーの正当性——小山洋一  
江戸川区のUFO——大根田匡史・岡田茂  
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法(完)——G・アダムスキー

## No.135 1996年(平成8年)10月25日発行 ¥700

愛と救いの異星人交信<1>——久保田八郎  
イエス出生の謎を探る——遠藤昭則  
アダムスキー哲学を実践して奇跡的に病気が全快——西坂安信  
オレンジ色の光体を目撃——堀下一郎  
東京上空の細長い物体——藤原敏子  
素晴らしい宇宙哲学講義——佐藤 彰  
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法③—G・アダムスキー

## No.134 1996年(平成8年)7月25日発行 ¥700

米政府が隠すUFO問題の驚異の真相——久保田八郎  
真実であったアダムスキーの体験——G・クレイトン  
秋田で巨大円盤を目撃!——加藤純一  
東京タワー上空の大母船——遠藤昭則  
ロズウェル事件の真相はこれだ  
コンピューターによるUFO写真鑑定への疑問——遠藤昭則  
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法—G・アダムスキー

## No.133 1996年(平成8年)4月25日発行 ¥700

月は異星人の基地だった——久保田八郎  
私の宇宙哲学実践とUFO目撃——加藤純一  
懐疑論者から支持者に転向——J・ローリーノ  
アダムスキー哲学と波動感知法——林 国宜  
創造のための宇宙哲学——佐藤 彰  
宇宙の夢とUFO目撃——吉川美香  
カルナの意味——林寺正俊  
東京大地震は近未来に発生しない——秋山眞人  
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法—G・アダムスキー

## No.132 1996年(平成8年)1月25日発行 ¥700

別な惑星の文明と創造性——秋山眞人  
イエスの時代を透視する——遠藤昭則  
奇跡を起こすイメージ療法——原 永倉  
宇宙船の形態に関する一考察——遠藤昭則  
アダムスキーの思い出と彼の宇宙哲学—アリス・ポマロイ  
好評、名古屋市の講演  
東京造形大学で講演

## No.131 1995年(平成7年)10月25日発行 ¥700

アダムスキー問題と日本GAP——久保田八郎  
ワシントン、ニューヨーク両市でUFOがひんばんに出現!——加藤純一  
私もワシントン市でUFOを見た!——清水 正  
カイパーベルトはアダムスキーの主張を立証するか——植木淳一  
アダムスキー大会を思う——岡田茂/西川太/大根田匡史/加藤路徳  
熱烈な呼びかけに応えたUFO——石井一江  
私のUFO目撃と宇宙的な生き方——忍田裕昭  
宇宙時代の夜明け——村上博一  
人間の肉体・意識・テレパシー原理——G・アダムスキー

## No.130 1995年(平成7年)7月25日発行 ¥700

Mr.の「UFOと異星人」体験——久保田八郎  
アダムスキー型UFOの飛行原理を解明——遠藤昭則  
超能力者ティナの驚異のパワ——久保田八郎  
異星人女性との出会い——佐々木八郎  
スペースビーブルを見かける私——原垣内良子  
透視・臨死体験・不思議な女性——千葉福造  
白山のUFO——沼倉孝彦  
父と従兄が「UFO」目撃——高橋克彦  
人間の肉体・意識・テレパシー原理——G・アダムスキー



# 日本GAP総会



全国の日本GAP会員の皆様こんにちは。今年もまた総会の季節が近づきました。今回はアメリカのアダムスキー派UFO研究家で日本GAPの特別会員であり、「UFO—宇宙からの完全な証拠」(中央アート出版社刊)の著者でもあるダニエル・ロス氏を招待して大講演を行なって頂きます。氏は米NASA(米航空宇宙局)の惑星探査結果に精通する方でして、今回は特に火星における異星人達の活動状況を科学的に精査し、多数の証拠をあげて、火星がすでに偉大な進化をとげた人類によって大文明が存在する惑星であることを立証し、詳細に解説致します。めったにないこの機会をお見逃しなく多数の方々のご来場のをお待ちしております。本部役員一同あたたかくお迎え致します。非会員の方でも入場可能です。 日本GAP会長 久保田八郎



▶会場の機械振興会館  
右側面の小さい入口から入る。

## 講演

## 総会 (予約不要)

## 大夕食会 (要予約)

ダニエル・ロス氏

- ★日時 10月10日(2連休の初日) 12:00 受付開始/1:00開会  
★会場 機会振興会館 地下2階大ホール  
東京都港区芝公園 東京タワー前(東京タワーを目当てに行き、道路をへだてた大きなビルです)  
★交通 都内 JR 山の手線電車で浜松町駅下車(東京駅より三つ目)。降りたホームを東京駅方向の端まで歩き、階段を降りると同駅の北口へ出ます(注意=この駅から羽田空港へ行く大勢の人が同じホームから階段を昇りますが、これにつられて一緒に昇らないように)。北口改札を出て大通りに出ると左に東京タワーが見えます。駅の隣の超高層ビルの「貿易センタービル」の正面に東京タワー行きバス停留所があります。タワーまで約8分 料金¥200。貿易センタービルの手前にはタクシー乗り場もありタワーまで約5分、料金¥660。徒歩なら約20分。タワー前の道路をへだてた斜め向かいに機械振興会館があります。休日は正面玄関が閉鎖されるため、右へ回って右側面の小さい入口から入り、エレベーターで地下2階で降りてすぐ前です。  
★会費 一般¥6000/中高生¥3000/小学生以下は無料。受付で納入。

### プログラム

- 1:00 司会 本部役員幹事 加藤 純一  
挨拶 日本GAP会長 久保田八郎  
1:10 講演「火星における異星人の活動」ダニエル・ロス  
通訳 坂本 貴一  
3:00 休憩  
3:10 スライド映写 ダニエル・ロス  
4:00 質疑応答 通訳 坂本 貴一

※ご注意 総会中のカメラ、ビデオカメラによる撮影、テープレコーダーによる録音は自由ですが、講演その他の発言内容の著作権は日本GAPに帰属しますので、日本GAP以外の団体または個人が各自発行の印刷物に掲載することは出来ません。また入場者が無断で印刷物を会場で配布することを厳禁します。

## 予約申込み

- ①大夕食会 ハガキに「総会後の大夕食会出席予約」と書いて住所・氏名・電話番号を明記の上、9月30日までに必着、日本GAP宛お申込み下さい。  
②ホテル ハガキに「日本GAP総会ホテル予約」と書いて氏名、住所・電話番号・宿泊日・シングル/ツインの別を明記し、9月30日までに(締め切り日厳守)お申込み下さい。  
※ご注意=申込みは日本GAP宛ではなくて下記の旅行社宛です。  
宿泊費については右の欄を参照して下さい。  
〒150-0011 東京都渋谷区神宮前3-22-9 満月ビル3F  
スバルツーリスト 小林様(宛)  
※宿泊費はチェックアウト時に各自でホテルに支払して下さい。  
③観光 ハガキに「観光参加希望」と書いて、住所・氏名・電話番号を明記の上、9月30日までに必着、日本GAP宛お申込み下さい。観光内容については右の欄を参照して下さい。

- ★日時 総会終了後 6:00→8:00(時間厳守)  
★会場 機械振興会館 6階66号室  
★受付 5:30より開始  
★会費 ¥7,500(昨年と同様)。会場入口の受付で納入(中学生割引なし。小学生以下は保護者同伴で無料)。飲物は飲み放題。  
★プログラム 6時開会。会長挨拶。乾杯(音頭は伊豆支部の高梨十光代表)。食事・歓談。  
※ご注意 大夕食会は立食形式のため自由に移動可能。愉快に歓談して楽しんで下さい。椅子は多数あります。出席者はある程度きちんとした服装でお願いします。  
★2次会 8:30→10:30 浜松町駅と大門の中間の十字路の角にある「天狗」の4階の特別室で開催。(以前の新橋駅の「天狗」ではありませんから要注意)。東京タワー前からタクシーで行けば¥660。数人で乗ってワリカンで払えば安く早く帰れます。徒歩の場合は、増上寺の左横の道を通れば約600mを10分以内。

## ホテル (要予約)

- ★ホテル 銀座キャピタルホテル(昨年と同じ)  
〒104 東京都中央区築地(つきじ)3-1-5  
☎03-3543-8211  
★料金 シングル ¥7,500(朝食・サービス込み・税別)  
ツイン ¥15,000(〃)  
(現在シングル55室、ツイン5室を確保)

## 観光 (UFO観測会を兼ねる)

- ★日時 10月11日(2連休2日目) 雨天の場合は変更。  
★コース 観光としては江戸川区の葛西(かさい)臨海公園に行きます。ここは東京湾に面した広大な敷地に世界屈指の水族館、鳥類園、5種類のレストラン、多数のトイレ等がありますが、これらを見学したあと、同公園の広場でUFO観測会を実施します。多数ご参加下さい。9:00に東京駅集合(場所は後日通達)、京葉線で公園へ直行。見学と観測後、2:00に船で日の出桟橋まで東京湾を約1時間周遊。電車「ゆりかもめ」で新橋駅着後、東京駅で解散。費用は総額(昼食代共)約¥3,000。現地で全員記念撮影。芝生に腰をおろすためのレジャーシート等は本部役員が準備します。観光参加希望者には朝、東京駅に集合の際、詳細な資料をお渡しして係の役員が説明を致します。お子様づれ歓迎。雨天の場合は上野公園内の国立博物館の見学に切り替えます。ご了承下さい。

火星における異星人の活動



## Letters

## ユーコン広場



## 素晴らしい東京月例セミナー

兵庫県 西村悠子

先月は思いがけず初めて東京の月例セミナーに出席させて頂きましていろいろと学ばせていただく事も多く、有意義な一日で本当にありがとうございました。雪どけの道を選けてビルに入り、受付に近づきますと「ワ―西村さん!」と、イスラエルの旅の仲間の方々が呼びかけて下さり、印象的だった旅の情景が脳裏をよぎり、懐かしさで胸が一杯になりました。

その後、米コネティカット州の次女の所へ参りまして早くも一カ月が過ぎました(編注)この書簡はアメリカから届いたもの。こちらは春一番のれんぎようが美しく、隣家のしだれ桜が見事に咲き揃いました。

ここでの私の生活は僅かばかりの身のまわりの物だけでですから、家族の一員になって毎日のまわるような忙しさです。特に四カ月になります男の子は重くなってずり落ちそうですが、かわいから育てられるのですね。この子と七歳、三歳の兄弟を見ておられますと、二一世紀を生きる子供達が地球号の大調和のために少しでもお役に立つてくれればと祈らずにはおられません。

アメリカ、日本、ブラジルの三カ国の国籍を持つ彼らですからベビーに話しかけますとニコニコ笑いながら宇宙語が返ってきます。

投稿歓迎字数を問わず。匿名発表可能な住所氏名明記のこと。

私はこちらでちよつと時間があるとき宇宙哲学を読み返しておりますが、依然ピンとこなかった事が少しずつ分かってきて、こんなに素晴らしい本を先生がよく翻訳して世に出して下さったなあと感謝の気持ちで一杯です。もつともつと勉強しなければと改めて感じております。どうぞお体くれぐれも御自愛下さいますように。

## UFOを目撃

埼玉県 桜木敏夫

素晴らしいユーコン誌をいつも送っていただいて有難うございます。いつも楽しみに読ませていただいております。

さて、本誌141号の今泉克美氏のUFO目撃を読んで少し驚いているところです。実を言うと私も一九九七年二月二十四日午後四時二〇分頃、UFOを目撃しているからです。場所は都内西新宿にある私の会社からなのですが、休み時間をあし入れようと思い、会社の玄関を少したこのころ、ちょうど正面の空に光る物体があったので、何だろうと思い、よく見ていたのですが、全然動かないので星だと思い、そのままコンビニエンスストアに行つてジュースとスナックを買い、約三分後に戻つてみると、その光体がいなかったのです。た

しかに星が出るには早すぎる時間ですし、その位置(会社から見て東の空)には星がないはずなので、あれは一体何だったんだろうと思ひました。

その後も何回か空を見たのですが、その光る物体はついに現われてくれませんでした。もしかしたらあれは気象庁の観測気球かもしれないと思いますが、気象庁に電話して聞いてみたのですが、その時間に気球があるはずはないし、そんなに光るはずはないと言っていました。絶対にそれは観測気球ではないとハッキリと言っておられました。今泉氏のもと同じとは言えませんが、もしかしたらと思ひました。

その約一週間後にもUFOを目撃しました。時間は夜八時を過ぎていたと思ひます。食事後にはよく散歩をするのですが、フツと空を見上げると北極星あたりに金星のようによく光る物体があるので何だろうと思ひ、よく見ますと、待ってましたばかりに動き出すのです!

それは斜め左上にゆつくりと動き出し、スーッと約二・五秒くらいで夜空に吸い込まれるように消えてしまいました。啞然とした私は、あれは一体何だったんだろうと思ひ、人工衛星かな、流れ星かな、いや、飛行機かなと思ひましたが、結局その内のどれにも当てはまりませんでした。あれは絶対にUFOに違いありません。

これは約二年前の話ですが、私は仕事の関係で西船橋へ行っており、久保田先生の書いた本「UFOと宇宙哲学の行方」(中央アート出版)を電車の中でよく読んでいて、電車

の中にももしかしたら異星人がいるかもしれないと思ひ、よく気をつけて見ていました(編注)以下、異星人らしい男女に出会った体験が述べてあるけれども、紙数の都合により省略。

## エーテルの存在を確認

愛媛県 中島久喜

本誌141号「ユーコン広場」にて「エーテルは存在するか」という質問がありましたが、シルバー・トゥースなる人物がエーテルの存在を確認したと言及されていたのでご参考までに。

一〇〇年前のマイケルソン・モーリーの干渉計では測定できなかったが、レーザーを用いて光速度差を検出したとのこと。スペキュレーションズ・イン・サイエンス・アンド・テクノロジ―第一〇巻第一号三三七にて。以上ご報告致します。

## 質問 肉体を通過する物とは何か

岩手県 村上正人

先日は本誌141号をご送付頂き、有難うございました。久しぶりにダニエル・フライの体験記を興味深く読んでおります。ア氏を通じてこの地球にもたらされた「宇宙哲学」は私のような人間には、いくら考えてみても理解できない所が多く、本当に自分は二〇年前くらべて少し進歩しているだろうかとも思ひます。そこでまた先生には超多忙のところ、本当に迷惑と思ひますが、質問したいと思ひますのでよろしくお願ひ致します。

(1)新アダムスキー全集第一巻「肉体を超えて大宇宙と一体化する

方法」の三二八頁から三三四頁までについて、私は人間を始めとする万物は、すべて宇宙の意識の現われであると考えています。人間の場合でも、肉体の発生から維持することまで意識がやっているわけです。その意識は「死」と共に次の肉体へ移動(?)して行くものという認識をもっております。

そこから「汝自身を知れ」という言葉は、この内部に存在している真の自己である意識を知覚し、一体化することにより、宇宙そのものを理解するというように理解しております。

しかし全集第一巻の三三三頁には「汝自身を知れ」という言葉は、なんと、肉体を通過して行くものに対して心(マインド)を同調させることだと述べてあります。具体的に我々が呼吸という行為(だと思ひますが?)と、この同調するということとは、どのように理解すればよいのでしょうか?

お答え 右の「肉体を通過して行くもの」というのは呼吸による空気のことではありません。人間は生涯を終えたならばそれで消滅するのではなくて、本人の「宇宙の意識」である「魂」は肉体の死と共に別な新しい肉体(新生児)に平均三秒で瞬間的に移動します。これを転生(生まれ変わり)といいます。その場合の「宇宙の意識」は一生を終えるたびに多数の肉体を転生しますから、これは言いかえれば「通過」することになります。

人間は永遠の昔から永遠の未来にかけて「転生」を続けるという法則を知る必要があるのですが、残念な





▲UFO出現！ 上部の3個の円は丸窓。その下の黄色の光点群は夜空の星々。中段左端の緑色の三日月型物体は地球。長方形内の生物は宇宙人。右端の赤色の天体は土星。作者くぼたあやこ（6歳・小1）は久保田会長の孫娘。この絵は今年3月幼稚園における当番制作。全くの空想で描いたという。

がら現在の地球世界では人間の生涯は一回限りだと思ひ込んでおり、そのために「一度しかない命だから思いきり楽しんでおこう」という刹那主義におちいつて羽目をはずしがちになります。これでは救われません。「転生の法則」ほど重要なものはないのですが、これについてはアダムスキーが全集の各所で述べていますから熟読されるとよいでしょう。それとカルマの法則も知る必要があります。これは因果応報の法則とも言えます。つまり良い事をすれば良い報いがあり、悪い事をすればそ

れを償って反省をさせられるという法則です。これは転生の際にも適用されるのであって、過去世でひどい悪事を働いた人は、今生でその罪の償いをするために苦しむような環境に生まれてきます。したがって「自分はなんという不幸な人間として生まれてきたのか！」と嘆き悲しんで苦悩し絶望的になる人は次の生涯でいつその償いをする事になります。こうした悪しきカルマを清算するには人間の肉体を知って積極的に良い行為をなす必要があります。そうすれば今生では恵まれなくても

来世では良い環境に生まれて安楽な生活をするようになるでしょう。アダムスキーによれば一度宇宙的な思想を失った人は五〇回ぐらいの転生を経て元に戻らないということですから、一生涯を平均五〇年としても約二千五百年間は地縛的な低い思想のままに過ごすことになります。現在の地球社会では転生の法則は全く理解されていませんが、来世紀の中頃には知識が高まってくるでしょう。

#### 素晴らしかった奈良の質疑応答会

大阪府 瀬尾あゆみ

久保田先生。このたびは遠路をはるばる有難うございました。心より感謝しています。先生が京都駅に降られた時にとても広大な力を感じました。まさにご病気を大宇宙思念法によって回復させたとても素晴らしい力です。そしてその久保田先生が今こうやって奈良の質疑応答会に来て頂いているということに対して、とても不思議な実感をおぼえました。それと同時にとても有難い気持ちに満たされました。何よりも心に残っている言葉は質疑応答会の時に先生が言われた「信念の力、希望の力、絶対にあきらめない力で、特に絶対にあきらめない力を強めた」という言葉でした。私もこれからはこの力でやってゆこうと思っています。本当に有難うございました。

#### ●日本海上空のUFO

今年4月18日、日本GAP会員の田中孝氏がJAL 517便で札幌に向かって飛行中、高度約1万メートルの上空から雲海の上に不思議な物体を目撃、撮影した。秋山眞人氏によれば、本物のUFOであるという。©日本GAP



ジョージ・アダムスキー 著  
久保田八郎 訳

George  
Adamski

全面改訂・改訳  
全11巻／各四六判

# 新アダムスキー全集



## ① 第2惑星からの地球訪問者

ジョージ・アダムスキー 著 久保田八郎 訳 定価（本体1922円＋税）／四六判並製 ●世界的に著名なUFO研究者、ジョージ・アダムスキーが金星人と会見、自ら円盤や母船に乗り他の惑星の文明の実態を明らかにした本全集の中心たる書。

## ② 超能力開発法

ジョージ・アダムスキー 著 久保田八郎 訳 定価（本体1262円＋税）／四六判並製 ●人間に内在する宇宙的能力の開発法を説く。四宮をコントロールして肉体内部の宇宙意識からのメッセージを感じ、テレパシー、遠隔透視などを学ぶ。

## ③ 21世紀／生命の科学

ジョージ・アダムスキー 著 久保田八郎 訳 定価（本体1262円＋税）／四六判並製 ●地球外生命体との接触によって開発されたアダムスキーの超能力開発プログラムの全貌。進化した異星人から地球人に伝えられた12のレクチャーを公開！

## ④ UFO問答100

ジョージ・アダムスキー 著 久保田八郎 訳 定価（本体1262円＋税）／四六判並製 ●1985年アダムスキーは世界中から送られてくる質問を分類し質疑応答集をまとめた。UFO問題の疑問を解き、混乱したUFO研究界に解答と示唆を与える書

## ⑤ 金星・土星探訪記

ジョージ・アダムスキー 著 久保田八郎 訳 定価（本体2330円＋税）／四六判並製 ●アダムスキーが大母船に乗せられ、高度な進化をとげた金星・土星を訪れる驚異の体験記録。金星人として生まれ変わった亡き妻との再開。

## ⑥ UFOの謎

ジョージ・アダムスキー 著 久保田八郎 訳 定価（本体1922円＋税）／四六判並製 ●円盤の推進理論や聖書とUFOとの関連など、UFOと異星人問題の真相を解明する書。後半は著者の世界講演旅行記で各国GAP網の活動状況を究明に描写。

## ⑦ 21世紀の宇宙哲学

ジョージ・アダムスキー 著 久保田八郎 訳 定価（本体1000円＋税）／四六判並製 ●地球人が宇宙的な成長をとげるために、心体内部に宿る宇宙意識との一体化を説いた書。既存の宗教・哲学では理解しえなかった意識と万物との関係を解く！

## ⑧ UFO・人間・宇宙

ジョージ・アダムスキー 著 久保田八郎 訳 定価（本体2330円＋税）／四六判並製 ●日本GAP機関誌に掲載されたアダムスキーのUFOと宇宙哲学に関する論文や講演録を編纂。特に他界する直前の最後の講演が圧巻！

## ⑨ UFOの真相

ジョージ・アダムスキー 著 久保田八郎 訳 定価（本体1922円＋税）／四六判並製 ●アダムスキーの薫陶を受けた人々の論説、講演録などを収録。アダムスキーの宇宙の実像と、人間味豊かな庶民性を持つ素顔を多角的にとらえる。

## ⑩ 超人ジョージ・アダムスキー

久保田八郎 著 定価（本体1262円＋税）／四六判並製 ●アダムスキーの理論と哲学を要約、国際的アダムスキー研究者・久保田八郎が初めて書き下ろした意欲作！アダムスキー入門書。

## ⑪ 肉体を超えて 大宇宙と一体化する方法

ジョージ・アダムスキー 著 久保田八郎 訳 定価（本体2800円＋税）／四六判並製 ●アダムスキー高弟のアリス・ボマロイ女史が、アダムスキーの膨大な講演録音を収集。久保田八郎氏が翻訳した大著。宇宙哲学の真髄を究めた最高の名著。

## 別巻・UFO宇宙からの完全な証拠

ダニエル・ロス 著 久保田八郎 訳 定価（本体2718円＋税）／四六判並製 ●アメリカ気鋭のUFO研究者、ダニエル・ロスが全力で展開したUFO問題の真相！アダムスキーの体験の真实性を科学的に実証した書。

\*新アダムスキー全集全巻をまとめて日本GAPにご注文頂きますと  
本体価格の10%引き+送料がサービスとなります。

**GAP**  
CHUO ART PUBLISHING CO., LTD.

**中央アート出版社**

〒104東京都中央区京橋3-7-13  
TEL 03-3561-7017 郵便振替 00180-5-66324



# UFO事件と 愛の異星人 交信

久保田八郎著

定価(本体2400円+税) 送料310円  
四六判並製・352頁

世界のUFO事件を研究調査してきた著者が、ルールドの奇蹟やファティマの名高い聖母空艇事件やメキシコのマヤの遺跡その他の謎の事件等に現地調査のメスを入れて、別な惑星から来た宇宙船に起因することを検証し、さらに異星人と交信して愛と救いのメッセージを与えられている日本人青年の感動の実話を加えた心あたたまる希有のノンフィクション。



# UFOと 異星人の 真相

久保田八郎著

定価(本体1602円+税) 送料310円  
四六判並製・288頁

UFO研究者の第一人者・久保田八郎が書き下ろした本書は、別な惑星へ行ってきた青年の驚異の体験をもとにUFOの内部の様子や作動原理、異星人の文明の実態等を明らかにしています。加えて超能力等の問題や、氾濫するUFO関連情報の真偽にも迫るUFOを研究する人の必携の書です。



# UFOと 宇宙哲学の 行方

(ゆくえ) 久保田八郎著

定価(本体1602円+税) 送料310円  
四六判並製・288頁

本書はわが国UFO研究者の第一人者・久保田八郎が「UFOcontactee」に長年にわたって掲載してきた記事や講演から選りすぐって編集したもので、UFO問題とアダムスキー哲学に関する著者の研究の集大成ともいえる内容になっています。2部構成になっている本書は、まず第1部ではアダムスキー哲学を人生に生かしたり、難病の治療に応用する実践法を明らかにしていきます。UFOを研究する人のガイドブックとしても最適の書です。



# UFO・ 遭遇と 真実

日本編 久保田八郎著

定価(本体1500円+税) 送料310円  
四六判並製・264頁

日本で発生した驚異的なUFO事件を8件選び、わが国UFO研究界の第一人者・久保田八郎が書き下ろして読みやすく編集した本書は、実証主義をつらぬく著者が徹底的に調査した結果、真実そのものであると確認した事件のみを流麗な筆致で活写。読者を大気圏外の世界へ誘います。



※上記の書籍は日本GAPでも取扱います。著者の署名捺印入り。  
ハガキでご注文下されば代金後払いで直送します。



中央アート出版社

〒104 東京都中央区京橋3-7-13

TEL 03-3561-7017 郵便振替：00180-5-66324

## 英文版「UFO contactee」No. 12

日本GAP

B5版/12頁/コート紙使用/¥500 送料¥190 (No. 1~3は品切れ)

日本GAPは日本語版「UFO contactee」誌を年4回発行するかわり、国際版として英文版「UFO contactee」誌を年1回刊行して世界のUFO研究団体や個人研究家と交流を保っています。本誌にはアダムスキー問題を主体にしたUFOと宇宙哲学関係記事を主体に掲載し、アダムスキー執筆の質疑応答も連載しています。No. 12には日本語版No. 13に掲載された「UFO頻出のデザートセンター」の英文記事が写真入りで載せてあります。流麗な英文による本誌は英語学習にも最適です。日本GAPへハガキでご注文下されば代金あと払いでお送り致します。着後同封の振替用紙でご送金下さい。



### From The Editor 編集集後記 SSS

● 超偉人のイエスに關してはとなく幻想的な浮世離れた姿が描かれがちですが、冒頭の記事「金星人イエスの実像と出現の意義」によれば、現実の生きた人間として眼前に彷彿としてきます。ピラトの報告は聖職者の百万言の説教よりも価値あるものでしょう。

● 超能力の一種である遠隔透視能力はかたがた昔から三田光一氏の物凄く能力で知られていましたが、今やアメリカで実用化されているとは！ いまだにこの能力を否定する日本の科学者の時代遅れの様相がわかってしまうのです。「実用化された遠隔透視能力」は必読の重要記事です。

● 近頃はUFO問題が低迷しており大きな事件も発生しないようですが、実はUFOの出現は続いているのです。マスコミが取り上げないだけで目撃者は後を絶ちません。本号の加藤純一氏の「UFO目撃日記」を読めば見る人は見るといふ実態がわかるでしょう。

● なによりも世紀末予言類に惑わされないことですね。我々の地球は平然と回転しているだけです。重要なのは人間の精神でしょう。

● UFO目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践体験、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。掲載分には薄謝を呈します。

● 本誌は多数のボランティアにより全国的主要書店に直販で卸されています。この活動に参加希望の方はハガキでお申込み下さい。説明書をお送りします。

日本GAP専門誌・季刊  
UFO contactee142号  
秋季号

編集発行人 久保田八郎

発行所 日本GAP

〒104 東京都江戸川区本一色1-12-11

TEL 03-3655-1109

FAX 03-3655-1095

振替 00140-2-36912

一九九八年七月二五日発行

定価九四五円(本体九〇〇円)・送料二一〇円

※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断引用転載を禁じます。

# 日本GAP全国月例セミナー案内

| 支部名   | 日 時                                                     | 会 場                                                                                                                                                                  | 会 費                                                   | プログラム・テキスト                                                                                                                                             |
|-------|---------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 東京本部  | 毎月第1日曜日 午後1:00→5:00<br>※10月は総会のため月例セミナーは中止。             | 港区芝公園3丁目5-8「機械振興会館」地下3階第2研修室。<br>☎03-3434-8211 JR 浜松町駅下車。東京タワーの正面前。<br>浜松町駅北口から東京タワー行きバスで約8分。<br>※日曜日は正面玄関が閉じられているので、右へ回って建物の右側の入口から入る。<br>連絡先=日本GAP本部 ☎03-3651-0958 | 会 場 費<br>¥1000<br>セ ミ ナー<br>受 講 料<br>¥1500<br>計 ¥2500 | 1:00→1:40 会員の講演。<br>1:45→3:15 久保田会長の<br>講義「生命の科学」<br>3:25→5:00 超能力開発練習／近況<br>報告／ビデオ映写／質疑。<br>※日本GAP会員でなくても入場可。<br>※会場に臨時売店開設。新アダムス<br>キー全集、GAPグッズ等を販売。 |
| 新潟支部  | 毎月第4日曜日 午後1:00→5:00                                     | 新潟市東万代町9「新潟市青年の家」(万代市民会館と同じ建物)<br>☎025-246-7711。JR 新潟駅より徒歩5分。<br>連絡先=星 富治夫 ☎02579-2-5562                                                                             | ¥500                                                  | 同上                                                                                                                                                     |
| 名古屋支部 | 毎月第2日曜日 午後1:00→4:30<br>※10月のみ第4日曜日に変更。                  | 名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議室。<br>☎052-331-2141代<br>JR 東海・名鉄・地下鉄の金山駅より徒歩5分。<br>連絡先=林 国宣 ☎0586-45-6468                                                                | ¥500                                                  | 同上                                                                                                                                                     |
| 山形支部  | 毎月第1日曜日 午後1:00→5:00<br>※日時は変更があるため、毎月事前に柴田宛電話で問い合わせること。 | 山形県天童市老野森1丁目1-1「天童市中央公民館」<br>☎0236-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー4分。天童市役所の裏側。<br>連絡先=柴田光明 ☎0233-25-3261                                                                     | ¥500                                                  | 同上                                                                                                                                                     |
| 北海道支部 | 毎月任意日曜日 午後1:00→4:30<br>※日時と会場は不定につき、事前に高野宛問い合わせること。     | 札幌市中央区北2条西7丁目「かでる2・7」(道民活動センター)研修室(北大付属植物園前、北海道警察本部横)<br>JR 札幌駅徒歩7分、地下鉄札幌駅または大通駅徒歩7分。<br>連絡先=高野省志 ☎011-783-6393                                                      | ¥500                                                  | 同上                                                                                                                                                     |
| 沖縄支部  | 毎月第4火曜日 午後7:30→10:00                                    | 宜野湾市嘉数1-6-5 早川宅<br>☎098-890-1324<br>連絡先=里 孝人 ☎098-835-3991                                                                                                           | ¥500                                                  | 同上                                                                                                                                                     |
| 秋田支部  | 毎月第2日曜日 午後1:00→5:00                                     | 秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。<br>☎0188-24-5377<br>連絡先=伊藤正治 ☎0188-62-2831                                                                                                  | ¥500                                                  | 同上                                                                                                                                                     |
| 横浜支部  | 毎月第4日曜日 午後1:00→5:00                                     | 横浜市中区万代町2-1-7「横浜市民文化会館」<br>☎045-681-6551 JR 関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩3分。<br>連絡先=清水 正 ☎03-5995-6038                                                                         | ¥500                                                  | 同上                                                                                                                                                     |
| 茨城支部  | 毎月第4日曜日 午後1:20→5:00                                     | 水戸市梅香1-2-2 みた好文カレッジ小集會室。<br>☎029-224-6602。水戸駅北口より徒歩10分。<br>連絡先=清水勝一 ☎029-273-1903                                                                                    | ¥300                                                  | 同上                                                                                                                                                     |
| 長野支部  | 毎月第4日曜日 午後1:00→5:00                                     | 塩尻市大門7番地「塩尻総合文化センター」第1会議室。<br>☎0263-54-1253<br>連絡先=博田文喜 ☎0264-24-3012                                                                                                | ¥500                                                  | 同上                                                                                                                                                     |
| 紀南会   | 毎月第3日曜日 午後1:00→5:00<br>※日時については事前に松口に問い合わせること。          | 和歌山県新宮市春日1番35号<br>「新宮地域職業訓練センター」工業コーナー ☎0735-23-0005<br>JR 新宮駅下車、徒歩5分、新宮市役所隣。<br>連絡先=松口幸之助 ☎0735-34-0384                                                             | ¥300                                                  | 同上                                                                                                                                                     |
| 南九州支部 | 毎月第4日曜日 午後1:00→5:00                                     | 鹿児島市与次郎2-3-1「鹿児島市民文化ホール」<br>☎0992-57-8111<br>連絡先=曾我部勇人 ☎0992-53-2315                                                                                                 | ¥500                                                  | 同上                                                                                                                                                     |
| 高松支部  | 毎月第3日曜日 午後1:30→4:30<br>※日時は変更があるため事前に電話。                | 香川県坂出市寿町1-3-5「坂出勤労福祉センター」<br>☎0877-46-2463 JR 坂出駅より徒歩10分。<br>連絡先=関 高明 ☎0875-72-2698                                                                                  | ¥500                                                  | 同上                                                                                                                                                     |
| 伊豆支部  | 毎月第1日曜日 午後1:00→4:30                                     | 静岡県三島市一番町20-5「三島市民文化会館」第3会議室。<br>☎0559-76-4455。三島駅より徒歩3分。<br>連絡先=高梨十光 ☎0558-72-7832                                                                                  | ¥500                                                  | 同上                                                                                                                                                     |
| 福山支部  | 毎月第2日曜日に変更 午後1:00→4:00<br>※日時は変更があるため事前に電話。             | 広島県福山市丸の内1-3「びんご荘」<br>☎0849-25-3977 福山駅から徒歩3分。<br>連絡先=森田(なつめだ) 雅則<br>☎0847-52-6306                                                                                   | ¥500                                                  | 同上                                                                                                                                                     |
| 埼玉支部  | 毎月第3日曜日 午後1:00→5:00<br>※7月と8月のみ第4日曜日に変更。                | 埼玉県浦和市高砂3-1-4「埼玉会館」<br>☎048-829-2471 JR 京浜東北線「浦和駅」西口より県庁通りを徒歩5分。<br>連絡先=会田裕子 ☎0492-81-4267                                                                           | ¥800                                                  | 同上                                                                                                                                                     |
| 関西支部  | 毎月第4日曜日 午後1:30→5:00<br>※9月は久保田会長の特別講演。本号45頁を参照。         | 大阪府堺市長曾根町183-5「南大阪地域地場産業振興センター」<br>☎0722-55-0111 地下鉄御堂筋線「なかもず」②出口より徒歩5分。南海高野線「中百舌鳥」北口より徒歩5分。堺駅南口より南海バスなかもず停留所。連絡先=鎌倉和孝 ☎06-967-765                                   | ¥1000                                                 | 同上                                                                                                                                                     |





## オーソン肖像写真

1952年11月20日、アダムスキーが米カリフォルニア州のデザートセンターで会見した金星人を、目撃者の一人アリス・ウェルズ女史が双眼鏡で観察しながら描いたスケッチをもとにして女流画家ガイ・ベッツが油絵に仕上げた絵画の写真。10.5cm×17cm(不許複製転載)

¥1,000 送料¥130



## 金星のシンボルマーク

中央の眼は万物を見透す宇宙の意識、つまり人体を生かす生命/「ワ」と叡知をあらわし、周囲の4層の放射状ゾーンは人間のマインド(心)の発達状態をあらわしています。人間のマインド(心)は眼・耳・鼻・口の四つから形成されるので4層になっているのです。

¥500 送料¥80



## ESPカード〈超能力開発用〉

テレパシー、遠隔透視等の能力開発用としてアメリカのデューク大学で開発されたカード。5種類の図形カードが各5枚ずつあり、計25枚のセット。堅牢な厚紙製。重さ40g、5.7cm×8.9cm。携帯に便利なポケット用。どこでも気軽に練習できます。使用説明書付き。

¥1,500 送料¥130 (2~5個)¥190



## 本誌綴込み用バインダー

このバインダー1個に本誌8冊(2年分)を簡単に綴込み可能。美麗背文字入り。背中に年号を書き込めば取り出しに便利です。

¥1,000 送料は1個~5個 一律¥800



## GAPキーホルダー

日本GAPがデザインして製作したオリジナル・キーホルダー。シンボルマークの周囲を「WITH COSMIC CONSCIOUSNESS(宇宙の意識とともに)」の金文字が取り巻く優雅なデザイン。円形部分は直径3.2cm。鎖とも全長9cm。非常に堅牢に出来ています。

¥1,900 送料130



## 会員バッジ

金星のシンボルマークが金色に輝く優雅なデザイン。表面の透明樹脂がキズを防ぎ、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏の留め金が見えぬ留め式。女性用は安全ピン式。ご注文の際は、いずれかを明記して下さい。実物の直径は1.7cm。

¥2,000 送料4個まで130



## ブックカバー

主として新アダムスキー全集用に作られたカバーですが、同じ大きさの四六判の書籍ならどれにも使用できます。表側の中央にシンボルマークと「宇宙の意識とともに」を意味する英文が金色で箔押しされた濃紺色の優雅なデザインです。人造皮革製。

¥1,200 送料¥190 5枚まで¥270

## GAPシール

シンボルマークを「宇宙の意識とともに」の英文が取り巻く優雅なデザインのシールです。カバンその他の持ち物に最適。

1枚に大小5個1組 ¥200 送料10枚まで¥80



## 新アダムスキー全集

訳・著者 久保田八郎の署名捺印入り

中央アート出版社刊「新アダムスキー全集」を日本GAPでも取り扱っています。各巻とも扉に久保田八郎の署名と捺印を入れてお届けします。詳細については本誌の広告を参照して下さい。全巻注文の際の定価割引はありません。送料は1冊310、7冊まで¥660、10冊まで¥900。ハガキでご注文下されば代金後払いでお届け致します。

申込先

上記各商品のご注文の際は住所・氏名・品名・個数・電話番号をご記入の上、郵便振替が現金書留でご注文下さい。代金後払いも承ります。その場合はハガキに上記のとおりにご記入の上お送り下さい。商品の中に郵便振替用紙を同封しておきますから、現品到着後、最寄り郵便局からご送金下さい。消費税は無関係です。

〒133-0044 東京都江戸川区本一色1-12-1-511

日本GAP 郵便振替=00140-2-35912 電話=03-3651-0958



## 日本GAP能力開発カセットテープ

●「生命の科学」能力開発テープ¥1500  
送料1本¥160 計¥1660

日本GAP東京本部開催月例セミナーで久保田会長が98年4月から毎月行なう「生命の科学」解説講義と質疑応答を録音した1時間半カセットテープ。みづから「生命の科学」を実践して驚異的な体力と気力を持つ大指導者の雄大な宇宙的哲学と生き方に関する大講演をお聴き下さい。心が変われば人間が変わり運命も好転します。

●テープのご注文も代金後払いで結構です。○年○月分、個数、氏名、住所、電話番号を明記の上、ハガキでご注文下さい。ただし東京月例セミナーのテープはセミナー終了後、製作に約5日間を要します。

申込先

日本GAP



## 日本GAPビデオ

臨場感溢れる画像があなたを会場に引き込み、手動的な一体感を起こします。全巻VHS。

●東京本部月例セミナー 全1巻 ¥3000

〈内容〉久保田会長の解説講義、他、約120分。

●日本GAP総会 全2巻各¥3000

〈内容〉毎年開催される日本GAP総会を完全収録。(1989年度分から在庫あり)

●日本GAP海外研修旅行 全1巻 ¥3000

〈内容〉旅行のハイライトをまとめた楽しいビデオ。(1989年度分から在庫あり)

●米ワシントン市のアダムスキー大会における久保田会長の講演(英語)。

全1巻 ¥3000

〈内容〉1995年9月8日、久保田会長が英語で長時間講演したためずらしいビデオ。英文テキスト付き。日本語訳文は本誌131号に掲載。送料はビデオ1本¥390、2本以上3本まで¥700。

申込先

ご注文の際は品名、○年○月分、上下巻の区別、個数、住所氏名、電話番号をご明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。(ビデオの代金後払いは不可) 〒162 東京都新宿区高久町36-18 高久マンション103 伊東芳和 振替 00140-8-13811 電話 03-3351-9526



何とオーダーメイド!

秋山真人先生推奨



# あなただけの波動器を作ります!!

## ■OVOマインドエンジンとは何か?

10年以上にわたる研究によりエソプ・ルトン博士は、いままでの波動学とは別の視点から「波動形態理論」を完成させ、外部電源を必要としない強力な波動コントローラーを生み出しました。電源を必要としないから、クリーンでリーズナブル。また、装置本体は透明高級アクリルと稀少鉱石の美しい組み合わせで、ユーザー一人一人の波動に合わせて作成するという、オーダーメイドです。特殊なシートの中にあなたの波動を転写しプリント基盤(核波動共鳴図形回路)を作成し、アクリル球体の中に封入。さらにあなたの指紋から波動座標を割り出し、それと親和性の高い波動浄化調整済の稀少鉱物とカップリングします。シンプルで美しく個性的・・・これが OVOマインドエンジンです。

### ■OVOマインドエンジン・直径37ミリ グラスプレート(9,800円 送料・消費税込)

ミニピラミッドの連続体を刻んだグラスと中核波動形態基盤を、錫を基本とした特殊合金でパッケージしました。

あなたの心身の波動、および、あなたが見たり触れたりしたものの波動を高めます。(グラスプレートについては稀少鉱石はつきません。)



### ■OVOマインドエンジン・全長最大200ミリ ヒーリング・コンディショナー(53,500円 送料・消費税込)

スティックタイプの強力型でヒーリングを行う人の心身の波動を守護するものです。他からの質の良くない波動を完全にブロックする(悪質波動と共鳴する回路の遮断)のために作成されました。イギリスにある100年以上も前に建てられたゴーストハウス(幽霊の出る家)に、このコンディショナーを置いたところ、その日から幽霊が出なくなったという現象も報告されており、活用法はあなたのアイデア次第です。



## OVOマインドエンジンにできること!

波動の良否のチェック・波動の変調浄化・邪気、波動の消去・マイナス波動のプラス転換・波動の強化増幅まで自由にでき、必要な時間はそれぞれ3分もあれば充分です。OVOマインドエンジンは、いわば良質波動のレンズのようなもので、あなたの心身をシステムの一部として使用します。

### 注文方法

ハガキの裏面に住所、氏名、生年月日、年齢、職業、TEL、商品名、個数を必ず自筆で記入してください。印鑑を押していただいた後、ハガキに手、または足の指紋(どの指でも可)を朱肉かスタンプインキ(色は問いません)で押してから発送してください。当社口座に入金が確認され次第、作成にかかりますので、商品到着までに3~4週間かかることもあります。入金の際、下記の口座までお振り込み、または、現金書留、郵便為替でご送金ください。

●郵便局:口座名義 オフィス江戸幕府  
記号10120 番号36766381

●銀行:口座名義 オフィス江戸幕府  
第一勧業銀行 成増支店 普通口座 1682151

●現金書留●郵便為替  
〒171 東京都豊島区長崎1-28-23 Muse 西池袋8・9F  
株式会社オフィス江戸幕府  
UFOコンタクトー OVO マインドエンジン 3係

### ■OVOマインドエンジン・直径30ミリ石球共 ルミナ波動レンズ(19,800円 送料・消費税込)

40種類以上あるといわれる風水龍穴地の形を分析しさらに独自の技法で組み合わせた12種類の図形回路を作成。12種の基盤の内、2種類をあなたの波動に合わせて選び、エンゼルヘアークワーツ、レインボーライト、レッドジャスパーなどの30ミリ球とカップリングしてあなたの身体が発する中核波動を転写・調整してお届けします。稀少鉱石球もあなたの波動にあった石を選びます。



### ■OVOマインドエンジン フルパワーキット(127,000円 送料・消費税込)

太陽の波動を転写した80ミリ大型波動レンズ球と、スフィンクス(エジプト)の波動と月の波動を転写した60ミリ中型波動レンズ球、さらに定型波動レンズと同じく稀少鉱石球、ヒーリング・コンディショナーなどが、すべてセットになったお得なキットです。波動コントロールは勿論のこと。願望の具現化、霊的問題の解決、人間関係の円滑化、能力開発など様々な分野で活用でき、組み合わせで動作させることによってマル秘の活用法があります。



●その他・波動製品を作るためのプロフェッショナルキットやヒーリングのプロのための特注キットなど制作に応じますのでご相談ください。

■オフィス江戸幕府は、マインドケアに関するあらゆる歴史、文化を研究し、広布するための法人として設立されました。宗教、思想団体とは一切関係なく、メディアへの協力、コンサルティング、セミナー企画、カウンセリング、グッズの開発などを行っています。また、社内にマインド・アンティーク(いやしを与えるアンティーク)の博物館(日本初)があり、アンティークをリーズナブルな価格で展示、販売しています。(要電話予約制)

### 株式会社オフィス江戸幕府

〒171 東京都豊島区長崎1-28-23 Muse 西池袋8・9F

TEL 03-3957-4999

FAX 03-3957-4940

TEL・FAX  
24時間受付



●超稀少水晶、レコードキーパークリスタル、骸晶、レッドファントムクワーツ等、稀少鉱石を特別頒布します。詳しくはお問い合わせ下さい。